



C A L A M V S G L A D I O F O R T I O R

2026 年度

文学部
履修案内
(日吉キャンパス第1学年)

振鈴表

授業 振鈴表		
日吉	三田	矢上
1 時限 9:00~10:30	1 時限 9:00~10:30	1 時限 9:00~10:30
2 時限 10:45~12:15	2 時限 10:45~12:15	2 時限 10:45~12:15
3 時限 13:00~14:30	3 時限 13:00~14:30	3 時限 13:00~14:30
4 時限 14:45~16:15	4 時限 14:45~16:15	4 時限 14:45~16:15
5 時限 16:30~18:00	5 時限 16:30~18:00	5 時限 16:30~18:00
	6 時限 18:10~19:40	6 時限 18:10~19:40

定期試験・追加試験 振鈴表		
日吉	三田※	矢上
1 時限 9:00~10:00	1 時限 9:00~10:30	1 時限 9:00~10:30
2 時限 10:20~11:20	2 時限 10:45~12:15	2 時限 10:45~12:15
3 時限 12:20~13:20	3 時限 13:00~14:30	3 時限 13:00~14:30
4 時限 13:40~14:40	4 時限 14:45~16:15	4 時限 14:45~16:15
5 時限 15:00~16:00	5 時限 16:30~18:00	5 時限 16:30~18:00
6 時限 16:20~17:20	6 時限 18:10~19:40	
7 時限 17:40~18:40		

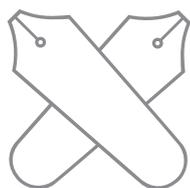
※追加試験(三田)の振鈴時間は、この一覧表とは異なります。

学生部開室時間

	日吉・三田・矢上
授業・定期試験のある時	平日(月~金) 8:45~16:45
授業のない時・追加試験期間 (夏季・冬季・春季休校中)	平日(月~金) 8:45~11:30 12:30~16:45 (三田学生部の開室時間は 8:45~16:45)

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。
変更等は適時 K-Support の News でお知らせします。

慶應義塾大学



C A L A M V S G L A D I O F O R T I O R

2026 年度

文学部 履修案内

(日吉キャンパス第1学年)

目 次

文学部における3つの方針

文学部役職者・専攻担任

日吉学習指導主任および副主任

2026年度日吉授業実施カレンダー

第1	はじめに.....	1
1	『履修案内』とは.....	1
2	まず注意.....	1
3	履修の基本知識.....	2
4	進級および卒業に必要な単位数.....	4
5	「遠隔（オンライン）授業」の単位数 上限について.....	5
第2	Web システム.....	6
1	塾生サイト.....	6
2	K-Support.....	6
3	keio.jp.....	8
第3	履修登録のながれ.....	10
1	履修にあたっての注意事項.....	10
(1)	履修上限単位.....	10
(2)	A 欄申告と B 欄申告.....	10
(3)	必修語学科目・「基礎情報処理」..	10
(4)	総合教育科目の選択.....	10
(5)	他地区設置授業を履修する場合 の注意事項.....	10
(6)	「遠隔（オンライン）授業」の 履修について.....	10
(7)	その他.....	11
2	履修の登録手続き.....	11
3	履修登録取消制度について.....	14
4	化学、生物学、物理学 自然科学科目（実験を含む）の履修....	15
5	体育科目の履修.....	15
6	他学部・他研究科学生の履修を制限する科目 （学部）.....	19
7	他学部・他研究科生による履修登録取消が 認められない科目（学部）.....	20
8	全学共通科目.....	21
第4	1年生用設置科目.....	22
1	必修語学科目および総合教育科目一覧	22
2	授業科目ナンバリング（K-Number） について.....	24
3	少人数科目.....	24
(1)	人文科学特論Ⅰ・Ⅱ／社会科学 特論Ⅰ・Ⅱ／自然科学特論Ⅰ・Ⅱ （総合教育科目各系列）.....	24
(2)	総合教育セミナーⅠ・Ⅱ （総合教育科目系列外）.....	24
4	総合教育科目（系列外）について.....	24
(1)	必修科目として履修しない 必修語学科目.....	24
(2)	教授会の認める各学部設置の 総合教育科目.....	25
(3)	教授会の認める研究所等附属施設 の授業科目または講座.....	25
5	総合教育科目に関する注意.....	25

第5	履修と学事についての注意事項.....	26
1	単位認定（新入生のみ）.....	26
2	成績評価と学業成績表.....	26
3	取得可能学位.....	27
4	教員を訪ねる場合.....	27
第6	専攻の選択と決定.....	28
1	専攻振り分け.....	28
2	日程.....	28
3	準備.....	28
4	各専攻で必修語学科目を履修する際の 注意.....	28
第7	2・3・4年生設置科目について.....	30
1	専門教育科目 （選択科目としても履修できる科目）....	30
2	学芸員資格の取得について.....	34
第8	専攻別内規および注意事項.....	35
第9	授業・試験・レポート・質問制度.....	86
1	授業.....	86
2	レポート.....	87
3	定期試験.....	87
4	追加試験.....	88
5	再試験.....	88
6	不正行為.....	89
7	試験における不正行為の取り扱いに 関する文学部内規.....	90
8	「成績評語に関する質問制度」に ついて.....	90
第10	学籍.....	91
1	休学.....	91
2	留学.....	91
3	退学.....	94
4	再入学.....	95
第11	諸届・学生証・証明書・その他.....	96
1	学生証.....	96
2	住所変更（本人・保証人）.....	96
3	保証人変更.....	97
4	改姓・改名（本人・保証人）.....	97
5	国籍変更.....	97
6	通学証明書（通学定期券の購入）.....	97
7	証明書（成績証明書・学割証等）.....	98
8	学生部の窓口.....	99
9	よくある質問.....	100
	日吉校舎案内.....	101
	日吉学生部案内・掲示板マップ.....	102

文学部における3つの方針

文学部の卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）は、以下のWebサイトに掲載しています。

文学部 Web サイト <http://www.flet.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学 学部入学案内 <https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/>

文学部役職者

学部長：佐藤 孝雄（民族学考古学）

日吉主任：市川 崇（仏文学）

学部長補佐：小平 麻衣子（国文学）

【日吉】 学習指導主任：小林 薫（諸言語）

学習指導副主任：越野 剛（諸言語）、佐藤 恵（独文学）、細野 香里（英米文学）

【三田】 学習指導主任：渡邊 福太郎（教育学）

学習指導副主任：館 葉月（西洋史学）、福島 幸宏（図書館・情報学）

文学部 専攻担任

専攻	専攻担任									
哲学	荒畑 靖宏	上枝 美典	柏端 達也	近藤 智彦	田中 泉史	平井 靖史	峯島 宏次			
倫理学	圓増 文	村上 暁子								
美学美術史学	青野 純子	金山 弘昌	後藤 文子	佐々木康之	内藤 正人	中尾 知彦	西川 尚生	福田 弥	望月 典子	
日本史学	十川 陽一	藤本 誠	前田 廉孝							
東洋史学	岩間 一弘	勝沼 聡	五味 知子	長谷部史彦	藤木 健二					
西洋史学	赤江 雄一	館 葉月	野々瀬浩司	長谷川 敬	山道 佳子					
民族学考古学	安藤 広道	三木 健裕	山口 徹	渡辺 丈彦						
国文学	岡田 一祐	小川 剛生	恋田 知子	新沢 典子	田口 暢之					
中国文学	杉野 元子	須山 哲治	丁 雷	松倉 梨恵	吉永 壮介					
英米文学	井上 逸兵	岩田 美喜	佐藤 光重	高橋 勇	徳永 聡子					
独文学	片山由有子	川島建太郎	糸川麻里生	佐藤 恵	田中 愼	平田栄一郎				
仏文学	上杉 誠	大鷲健太郎	川村 文重	竹中 公二	森元 規裕					
図書館・情報学	安形 麻理	永崎 研宣	福島 幸宏	松本 直樹	宮田 洋輔					
社会学	李 光鎬	小倉 康嗣	檜尾 直樹	木下 衆	阪井裕一郎	杉浦 淳吉	近森 高明	藤野 陽平		
心理学	板口 典弘	大森 貴秀	北 洋輔	寺澤 悠理	兎田 幸司					
教育学	綾井 桜子	伊藤 敦広	川口 純	川本 哲也	山梨 あや					
人間科学	稲葉 昭英	上島 淳史	織田 輝哉	北中 淳子	佐川 徹	菅 さやか	常松 淳	平石 界		

日吉学習指導主任および副主任

所属学部	学習指導
文学部	主任：小林 薫 副主任：越野 剛、佐藤 恵、細野香里
経済学部	主任：石川昌治 副主任：石井 明、佐藤正樹、中川真知子、松岡和美、湯川やよい
法学部	主任：佐藤元状 副主任：近藤康裕、村上由美、浜田和範、島田美和、林 良信、熊野谷葉子
商学部	主任：佐野真一郎 副主任：安井 伸、市川佳世子、代 珂
医学部	主任：ホップス、ジェイムズ
理工学部	外国語・総合教育 主任：荒金直人 副主任：石田真子、池田真弓
	基礎系 主任：杉本麻樹 副主任：田口良広、山本崇史
薬学部	主任：井上賀絵 副主任：植村良太郎
体育研究所	主任：坂井利彰 副主任：鳥海 崇、林 卓史

(1) 履修申告前の学習指導相談

履修についての質問、相談に所属学部学習指導担当教員が応じています。各学部の実施方法やスケジュールはWeb等で案内します。また、日吉学生部所属学部窓口（巻末の日吉学生部案内参照）でも相談を受け付けます。

(2) 履修申告後の学習指導相談

日吉学生部所属学部窓口で、随時、相談を受け付けます。

2026年度 日吉授業実施カレンダー

- ・ カレンダー上の囲み数字は、各曜日毎の授業回数を表します。
- ・ 定期試験、追加試験の日程はすべて予定です。

2026年 4月

 ①-⑭：2学期制科目の春・秋学期の回数
 ①-⑭：4学期制科目の春前半・秋前半の回数
 ①-⑭：4学期制科目の春後半・秋後半の回数

 授業期間
 休校期間
 休 日

日	月	火	水	木	金	土
4月4日(土)～9日(木)健康診断(日曜日を除く) 詳細は保健管理センター Web サイトを必ずご確認ください。(www.hcc.keio.ac.jp/ja/)						
				1	2	3
				入学式(予定)〔入学後の行事と諸手続きについて〕参照 ガイダンス(1日～7日)		4
					履修申告期間(一次)(3日12:30～6日16:00)	
5	6	7	①①②	8	①①②	9
		履修調整結果発表(日吉設置の総合教育科日ほか)(16:00)	春学期授業開始 春学期前半科目授業開始			10
			履修申告期間(二次)(7日16:00～15日10:00)			
						11
12	①①②	13	①①②	14	②③④	15
				②③④	16	②③④
						17
						18
19	②③④	20	②③④	21	③⑤⑥	22
				③⑤⑥	23	③⑤⑥
				開校記念日 (授業は通常どおり実施)	24	③⑤⑥
				履修エラー修正期間(21日8:45～22日16:00)		25
26	③⑤⑥	27	③⑤⑥	28	④⑦⑧	29
				昭和の日 (授業は通常どおり実施)	30	
				履修登録取消期間(29日10:00～30日16:00) ※対象:通年(セット)・春学期・春学期前半科目		中旬:学費に関するご案内

5月

日	月	火	水	木	金	土
					④⑦⑧	1
						④⑦⑧
2						
3	憲法記念日	4	5	6	7	8
	みどりの日	こどもの日	振替休日	⑤⑨⑩	⑤⑨⑩	⑤⑨⑩
9						
10	④⑦⑧	11	④⑦⑧	12	⑤⑨⑩	13
						14
						15
						16
17	⑤⑨⑩	18	⑤⑨⑩	19	⑥⑪⑫	20
					⑦⑬⑭	21
						22
						23
24	⑥⑪⑫	25	⑥⑪⑫	26	⑦⑬⑭	27
					⑧⑯⑰	28
					春学期後半科目授業開始	29
					春学期・通年休学願提出期限	30
31						早慶野球戦(予定)

6月

※「試験日」のうち、6/5(金)の4～6限は日吉キャンパスの学期前半試験が行われる場合があります。
 ※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
	⑦⑬⑭	1	⑦⑬⑭	2	⑧⑯⑰	3
		春学期前半科目授業終了			補講日/試験日	4
					補講日/試験日	5
						⑨⑱⑲
6						
7	⑧⑯⑰	8	⑧⑯⑰	9	⑨⑱⑲	10
					⑨⑱⑲	11
					⑨⑱⑲	12
						⑩⑳㉹
13						
14	⑨⑱⑲	15	⑨⑱⑲	16	⑩⑳㉹	17
					⑩⑳㉹	18
					⑩⑳㉹	19
						⑪㉺㉻
20						
21	⑩⑳㉹	22	⑩⑳㉹	23	⑪㉺㉻	24
					⑪㉺㉻	25
					⑪㉺㉻	26
						⑫㉻㉼
27						
28	⑪㉺㉻	29	⑪㉺㉻	30		
					履修登録取消期間(24日10:00～25日16:00) ※対象:春学期後半科目	

7月

※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土						
上旬：定期試験時間割発表 上旬～下旬：追加試験申込受付			12④⑩	1	12④⑩	2	12④⑩	3	13①⑫	4		
5	12④⑩	6	12④⑩	7	13①⑫	8	13①⑫	9	13①⑫	10	14⑧⑬	11
12	13①⑫	13	13①⑫	14	14⑧⑬	15	14⑧⑬	16	14⑧⑬	17	補講日	18
19	14⑧⑬ 海の日 (授業は通常どおり実施)	20	14⑧⑬ 春学期授業終了 春学期後半科目授業終了	21	春学期末定期試験(22日～31日)(予定)							
26		27	28	29	30	31						

8月

日	月	火	水	木	金	土	
上旬～9月：体育実技 (シーズン・スポーツ)						1	夏季休校(~9月21日)
2	3	4	5	6	7	8	春学期末追加試験
9	10	11	12	13	14	15	山の日 春学期末追加試験(8日、10日、12日)(予定)
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30	31						

9月

日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	春学期成績発表
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	卒業式
20	21	22	23	24	25	26	敬老の日 国民の休日 秋分の日 入学式 履修申告期間(一次)(25日12:30～28日16:00)
27	28	29	30	履修調整結果発表(日吉設置の総合教育科目はか)(16:00) 履修申告期間(二次)			

10月

日	月	火	水	木	金	土
				11①② 1 秋学期授業開始 秋学期前半科目授業開始 履修申告期間(二次)(9月29日16:00~10月8日10:00)	11①② 2	11①② 3
4	11①②	5	11①②	6	11①②	7
8	23④	9	23④	10	23④	11
11	23④ スポーツの日 (授業は通常どおり実施)	12	23④	13	23④	14
15	35⑥	16	35⑥	17	35⑥	18
18	35⑥	19	35⑥	20	35⑥	21
21	47⑧	22	47⑧	23	47⑧	24
25	47⑧	26	47⑧	27	47⑧	28
28	59⑩	29	59⑩	30	59⑩ 早慶野球戦(予定)	31

11月

※「試験日」のうち、11/18(水)1~2限は日吉キャンパスの学期前半試験が行われる場合があります。
 ※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
1	59⑩	2	59⑩ 文化の日 (授業は通常どおり実施)	3	59⑩	4
6	61⑫	7	61⑫	8	61⑫	9
12	71⑬	13	71⑬	14	71⑬	15
15	71⑬	16	71⑬	17	午前:補講日/試験日 午後~三田祭準備(休校)	18
19	三田祭準備(休校)	20	三田祭(休校)	21	三田祭(休校)	22
22	三田祭 三田祭 勤労感謝の日	23	三田祭片付け(休校)	24	71⑬ 秋学期前半科目授業終了	25
26	81⑰	27	81⑰	28	81⑰	29
29	81⑰ 秋学期休学願提出期限	30				

12月

日	月	火	水	木	金	土
	中句:専攻志望Webエントリー・志望理由書提出(必須)	81⑰	1	81⑰	2	81⑰
3	93⑳	4	93⑳	5	93⑳	6
6	93⑳	7	93⑳	8	93⑳	9
10	105㉔	11	105㉔	12	105㉔	13
13	105㉔	14	105㉔	15	105㉔	16
16	105㉔	17	105㉔	18	117㉔	19
20	117㉔	21	117㉔	22	117㉔	23
23	117㉔	24	117㉔	25	129㉔	26
27		28		29		30
31						

**2027年
1月**

※「月曜代替講義日」には実際の曜日にかかわらず月曜日として授業が行われます。
 ※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土					
中旬：定期試験時間割発表 中旬～2月上旬(予定)：追加試験申込受付						1	2				
						元日 冬季休校					
3	4	12 9 10 授業開始	5	12 9 10	6	12 9 10	7	12 9 10	8	13 11 12	9
10	11	13 11 12	12	13 11 12	13	13 11 12	14	13 11 12	15	14 16 17	16
17	18	14 16 17	19	14 16 17	20	14 16 17	21	14 16 17	22	補講日	23
24	25	14 16 17 秋学期授業終了 秋学期後半科目授業終了	26	27	28	29	30	秋学期末定期試験(26日～2月5日(予定))			
31											

2月

日	月	火	水	木	金	土						
上旬：体育実技(シーズン・スポーツ) 下旬(予定)：秋学期末追加試験												
1	2	3	4	5	6	7						
						福澤先生生日	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20						
21	22	23	24	25	26	27						
28												

3月

日	月	火	水	木	金	土
中旬：学業成績表 Web 公開 *2年次からの専攻名を記載しています。						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	翌年度ガイダンス(25日～31日)			

1 『履修案内』とは

この冊子は文学部1年生を対象とし、履修に関連するものを中心に、文学部で学び、進級・卒業するために必要な基本的な手続きを説明するものです。諸手続きがもつ規則については、後述する『学部学則』を併読してください。

履修とは、受講する科目の受講者名簿に自分を登録することです。正しく履修登録されないと、授業に出席し試験や課題をこなしても、成績がつかえません。したがって進級や卒業に必要な単位も得られません。

文学部での大学生活を充実させるためには、文学部での学びの仕組みをよく理解し、活用することが肝要です。1年生で何をどのように履修するのが、2年生への進級や、それに伴う専攻の選択はもちろん、3・4年生への進級、さらには卒業にも大きく影響します。

履修トラブルの大部分は、仕組みの理解不足、『履修案内』や『学部学則』をよく読まないために引き起こされます。そのような問題を起こさないよう、自己責任を自覚し、くれぐれも注意してください。

2 まず注意

(1) ガイダンスに出席、Web サイト、掲示板に注目

・各種ガイダンスでは、重要事項、最新の情報を集中的に説明・告知します。自分が参加すべきガイダンスを確認の上、必ず出席してください。(本書とは別に配布される「入学後の行事と諸手続きについて」を参照してください。) 日吉キャンパス設置科目の時間割・教室変更、休講・補講、各種試験の実施要項、学事日程、緊急通達、呼出等の各種お知らせは K-Support、塾生サイト等に掲載しますので、必ずそちらを確認してください。他キャンパス設置科目についての情報は、同様に K-Support、塾生サイト等およびその科目を設置しているキャンパスの掲示板等を確認してください。日吉キャンパス掲示板マップ(第4校舎B棟1階)は本書 p. 102 に掲載されています。

(2) 締切を厳守

各種手続きの締切を見落とさず、厳守してください。履修にあたり、ガイダンス期間や事前の申し込み等が必要な科目があります。Web 上の『シラバス・時間割』をよく読み、Web サイト、掲示板等に注意してください。

(3) 窓口と手続きを確認

履修申告に先立ち、研究所等での手続きが必要な科目があります。Web 上の『シラバス・時間割』をよく読み、掲示板等に注意してください。

(4) 伝聞や憶測は危険

履修手続き、学則とその運用は、年度ごとに更新されます。上級生や同級生の経験談、風説などに頼ってはいけません。必ず各種ガイダンスに出席の上、この『履修案内』と『学部学則』を熟読し、さらに Web サイト、掲示板等を確認して手続きを進めてください。それでも分からない場合は、学習指導相談や学生部文学部窓口で質問してください。

(5) 他の情報源

『学部学則』(別冊子)

大学が制定する諸規程のうち、学務に関する事項、入学・退学・卒業、学生の身分に関する取扱い、入学試験、学位、そして教育課程に関する事項が記述されています。『履修案内』と併せて熟読してください。略して「学則」とも呼びます。

『講義要綱・シラバス』『語学科目履修案内』『時間割』(Web)

授業内容、授業の計画、教科書、成績評価方法等の詳細は、Web 上の「シラバス・時間割」で閲覧してください。講義要綱・シラバスは「K-LMS」(本書 p. 6) から利用できます(K-Support にログイン後、「K-LMS」を選択)。所属学部・学年の時間割からの検索や、他学部の科目も含めた曜日時限・設置学部・キーワード等を入力しての検索が可能です。

今年度の『時間割』は、Web から PDF ファイルで参照することも可能です。

塾生サイト <https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/>



3 履修の基本知識

まず一度、以下の用語説明を通読してください。いずれも卒業までの大学生活でよく用いる言葉です。理解が曖昧だと、思わぬ間違いを引き起こします。また『履修案内』は、これらの用語を理解しているものとして書かれています。必要に応じ、このページに戻って用語を確認して下さい。

学部学則（あるいは学則）

大学が制定する諸規程のうち、学務、教育課程、進級・卒業・退学などについて記述しています。黄色い小冊子として配布済みです。『履修案内』と併せて熟読してください。

履修申告

履修する科目の受講者名簿に自分を登録する手続きです。不備があると登録されず、試験を受けるなどしても成績評語がつきません。通年科目、セット科目、春学期科目（4学期制科目を含む）は4月、秋学期科目（4学期制科目を含む）は9月～10月に履修申告します。指定された期間内に申告しないと、修学の意志なしとみなされ、退学処分となることがあります。

年度・学期・通年・半期

各年度（4月から翌3月まで）を半年ずつに2分し、それぞれを半期と呼びます。年度前半の半期が春学期、後半の半期が秋学期です。春・秋学期を通しての一年間全体は通年と呼びます。

コマ

時間割上で授業を数える際の単位です。1週間に1回（90分）開講される授業は「週1コマ」と言い、週2回（90分×2）開講されるなら「週2コマ」と言います。

科目

半期あるいは通年で開講され、合格により単位を修得できる授業を「科目」と呼びます。（「英語Ⅰ」「心理学Ⅱ」など）必修語学科目のように、同じ科目名で内容の異なるものが複数設置されている場合、それぞれを「クラス」と呼びます。（「英語Ⅰ」火曜2限〇〇先生のクラス、など）

単位

- ・履修登録された科目に合格することにより、決められた単位を修得できます。その種類と修得数により、進級や卒業が判定されます。
- ・科目の種類ごとに与えられる単位については、「科目の種類（授業形態による分類・単位数）」を参照してください。

科目の種類（開講期間・設置形態による分類）

【半期科目】

春学期あるいは秋学期の一方だけで完結し、その学期末に成績がつく科目です。文学部が日吉に設置している科目では、春学期科目には科目名の後ろに「Ⅰ」が付き、秋学期科目には「Ⅱ」が付きます。総合教育科目などが該当します（「社会学Ⅰ」「倫理学Ⅱ」など）。

【セット科目】

春学期開講の「Ⅰ」と秋学期開講の「Ⅱ」を必ずセットで履修しなければならない科目です。実質上、通年で運用されます。春学期末には成績がつかず、学年末に春・秋学期双方の成績がつきます。必修語学科目などが該当します。

【通年科目】

春・秋学期に分けられておらず、通年で1つとして設置される科目です。学年末に1年分の成績がつきます。（1年生の科目に該当するものではありません。）

【要件科目】

春学期科目（Ⅰ）を修得しなければ、秋学期科目（Ⅱ）を履修できない科目です。（1年生の科目に該当するものではありません。）

【半期集中科目】

半期に週2コマ開講される科目です。（1年生の科目に該当するものではありません。）

【4学期制科目】

春学期と秋学期のそれぞれ前半・後半に開講されます。該当する科目は時間割や履修申告画面の学期欄に「前半」「後半」と合わせて表示されます。履修申告は前半・後半に関わらず各学期で指定された期間に行ってください。

科目の種類（授業形態による分類・単位数）

【講義科目】

- ・担当教員による講義が行われる科目です。
- ・合格により半期科目は2単位、通年科目は4単位、半期集中科目（週2コマ）は4単位を修得できます。総合教育科目の多くが該当します。

【演習科目】

- ・比較的少人数で、履修者に積極的な参加が求められる科目です。
- ・合格により半期科目は1単位または2単位、通年科目は2単位または4単位を修得できます。
- ・1年生では、必修語学科目、総合教育科目系列外の語学科目などが該当します。

【自然科学実験科目】

- ・講義と実験を組み合わせた科目です。半期、週1回、2時限連続で開講されます。
- ・合格により3単位を修得できます。
- ・履修にあたっては本書 p. 15 を参照してください。

科目の種類（履修形態と進級・卒業単位計算上の分類）**【必修科目】**

- ・進級あるいは卒業のために必ず修得しなければならない科目です。1年生では、必修語学科目が該当します。
- ・修得した単位は、進級・卒業に必要な単位に算入されます。

【選択科目】

- ・自らどれを履修するかを選択し、修得する科目です。1年生では、総合教育科目が該当します。
- ・修得した単位は、進級・卒業に必要な単位に算入されます。

【自由科目】

- ・自らどれを履修するかを選択し、修得する科目です。
- ・進級・卒業に必要な単位には算入されません。
- ・同じ名前の科目を重複して履修する場合の2つ目以降（必修語学科目、体育科目は例外とする）、文学部の時間割にない他学部総合教育科目などは「自由科目」として履修します。詳細は本書 p. 10 を参照してください。

科目の種類（内容・専門性による分類）**【必修語学科目】**

- ・外国語を学ぶことにより、視野を広げると共に、専門課程への基盤を築くための科目です。
- ・2年生、3年生に進級するためには、1年生、2年生それぞれで必要単位を修得しなければなりません。本書 p. 4「進級に必要な単位数」を参照して下さい。

【総合教育科目】

- ・多様な学問領域を学ぶための科目です。卒業までに人文科学・社会科学・自然科学の3系列から各8単位以上、系列外科目も加え、計38単位以上を修得しなければなりません。
- ・進むべき専攻を的確に選ぶ上で、また2年生以降の負担を減らすためにも、設置数が多く、カリキュラムに余裕のある1年生の間に積極的に履修してください。

【専門科目】

- ・学問領域を専門的に学ぶための科目です。
- ・日吉キャンパスには設置されていません。また1年生は三田キャンパス設置科目を履修できないため、専門科目を履修することはできません。

進級

文学部は学年制を採用しています。次の学年に進級するためには、定められた数と種類の単位を修得することが必要です。詳細は本書 p. 4「進級に必要な単位数」を参照してください。

原級

進級・卒業に必要な条件を満たせない場合、落第し同じ学年に留まります。これを原級（原級留置）と呼びます。

卒業

文学部を卒業するためには、決められた数と種類の単位を修得することが必要です。詳細は p. 5「卒業に必要な単位数」を参照してください。

専攻振り分け

- ・2年生から専門課程に進み、17の専攻に分かれます。10月中旬、12月上旬に関連ガイダンスが行われ、12月中旬に志望専攻のエントリーと志望理由書を提出し、3月中旬に専攻が決定します。受入数を設けている専攻では、志望者が受入数を超えた場合、志望理由書や面接、GPAにて選考を行います。
- ・各専攻が扱う学問領域を知るためにも、4月の総合教育科目選択が重要です。p. 28「専攻の選択と決定」を参照して下さい。

クラス

- ・文学部1年生は、履修する必修語学科目により1組から37組のいずれかに所属します。専任教員がクラス担任を務め、学習上・生活上の相談を受け付けます。
- ・名称が同じ「科目」のバリエーションそれぞれのことを「クラス」と呼ぶことがあります。（本書 p. 2「科目」の項を参照）

留学

1年生での留学は認められていません。2年生以降での留学を検討する場合、国際センター主催による「留学フェア」（例年6月開催）などを活用し、1年生から情報の収集・準備を始めて下さい。

4 進級および卒業に必要な単位数

(1) 進級に必要な単位数

- ・2年生進級には、必修語学科目と総合教育科目を合わせ **26 単位**（必修語学として英語＋他語種を履修した場合）あるいは **28 単位**（英語以外の2語種を履修した場合）の修得が必要です。
- ・進級に必要な単位を修得できない場合、落第し原級に留まります。
- ・履修申告にあたっては、以下の進級条件、後述の卒業条件を念頭に置き、余裕のある履修計画を立ててください。

必修語学科目

- ・英語を選択する場合は週2コマ（通年合計4単位）、他語種は週3コマ（通年合計6単位）を履修します。
- ・留学生の必修語学は原則として英語と日本語（ただし、英語を母語とする留学生は、英語以外の外国語と日本語）ですが、特別な場合には他の言語を選択することも可能です。ただし、その際は学習指導の承認が必要です。また、母語以外の語種に限ります。
- ・2年生への進級条件：英語は通年合計2単位、他語種は言語ごとに通年合計4単位を修得しないと、2年生へ進級することはできません。
- ・3年生への進級条件：14単位語学専攻では、1年生で修得した必修語学科目2語種、計10単位（英語を選択しない場合は12単位）に加えて、2年生で各専攻が指定する語種4単位の計14単位（英語を選択しない場合は計16単位）、18単位語学専攻においては、必修語学科目として英語8単位、中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語10単位の中から、いずれか2語種、計18単位（英語を選択しない場合は計20単位）を修得しないと、3年生へ進級することができません。

必修語学科目の進級条件

1年	語種(*)		英語とそれ以外の1語種を履修する場合	英語以外の2語種を履修する場合
		英語	4単位のうち2単位	—
	ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・ロシア語・スペイン語・イタリア語 日本語（留学生）	左記の語種から、 1語種6単位のうち 4単位	左記の語種から、2語種 各6単位のうち各4 単位	
	小計	6単位	8単位	
2年 (専攻により異なる)	1語種専攻	国文学	1年次履修した2語種の うち、いずれか1語種 4単位	1年次履修した2語種の うち、いずれか1語種 4単位
		中国文学 (***)	中国語 4単位	中国語 4単位
		独文学	ドイツ語 4単位	ドイツ語 4単位
		仏文学	フランス語 4単位	フランス語 4単位
		小計	4単位	4単位
	1語種専攻 1年・2年合計	14単位	16単位	
	2語種専攻	哲学系・史学系各専攻、英米文学専攻、 図書館・情報学専攻、人間関係学系各 専攻	1年次履修した語種と 同一の2語種 (**) 各4単位 (8)	1年次履修した語種と 同一の2語種 (**) 各4単位 (8)
小計		8単位	8単位	
	2語種専攻 1年・2年合計	18単位	20単位	

- (*) 1年生の必修語学科目のうち未修得単位は、2年生終了までに修得しなければなりません。2年次のカリキュラムは、1年次の必修語学科目（2語種計10単位、英語を履修しない場合は計12単位）をすべて修得していることを前提としています。必修語学科目を一部を修得しないまま進級した場合、2年生の履修、3年生への進級に大きな支障を生じます。できるだけ1年生で全単位を修得してください。
- (**) 東洋史学専攻の2年生は、1年生で履修した2語種のうち、1語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれか一つに変更することができます。詳細は東洋史学専攻ガイダンスまたは専攻内規で確認してください。
- (***) 中国語を母語とする留学生は、原則として日本語を履修してください。詳細は中国文学専攻の専攻内規で確認してください。

総合教育科目

- ・上の条件を満たすには、総合教育科目を16単位以上（必修語学科目の一部が未修得な場合は、その分を追加して）修得し、合計26単位以上（必修語学として英語＋他語種を履修した場合）あるいは28単位以上（英語以外の2語種を履修した場合）を修得しなければなりません。
- ・卒業条件である38単位（人文科学・社会科学・自然科学各系列からのそれぞれ8単位以上を含む）を念頭に置き、1年生の間に積極的に修得してください。（後述「卒業に必要な単位数」を参照）
- ・人文科学・社会科学・自然科学の各系列からそれぞれ8単位以上を修得すれば、残り単位をすべて系列外科目によって満たすこともできます。

- ・三田キャンパスでの設置数は限られ、また2年生以降は演習科目が増えるため多忙です。卒業までに履修すればよいとは考えず、できるだけ1年生の間に修得し、2年生以降での負担を減らしてください。
- ・研究所等による科目、文学部時間割に記載されていない科目の履修にあたっては、p. 10「A欄申告とB欄申告」およびp. 11「諸研究所設置科目の履修」「他学部設置科目の履修について」を参照してください。

(2) 卒業に必要な単位数

卒業するためには次の表に示してあるように合計128単位以上を修得し、かつ卒業試験に合格しなければなりません。卒業必要単位は128単位以上で次の科目から構成されます。(英語を選択しない場合は130単位以上)

科 目	単 位 数	
総合教育科目	38 単位以上	人文科学系列 社会科学系列 自然科学系列 系列外科目 各系列最低 8 単位以上
必修語学科目 (p. 4 参照)	国文学、中国文学、独文学、仏文学専攻	14 単位 英語を選択しない場合 16 単位
	上記 4 専攻以外のすべての専攻	18 単位 英語を選択しない場合 20 単位
専門教育科目 ※	国文学、中国文学、独文学、仏文学専攻	76 単位以上
	上記 4 専攻以外のすべての専攻	72 単位以上
合 計	128 単位以上 英語を選択しない場合 130 単位以上	

※専門教育科目については、上記単位数のみから、卒業要件を満たしているとは判断できません。必ず p. 35～各専攻別内規に従ってください。

5 「遠隔(オンライン)授業」の単位数上限について

2022年度以降の授業について、「大学設置基準」(文部科学省令)に基づき、大学学部(学士課程)に卒業要件単位数として含めることができる「遠隔(オンライン)授業」(※)の単位数上限は、60単位と学部学則に明記されました。

各自、授業科目ナンバリング(K-Number)(本書 p. 24)の授業形態項目などを確認し、卒業まで計画的な履修を行ってください。

参考：文部科学省 告示・通達 大学等における遠隔授業の取扱いについて(周知)

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00027.html

(※)「遠隔(オンライン)授業」とは、全体の講義回数のうち、対面以外で実施される講義回数が、半数を超える授業と定められています。

ただし、2021年度以前にオンライン授業で修得した単位については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による特例措置として、上限の対象外となります。

1 塾生サイト

https://www.students.keio.ac.jp/	塾生の皆様に向けた各種情報を提供しています。
ログイン ID・パスワードは不要です。	
主な提供サービス： ■授業／履修／試験 履修案内／シラバス／時間割（PDF）の公開等 ■学生生活／就職・進路 窓口利用案内／イベントや奨学金についての情報等	

2 K-Support



K-Support は在学生を対象としたポータルサイトです。大学からのお知らせ、自分宛のメッセージの確認、各種申請・問い合わせ等を行うことができ、学生の皆さんの学生生活のサポートや、学びの促進を目的としています。また、各種アプリケーションへのリンクも集約されています。学生生活において必要不可欠なポータルサイトですので、ブックマークするなどしてすぐにアクセスできるようにしてください。



■ ホーム画面

Messages	大学から学生個人宛のお知らせや呼び出しが表示されます。履修や学生生活に関する重要な事項を含みますので、 <u>常に確認するようにしてください。</u>
News	大学からのお知らせやイベント案内を掲出します。履修や卒業に関する重要なニュースも掲出されますので、 <u>随時確認してください。</u>
K-LMS	主に学修支援を目的としたシステムです。教材配布・レポート提出・お知らせ・ディスカッション等の機能を提供しています。 履修参加に欠かせないシステムですので、よく確認してください。
休講・補講	休講・補講のある授業の一覧が表示されます。休講・補講情報は変更されることがありますので、当該授業の前にも確認するようにしてください。
履修申告	履修申告・履修取消・新規履修申告科目なし申告を行うシステムです。履修申告期間中は申告内容の修正を行うことができます。履修申告のルールは各学部で異なるので、不明な点は各学部担当に確認してください。
登録済科目	履修中科目の一覧を表示します。科目が正しく登録できているか必ず確認してください。また、教室情報の確認も可能です。
学業成績表	学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、学部・研究科・学年等で異なります。詳細は塾生サイトで告知します。

■ 申請 ※主な申請を掲載しています。

本人情報	
住所確認・変更 (本人・保証人)	本人および保証人の連絡先を確認できます。変更がある場合は直ちに手続きを行ってください。

学生証・再交付	学生証を紛失、汚損した場合はこちらから申請してください。詳細は塾生サイトまたは p. 96 を確認してください。
証明書発行 (厳封・特殊証明書等)	証明書発行サービスから発行できない証明書(厳封、各種資格、リクエストフォーム、海外への直送)の発行を希望する場合はこちらから申請してください。詳細は塾生サイトまたは p. 98 を確認してください。
保証人変更	左記の情報をシステム上で変更申請することが可能です。詳細は塾生サイトまたは p. 97 を確認してください。
改姓改名(本人)	
改姓改名(保証人)	
海外住所登録(本人)	
海外住所登録(保証人)	
国内緊急連絡先	
在留情報登録	在留カードの更新、在留資格や身分に変更が生じた場合は、こちらから情報を登録してください。
休学願	休学はこちらから申請してください。休学に関しては塾生サイトまたは p. 91 を確認してください。
国外留学	留学はこちらから申請してください。留学に関しては塾生サイトまたは p. 91 を確認してください。
就学届	教授会で承認された休学・留学期間が終了した際は、速やかにこちらから就学届を申請してください。詳細は塾生サイトまたは p. 91 を確認してください。

授業	
成績評語に関する質問制度	成績評語に関する質問制度はこちらから申請してください。成績評語に関する質問制度については p. 90 を参照してください。
合理的配慮申請	障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある学生は、修学上の困難に対し、合理的配慮の申請をすることが可能です。
追加試験申請	履修申告した授業科目の定期試験を、病気や不慮の事故等、やむを得ない理由で受けることができなかった場合には、こちらから所定の期間に追加試験を申請してください。なお申請が認められる条件等詳細は、本書 p. 88 や塾生サイトを参照してください。

■ アンケート

授業評価の入力、結果確認が可能です。

授業評価については K-Support ニュース等でご案内します。

■ FAQ・問い合わせ

よくある質問の確認や、学生部への問い合わせを行うことができます。

学生生活において不明な点や相談したい点がある場合、こちらを参照してください。

■ Apps (抜粋)

学生生活を送るうえで必要なサービスやシステムをまとめています。

○ Google Workspace

Google 社が提供する Web アプリで、メール(慶應メール)、ドライブ、カレンダー、グループ、連絡先、Gemini、NotebookLM などのサービスが利用できます。

なお、生成 AI の利用にあたっては、各種ガイドライン(本書 p. 90 参照)や教員の指示を遵守してください。

○ 授業

システム名	主管部署	説明
K-LMS: 学修支援システム (Canvas LMS)	KIC	主に学修支援を目的としたシステムです。教材配布・レポート提出・お知らせ・ディスカッション等の機能を提供しています。
シラバス・時間割検索	学生部	履修科目を選択する際や、授業内容を把握し単位を修得するために必要な授業内容、授業の計画、教科書、成績評価方法等の情報が記載されています。履修申告を行う際には必ずシラバス・時間割を確認したうえで履修科目の決定を行ってください。
履修申告	学生部	履修申告・履修取消・新規履修申告科目なし申告を行うシステムです。履修申告期間中は申告内容の修正を行うことができます。履修申告のルールは各学部で異なるので、不明な点は各学部担当に確認してください。
登録済科目確認	学生部	履修中科目の一覧を表示します。科目が正しく登録できているか必ず確認してください。また、教室情報の確認も可能です。

休講・補講・任意設定講義情報	学生部	休講・補講のある授業の一覧が表示されます。休講・補講情報は変更されることがありますので、当該授業の前にも確認するようにしてください。
学業成績表	学生部	学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、学部・研究科・学年等で異なります。詳細は塾生サイトで告知します。
Web エントリーシステム	学生部	事前抽選が必要な科目の抽選申込み（エントリー）を行うシステムです。ただし、科目によっては Web を使わずにエントリーシートを窓口へ提出する場合があります。また、受付期間が科目ごとに異なります。
教職課程	学生部	「教職課程登録」「教職介護等体験申込み」「教員免許状一括申請」を行うシステムです。受付期間がそれぞれ異なりますので、よく確認してください。

○学生生活・奨学金・学費

システム名	主管部署	説明
医療給付申請	学生部	学生健康保険互助組合の医療給付申請に必要な申請書を作成できます。
学生団体活動支援システム	学生部	団体情報の登録、学生責任者や会長の変更申請、各種届出書のダウンロード、学外行事届・海外活動申請書の提出等、団体運営に関する各種申請等が可能です。また、公認申請もこちらのシステムから行います。
奨学金 Web 申請システム	学生部	学内の奨学金および民間団体・地方公共団体の奨学金申請の際に必要な奨学金申請書／選考シートを作成できます。不備書類の連絡や申請・受給状況の確認もこのシステム上で行います。 ※外国籍の学生は、在留資格が法定特別永住者、永住者、定住者、日本人（永住者）の配偶者または子、家族滞在の者のみ利用可。
学費 Navi	財務部	在学中の学費に関する情報の閲覧や納入履歴の確認、学費納入に関する手続を行うシステムです。納入証明書発行や返金手続のための口座登録等も可能です。

○サービス

システム名	主管部署	説明
ソフトウェアライセンス取得システム	KIC	義塾が契約を結んでいるソフトウェアのライセンス配布システムです。
感染症罹患報告	保健管理センター	学校感染症に罹患した場合、保健管理センターへの届け出が必要です。確認の上、必ず報告してください。
証明書発行サービス	学生部	学内証明書発行機、全国のコンビニエンスストアで証明書を発行できるサービスです。また、電子証明書（PDF）のオンライン送付も可能です。証明書発行についての詳細は p. 98 を参照してください。

○就職・進路

就職活動の基礎知識を総覧できるウェブサイトや、先輩たちが書き記してくれた就活体験記を閲覧できます。

○keio.jp 関連設定

keio.jp を使用するために必要な設定を行うことができます。keio.jp については次項を参照してください。

3 keio.jp

keio.jp は「慶應義塾共通認証システム」の通称で、義塾が提供する各種オンラインサービスを安全かつ便利に利用するための認証システムです。義塾が提供するサービスを利用するためには、原則として keio.jp によるログイン認証が必要となります。

keio.jp に関するマニュアルは、以下を参照してください。

https://www.itc.keio.ac.jp/ja/keiojp_manual.html

パスワードの再発行窓口は、以下のとおりです。

ログイン ID	再発行窓口	必要書類
慶應 ID	各キャンパス KIC 窓口	学生証

1 履修にあたっての注意事項

履修申告にあたっては、『履修案内』（本書）や K-Support、塾生サイト等を参照のうえ、誤登録・申告漏れなどのないよう十分注意をしてください。また、履修申告（K-Support（<https://keio.jp/>）の「履修申告」により登録）を行っても、履修調整により不許可となる場合や、不備のため修正が必要となる場合がありますので、必ず本章の流れに従い、必要な手続きを行ってください。これらを怠った場合は、塾生本人の責任になりますので注意してください。また、申告の際には以下にも注意してください。

(1) 履修上限単位

- ・1年生が履修申告できる上限は48単位（半期上限30単位）です。春あるいは秋学期に30単位を履修する場合、もう一方の学期には18単位までしか履修できません。累積GPAが3.0以上である、もしくは教職課程／文学部における資格取得に関する登録を行っている学生は、この上限にかかわらず自由科目を履修することが認められています。上記の条件を満たしていない学生は、履修単位数が50単位を超過する場合、学習指導面談の上で履修の見直しを行うことがあります。
- ・半期上限単位には、必修語学科目の単位（英語＋他語種履修は半期5単位、英語以外の2語種履修は半期6単位）も算入されます。
- ・単位認定によって認められた単位、原級者が前年度までに修得した単位は、履修上限に算入されません。
- ・夏季および春季在外研修プログラムの単位は、履修上限に算入されません。

(2) A 欄申告と B 欄申告

- ・Web 履修申告欄は A 欄と B 欄によって構成されています。
- ・通常は A 欄を用いて履修申告してください。
- ・以下の場合のみ、B 欄分野番号を使って B 欄で申告してください。
 - ① 同一名称の科目を重複して履修するため、2つ目以降を「自由科目」として履修する
→【B 欄分野番号 99】自由科目
 - ② 文学部の時間割にない他学部設置総合教育科目を「自由科目」として履修する
→【B 欄分野番号 99】自由科目
 - ③ 「必修語学科目」を「総合教育科目（系列外）」として履修する
→【B 欄分野番号 40】総合教育科目系列外

(3) 必修語学科目・「基礎情報処理」

- ・指定・抽選によって決まったクラスは変更できません。
- ・Web 上の『シラバス・時間割』を参照し、指定された教科書がある場合は、あらかじめ用意してください。

(4) 総合教育科目の選択

- ・総合教育科目の選択は、専攻選択の入り口でもあります。本書 p. 28「専攻の選択と決定 - 準備」の項を参照し、意識的に様々な科目を体験してください。
- ・「人文科学特論 I・II」「社会科学特論 I・II」「自然科学特論 I・II」「総合教育セミナー I・II」などの少人数科目では、それぞれの学問領域をより深く体験することができます。2年生進級時の専攻選択を視野に入れ、積極的に出席してください。

(5) 他地区設置授業を履修する場合の注意事項

- ・地区間を移動するにあたり、移動不可能な履修申告はできません。
- 例①：3 限に三田キャンパスの授業を履修し、4 限に日吉キャンパスの授業を履修する。
- 例②：2 限に三田キャンパスの授業を履修し、3 限に湘南藤沢キャンパスの授業を履修する。
- なお、三田・日吉キャンパスの移動に関しては、昼休みをはさむ 2・3 時限の履修は可能としますが、授業に遅れてしまう場合も有り得ますので、十分に注意してください。

(6) 「遠隔（オンライン）授業」の履修について

- ・K-LMS 等に掲載されている、「オンライン授業受講におけるガイドライン」（K-LMS → Links & Help → 受講生マニュアル → Student Guide）を確認してください。
- 異なる地区において連続した時限に開講される授業であっても、一方または両方が遠隔（オンライン）授業（例：1 時限目に日吉の対面授業、2 時限目に三田の遠隔授業）の場合、履修することは可能とします。
- ただし、遠隔（オンライン）授業であっても一部対面授業を実施する、授業内試験を対面で実施する等、履修上の不都合が発生する場合があります。
- 異なる地区において連続した時限で開講される授業で、一方または両方が遠隔（オンライン）授業である場合には、

シラバスで授業実施形態の詳細を確認すると同時に、科目担当者への確認等を行い、不都合がないことを確認したうえで、自身の責任のもと履修をするようにしてください。

(7) その他

- ・「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」は、一次申告期間は文学部に設置されている授業のみ履修申告できます。ただし、履修申告調整結果発表で定員に余裕がある曜日時間に限り、二次申告期間中に所属学部以外に設置されている心理学も履修申告することができます。詳細は Web 等に掲載しますので、履修を希望する者は事前に必ず確認してください。
- ・秋学期に教職課程登録をした学部1年生が履修できる〈教職に関する科目〉は、秋学期に日吉で開講される「現代教師論」「教育基礎論」「教育心理学」「学校カリキュラム論」の4科目のみに限られ、自由科目として履修することができます。また、日吉キャンパス設置科目「法学Ⅰ（憲法を含む）」「法学Ⅱ（憲法を含む）」「体育」「基礎情報処理」は、教職課程の必修単位数に算入できます。
- ・三田キャンパス設置科目を1年生が履修することはできません（eラーニング形式の学生総合センター設置科目を除く）。
- ・p. 4「進級に必要な単位数」、p. 5「卒業に必要な単位数」「遠隔（オンライン）授業」の単位数上限について」を念頭に置いて、余裕のある計画を立て、履修科目を決めてください。
- ・各科目の種別と単位数については、本書 p. 22「1年生用設置科目」を、内容の詳細についてはweb上の『シラバス・時間割』を参照してください。

2 履修の登録手続き

3月27日(金)

在籍クラス・学籍番号・履修語学の発表

新入生お知らせシステム (<https://fresh.keio.jp/>) にて発表されます。当日中に必ず確認してください。学籍番号は、塾生一人一人に与えられる特別な番号です。履修申告等に必要になります。

3月下旬
～4月初旬
(予定)

必修英語・基礎情報処理 Web エントリー & 履修クラスの抽選・発表

詳細は各種ガイダンスでの説明や語学科履修案内（塾生サイト：<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration>）を参照してください。
抽選結果の発表は、K-Support の News にてお知らせします。エントリーで決定したクラスは履修システムに自動的に登録されます（学生自身が履修申告する必要はありません）。

(1) 自然科学科目(実験を含む)の履修

→「4 化学、生物学、物理学自然科学科目(実験を含む)の履修」(本書 p. 15) 参照

(2) 体育科目の履修→「5 体育科目の履修」(本書 p. 15) 参照

(3) 諸研究所(外国語教育研究センター、国際センター他)設置科目の履修

→各研究所の講義要綱、塾生サイト「諸研究所設置科目」ページ、Web上の「シラバス・時間割」の各研究所ページおよび掲示板で確認

—他学部設置科目の履修について—

- (1) 日吉キャンパスの他学部設置科目を履修する場合、特別な申請は不要です。ただし初回授業やシラバスで個別に指示がある場合があるので確認してください。
 - ※他キャンパス開講の他学部設置科目を履修する場合は、必ず科目担当教員の許可を得てください。許可が得られなかった場合は、必ず履修登録取消期間に取り消してください。
 - ※他キャンパス開講の各学期後半科目など、履修申告期間までに科目担当教員の許可を得られない場合、履修申告は所定の期間内に行ってください。初回授業で科目担当教員に確認し許可が得られなかった場合は、必ず履修登録取消期間に取り消してください。
- (2) 原則として他学部の必修科目や指定クラスのある科目の履修は認められません。詳しくは、本書 p. 19「他学部・他研究科学生の履修を制限する科目(学部)」、次の Web ページ等で確認してください。

他学部・他研究科設置科目の履修・取消
<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html>

 - ※履修希望者多数のため履修者数調整を行う科目があります。調整の際は、科目設置学部の学生が優先されることがあります。

【春学期】履修申告期間（一次申告）

対象科目：春学期科目・春学期前半科目・春学期後半科目・通年科目（セット科目含む）

履修を希望する科目は、この期間に全て履修申告してください。申告が完了したら、科目や分野の違いや不足がないかを必ず確認してください。なお、必修科目等の一部科目は予め履修登録されている場合があります。

一次申告時に履修申告した科目は、この後予定されている二次申告期間に取り消すことが可能です。なお、一次申告の結果、履修定員に達した科目は二次申告期間には追加できませんので注意してください。

登録方法等詳細は塾生サイトの「履修申告操作マニュアル」(<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/system/course-reg-manual.html>)で確認してください。

※履修申告画面で赤い **CHECK** ボタンを押下した後、履修申告内容に不備がある場合は、要修正欄にエラーメッセージが表示されます。必ず不備を修正してください。修正しないまま一次申告を終了した場合、履修者数調整の際に不利になる場合があります。

※ Webシステムを利用した履修申告が困難な場合は、日吉学生部所属学部窓口まで問い合わせてください。

4月3日(金)
12:30
～6日(月)
16:00まで

- (1) 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)にその詳細を掲載しますので、履修を希望する場合は必ず事前に確認してください。
- (2) 履修申告画面に表示される登録科目は、履修が決定したものではありません。今後の履修調整により不許可になる可能性や、履修申告不備のため修正が必要となる可能性があります。
- (3) 指定された期日までに履修申告しない場合は、修学の意志がないものとして退学処分になることがあります（学部学則第188条）。

履修申告調整結果発表

履修申告の結果、履修定員を超えた科目は履修者数調整を行います。調整結果は、K-Support (<http://keio.jp/>) の「履修申告」画面で確認してください。

なお、調整結果の見方は塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)で確認してください。

4月7日(火)
16:00
(予定)

- (1) 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23:59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。K-LMSには履修申告をした翌朝に反映されるため、初回授業日以降に履修申告を行うと、選抜・抽選を受けられない可能性があります。
- (2) 初回授業当日に調整を行う科目の調整結果は、keio.jpのメールアドレス宛に通知されるので、確認を怠らないようにしてください。
- (3) 「登録済科目確認」画面では、各科目のシラバスやK-LMSへのリンクが表示されます。ただし、二次申告期間中に履修申告した科目や調整結果は即時反映されないのので注意してください。

【春学期】履修申告期間（二次申告）

対象科目：春学期科目・春学期前半科目・春学期後半科目・通年科目（セット科目含む）

申告が完了したら、科目や分野の違いや不足がないかを必ず確認してください。

二次申告期間後は、指定された履修エラー修正期間、履修登録取消期間（本書 p. 13）を除き、履修申告内容の変更はできませんので、履修申告は十分に慎重を期ってください。

登録方法等詳細は塾生サイトの「履修申告操作マニュアル」(<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/system/course-reg-manual.html>)で確認してください。

※ Webシステムを利用した履修申告が困難な場合は、日吉学生部所属学部窓口まで問い合わせてください。

4月7日(火)
16:00
～15日(水)
10:00まで

- (1) 履修申告調整結果を受け、科目の追加・削除を行う場合はこの期間に行ってください。
- (2) 一次申告時に定員に達した科目は追加できません。Webシステム上、選択可能な科目が追加可能な科目です。
- (3) 二次申告期間中および二次申告期間終了後に履修定員を超えた場合は、抽選を実施することがあります。塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認してください。
- (4) 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23:59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。K-LMSには履修申告をした翌朝に反映されるため、初回授業日以降に履修申告を行うと、選抜・抽選を受けられない可能性があります。

履修申告科目確認期間

K-Support (<http://keio.jp/>) の「登録済科目確認」から登録科目一覧画面を印刷し、必ず内容を確認してください。

この確認を怠り、エラー修正を所定期間に行わなかった等の場合は、塾生本人の責任になりますので注意してください。

4月20日(月)
16:00～
(予定)

- (1) 履修申告に不備があったり、修正が必要な場合に、日吉学生部から本人へ連絡します。日吉学生部からの指示に従い、履修エラー修正期間に修正してください。

4月21日(火)
8:45
～22日(水)
16:00

履修エラー修正期間

日吉学生部からの指示に従い、修正を行ってください。Webシステムによるエラー修正はできません。

- (1) 日吉学生部から履修申告の不備を指摘された場合は、この期間内に正しく修正申告してください。
- (2) 履修申告に不備がある場合を除き、すでに履修登録済の科目の削除は履修エラー修正期間では認められませんので、注意してください。
- (3) 履修の選抜・抽選に漏れてしまい「不許可」となった科目は数日後に自動で削除されます。削除の手続きは必要ありません。

4月29日(水・祝)10:00～30日(木)16:00
6月24日(水)10:00～25日(木)16:00

履修登録取消期間

詳細は本書 p. 14「履修登録取消制度について」を参照

9月25日(金)
12:30
～28日(月)
16:00 まで

【秋学期】履修申告期間（一次申告）

対象科目：秋学期科目・秋学期前半科目・秋学期後半科目

履修を希望する科目は、この期間に全て履修申告してください。申告が完了したら、科目や分野の違いや不足がないかを必ず確認してください。なお、必修科目等の一部科目は予め履修登録されている場合があります。

一次申告時に履修申告した科目は、この後予定されている二次申告期間に取り消すことが可能です。なお、一次申告の結果、履修定員に達した科目は二次申告期間には追加できませんので注意してください。

登録方法等詳細は塾生サイトの「履修申告操作マニュアル」(<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/system/course-reg-manual.html>)で確認してください。

※履修申告画面で赤い **CHECK** ボタンを押下した後、履修申告内容に不備がある場合は、要修正欄にエラーメッセージが表示されます。必ず不備を修正してください。修正しないまま一次申告を終了した場合、履修者数調整の際に不利になる場合があります。

※ Webシステムを利用した履修申告が困難な場合は、日吉学生部所属学部窓口まで問い合わせしてください。

- (1) 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)にその詳細を掲載しますので、履修を希望する場合は必ず事前に確認してください。
- (2) 履修申告画面に表示される登録科目は、履修が決定したものではありません。今後の履修調整により不許可になる可能性や、履修申告不備のため修正が必要となる可能性があります。
- (3) 指定された期日までに履修申告しない場合は、修学の意志がないものとして退学処分になることがあります（学部学則第 188 条）。

9月29日(火)
16:00
(予定)

履修申告調整結果発表

履修申告の結果、履修定員を超えた科目は履修者数調整を行います。調整結果は、K-Support (<http://keio.jp/>) の「履修申告」画面で確認してください。

なお、調整結果の見方は塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)で確認してください。

- (1) 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23：59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。K-LMSには履修申告をした翌朝に反映されるため、初回授業日以降に履修申告を行うと、選抜・抽選を受けられない可能性があります。
- (2) 初回授業当日に調整を行う科目の調整結果は、keio.jpのメールアドレス宛に通知されるので、確認を怠らないようにしてください。
- (3) 「登録済科目確認」画面では、各科目のシラバスや K-LMS へのリンクが表示されます。ただし、二次申告期間中に履修申告した科目や調整結果は即時反映されないの注意してください。

9月29日(火)
16:00
～10月8日(木)
10:00 まで

【秋学期】履修申告期間（二次申告）

対象科目：秋学期科目・秋学期前半科目・秋学期後半科目

申告が完了したら、科目や分野の違いや不足がないかを必ず確認してください。

二次申告期間後は、指定された履修エラー修正期間、履修登録取消期間（本書 p. 14）を除き、履修申告内容の変更はできませんので、履修申告は十分に慎重に行ってください。

登録方法等詳細は塾生サイトの「履修申告操作マニュアル」(<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/system/course-reg-manual.html>)で確認してください。

※ Webシステムを利用した履修申告が困難な場合は、日吉学生部所属学部窓口まで問い合わせしてください。

- (1) 履修申告調整結果を受け、科目の追加・削除を行う場合はこの期間に行ってください。

- (2) 一次申告時に定員に達した科目は追加できません。Webシステム上、選択可能な科目が追加可能な科目です。
- (3) 二次申告期間中および二次申告期間終了後に履修定員を超えた場合は、抽選を実施することがあります。塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認してください。
- (4) 初回授業当日に調整が行われる科目があります。調整方法について特別な指示事項がある科目は、塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)にその詳細を掲載しますので、必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23:59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。K-LMSには履修申告をした翌朝に反映されるため、初回授業日以降に履修申告を行うと、選抜・抽選を受けられない可能性があります。

10月14日(水)
16:00～
(予定)

履修申告科目確認期間

K-Support (<http://keio.jp/>) の「登録済科目確認」から登録科目一覧画面を印刷し、必ず内容を確認してください。
この確認を怠り、エラー修正を所定期間に行わなかった等の場合は、塾生本人の責任になりますので注意してください。

- (1) 履修申告に不備があったり、修正が必要な場合に、日吉学生部から本人へ連絡します。学生部からの指示に従い、履修エラー修正期間に修正してください。

10月15日(木)
8:45
～16日(金)
16:00

履修エラー修正期間

日吉学生部からの指示に従い、修正を行ってください。Webシステムによるエラー修正はできません。

- (1) 日吉学生部から履修申告の不備を指摘された場合は、この期間内に正しく修正申告してください。
- (2) 履修申告に不備がある場合を除き、すでに履修登録済の科目の削除は履修エラー修正期間では認められませんので、注意してください。
- (3) 履修の選抜・抽選に漏れてしまい「不許可」となった科目は数日後に自動で削除されます。削除の手続きは必要ありません。

10月22日(木)10:00～23日(金)16:00
12月14日(月)10:00～15日(火)16:00

履修登録取消期間

詳細は本書 p. 14「履修登録取消制度について」を参照

3 履修登録取消制度について

所定期間に申告手続きをとることにより、一旦履修登録した科目の履修を取り消すことができます。履修登録取消期間には、対象科目の取り消しのみが可能であり、科目の追加・修正等はありません。

1. 履修登録取消期間、対象科目、手続き方法および上限単位数

期間	対象科目	手続き方法	履修取消上限単位数
4月29日(水・祝)10:00～30日(木)16:00	通年科目(セット科目含む)・春学期科目・春学期前半科目	Webシステムで申告	8単位
6月24日(水)10:00～25日(木)16:00	春学期後半科目	Webシステムで申告	8単位
10月22日(木)10:00～23日(金)16:00	秋学期科目・秋学期前半科目	Webシステムで申告	8単位
12月14日(月)10:00～15日(火)16:00	秋学期後半科目	Webシステムで申告	8単位

ただし、以下の科目は履修登録取消できません。

・文学部必修外国語科目（諸研究所設置科目を必修外国語として履修する場合も含む）

2. 履修登録取消上限単位数

履修登録取消期間に履修登録取消ができる単位数は、各期間それぞれ8単位までとします（自由科目を含む）。

3. 注意事項

- ・進級、卒業条件を満たさなくなるような履修登録取消は認められません。
- ・一度履修登録取消の申告をした科目は、履修を復活することができません。
- ・履修登録取消を行った科目の成績はつきません。
- ・夏季・冬季・春季休校期間等に行われる集中講義は、当該科目の履修確定日の翌日（休日を除く）から当該科目の授業開始日の翌日（休日を除く）までに、履修登録取消の手続きを文学部窓口で行うことができます。この取消は、上記の履修登録取消期間ごとに設定されている履修取消上限単位数に含まれません。なお、上記履修登録取消期間に取消を行うことも可能ですが、その場合は各期間ごとに設定されている履修取消上限単位数に含まれます。
- ・他学部・諸研究所設置科目のうち、履修登録取消が認められない科目は以下のWebページで確認してください。
<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html>



4 化学、生物学、物理学 自然科学科目(実験を含む)の履修

自然科学科目(実験を含む)には「化学Ⅰ(実験を含む)」「化学Ⅱ(実験を含む)」「生物学Ⅰ(実験を含む)」「生物学Ⅱ(実験を含む)」「物理学Ⅰ(実験を含む)」「物理学Ⅱ(実験を含む)」があります。実験(隔週)を伴うため、2時限連続の授業となっています。ひとつの開講時限に複数の科目が同時開講されていますが、すべての担当教員のどの時限(一覧にない医学部・理工学部設置科目を除く)でも履修することができます。詳細は『時間割』の「自然科学科目(実験を含む)の授業時間割(参考)」を見てください。また、半期ごとの履修が可能です。担当教員によっては通年での履修を勧めている場合があります。Web上の「シラバス・時間割」(本書 p. 1 参照)と「自然科学科目(実験を含む)の履修について」(塾生サイト)をよく読んで、履修申告を行ってください。

■自然科学科目(実験を含む)の履修について(塾生サイト)

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/rishuguide.html>



■「自然科学科目(実験を含む)」ポータル(K-LMS)

<https://lms.keio.jp/courses/10626>



これらのWebページでは、以下のような自然科学科目の履修申告に関する重要な情報が掲示され、随時更新されます。履修申告にあたっては必ず閲覧してください。

【実験費】

履修登録取消期間後、実験費(1科目・半期ごと2,000円)を所定の期日までに納付する必要があります。Webシステムで履修登録をしても実験費が期日までに納付されない場合には、当該科目の成績評語は**D(不合格)**となります。期日・納付方法は上記WebページやK-Supportのメッセージでの案内に従ってください。なお、一度納付した実験費は返金されません。

【抽選・選考】

適正規模で実験を行うために、受け入れることのできる人数には制限があります。受け入れ可能人数を超過した場合には、抽選や選考を行う場合があります。選考の参考として、事前アンケート等を行う科目があります。詳細は、上記Webページや「シラバス・時間割」を確認してください。

5 体育科目の履修

実技実施場所、講義・演習科目教室の変更、授業時間割変更等の連絡事項は、体育研究所Webページ(<https://ipe.hc.keio.ac.jp/>)に掲載します。履修者は常に注意してください。



現在運動に制限がある治療中の病気・怪我がある場合は、体育実技を履修することができない可能性があります。その場合は事前に必ず体育研究所学習指導担当教員と相談してください。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、日吉学生部諸研究所窓口に申し出た上で、体育研究所学習指導担当教員と相談してください。

【体育科目のねらい】

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

【体育科目の構成】

体育科目には、「体育学講義Ⅰ・Ⅱ」、「体育学演習」、「体育実技A」、「体育実技B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取り扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部の履修案内をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しい授業内容については、Web上の「シラバス・時間割」(本書 p. 1 参照)を参照してください。

体育学講義、体育学演習、体育実技AはS~Dの5段階評価、体育実技BはP(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価となります。

- (1) 体育学講義Ⅰ・Ⅱ (2単位) ……「身体」「健康」「運動」等に関する講義
- (2) 体育学演習 (1単位) ……講義+実習による演習形式の授業、特定のテーマを深めるゼミ形式の授業
- (3) 体育実技A (1単位) ……「身体活動」実技
ウィークリー・スポーツ

(4) 体育実技 B (1単位) ……「身体活動」実技
シーズン・スポーツ

実技科目には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。「体育実技 A」は、ウィークリー・スポーツ、「体育実技 B」はシーズン・スポーツとなります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ……週 1 回実施の授業。

※ 4 学期制科目は、春学期前半、秋学期前半・後半に開講され、週 1 回の授業のほかにも実施日が（日曜日を含む）設定されています。

シーズン・スポーツ………夏季休校中（8 月～9 月）または春季休校中（2 月）の 7 日間の授業。ただし合宿種目は原則として 3 泊 4 日。

【体育科目履修申告までの流れ】

3 月下旬	体育科目ガイダンス ガイダンスはオンラインで実施します。詳細は体育研究所 Web ページ (https://ipe.hc.keio.ac.jp) でお知らせします。
-------	--

4 月 4 日(土) ～ 9 日(木)	【重要】 定期健康診断を受診 実技科目・体育学演習を履修する場合は、大学保健管理センターが実施する定期健康診断を受診することが必須です。秋学期開講科目（実技・演習）の履修を検討している場合も、この期間に必ず受診してください。なお、健康診断は毎年受診する必要があります。 Web システムで履修登録をしても定期健康診断未受診の場合には、当該科目の受講は認められず、成績評語は D または F（不合格）となります。外部医療機関で健康診断を受診しても、実技科目・体育学演習の履修においては認められません。
------------------------	--

詳細は体育研究所 Web ページ (<https://ipe.hc.keio.ac.jp>) で確認してください。

【春学期 履修申告】

4 月 3 日(金) 12:30 ～ 6 日(月) 16:00	Web による履修申告期間（一次申告）
--	---------------------

4 月 7 日(火) 16:00 ～ 15 日(水) 10:00	Web による履修申告期間（二次申告）
---	---------------------

Web システムによる履修申告が必要です。各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。初回授業当日に調整を行う科目については、詳細を塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>) に掲載します。必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23：59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。調整結果は、keio.jp のメールアドレスに通知されますので、必ず確認してください。

初回授業当日に調整を行わない科目が履修定員を超えた場合、二次申告期間終了後に抽選を実施することがあります。

4 月 20 日(月) 16:00～	履修申告科目確認期間 K-Support の「登録済科目確認」から登録科目一覧画面を印刷し、必ず内容を確認してください。この確認を怠り、エラー修正を所定期間に行わなかった等の場合は、塾生本人の責任になりますので注意してください。
-----------------------	--

4月21日(火)
8:45
～22日(水)
16:00

履修エラー修正期間

所属学部からの指示に従い、修正を行ってください。Webシステムによるエラー修正はできません。

- (1) 所属学部から履修申告の不備を指摘された場合は、この期間内に正しく修正申告してください。
- (2) 履修申告に不備がある場合を除き、すでに登録済の科目の削除は履修エラー修正期間では認められませんので、注意してください。

【秋学期 履修申告】

9月25日(金)
12:30
～28日(月)
16:00

Webによる履修申告期間（一次申告）

9月29日(火)
16:00
～10月8日(木)
10:00

Webによる履修申告期間（二次申告）

Webシステムによる履修申告が必要です。各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。初回授業当日に調整を行う科目については、詳細を塾生サイト「日吉設置科目の履修調整（選抜・抽選）について」(<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/registration/restriction.html>)に掲載します。必ず事前に確認の上、初回授業の前日（23：59）までに履修申告し、初回授業に出席してください。調整結果は、keio.jpのメールアドレスに通知されますので、必ず確認してください。

初回授業当日に調整を行わない科目が履修定員を超えた場合、二次申告期間終了後に抽選を実施することがあります。

10月14日(水)
16:00～
(予定)

履修申告科目確認期間

K-Supportの「登録済科目確認」から登録科目一覧画面を印刷し、必ず内容を確認してください。この確認を怠り、エラー修正を所定期間に行わなかった等の場合は、塾生本人の責任になりますので注意してください。

10月15日(木)
8:45
～16日(金)
16:00

履修エラー修正期間

所属学部からの指示に従い、修正を行ってください。Webシステムによるエラー修正はできません。

- (1) 所属学部から履修申告の不備を指摘された場合は、この期間内に正しく修正申告してください。
- (2) 履修申告に不備がある場合を除き、すでに登録済の科目の削除は履修エラー修正期間では認められませんので、注意してください。

【実技費用納入が必要な科目について】

以下の科目については、指定期間内に実技費用の納入が必要です。

納入方法は K-Support メッセージでの案内に従ってください。

実技費用納入科目

(ウィークリー・スポーツ) バックカントリースキル

(シーズン・スポーツ) マリンスポーツアクティビティ、ビーチバレー、セーリング、山岳、アウトドアレクリエーション、スキー、スケート

科目	実技費用納入期間
マリンスポーツアクティビティ ビーチバレー セーリング 山岳 アウトドアレクリエーション	6月3日(水)～6月5日(金)
バックカントリースキル (カヤック)	10月8日(木)～10月9日(金)
バックカントリースキル (バックパッキング) スキー スケート	11月4日(水)～11月6日(金)

上記科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は、日吉学生部諸研究所窓口に出してください。

申し出なく期間内に納入しなかった場合は、不合格とします。

【履修登録取消について】

一旦履修登録した科目(履修確定された科目)の履修を所定期間に申告手続きを行うことにより取り消すことができます。詳細については、前述の「第3 履修申告までの流れ」(本書 p. 14 「履修登録取消制度について」)を参照してください。

ただし、体育実技 B (シーズン・スポーツ) は、以下のとおり取消期間と手続き方法が異なりますので注意してください。

◆体育実技 B (シーズン・スポーツ)

受付期間	種目	手続方法
履修確定日の翌日 ～5月29日(金)	マリンスポーツアクティビティ ビーチバレー セーリング 山岳 アウトドアレクリエーション	所属学部窓口で申告
履修確定日の翌日 ～10月30日(金)	スキー、スケート	所属学部窓口で申告

6 他学部・他研究科学生の履修を制限する科目（学部）

【注意事項（全学部・全研究科）】

※最新情報を必ず以下の URL で確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html>

- 必ず事前に履修案内等を熟読し、他学部他研究科設置科目履修に必要な手続きをしてください。
下記の科目以外にも、個々の授業によって履修の制限をする場合があります。必ず講義要綱・シラバスを熟読してください。
- 初回の授業で履修に関するガイダンスや履修の制限を行う場合があります。必ず初回の授業に出席してください。
- 所属学年による制限もあります。学年条件を満たしていない場合は、制限科目でなくても履修できません。
- 秋からは履修できない科目もありますので、シラバスや時間割等で確認してください。

地区	学部	履修可能な学年	制限科目
三田	文学部	文学部2年生以上	1. 不可 ◆必修語学科目（文学部履修案内 第9「2・3・4年生設置科目」参照） ◆卒業論文・卒業試験（研究会は履修可能） 2. 条件付不可なし 3. 優先される科目 ◆必修科目や、履修者数が多い場合は、文学部生優先となります場合があります。 *上記以外で履修を制限する科目については、別途 Web あるいはシラバスにてお知らせします。 *セット科目・要件科目は科目の性質上、履修できない場合があります。
		文学部3年生以上	1. 不可 ◆外国語科目の選択必修科目 *外国語科目の選択必修科目と併設する選択科目は履修可能です（登録番号が異なります）。 ◆東京科学大学設置科目 *上記以外で履修を制限する科目については、別途 Web にてお知らせします。 2. 条件付不可 ◆PCP 科目、研究プロジェクト科目 *一部の科目を除き、事前選考に合格した学生のみが履修できます。 3. 優先される科目 履修者数が多い場合は、原則として経済学部生優先となります。
	法学部	文学部3年生以上	1. 不可 ◆「会計学Ⅰ/Ⅱ」「経営学Ⅰ/Ⅱ」「金融論Ⅰ」 ◆「経済史Ⅰ/Ⅱ」（政治学科の学生のみが履修できます） ◆「ローマ法」 ◆「西洋法制史」 2. 条件付不可なし 3. 優先される科目 履修者数が多い場合は、原則として法学部生優先となります。
	商学部	文学部3年生以上	1. 不可 ◆「インターンシップ」「国際ビジネス研究」 ◆「研究会 Da・b（タイプ3）」 2. 条件付不可 ◆「研究演習 D/S」 *抽選後人数に余裕があり、授業担当者の了承を得られれば履修可能です。必ず事前に空き状況を三田学生部商学部担当に確認してください。（追加願（所定用紙）に授業担当者の了承印が必要です。） ◆GPP 科目 *「Passport Members' Activity D/S」、「Passport Members' Workshop Spring/Fall」は GPP 生のみが履修できます。その他のコースワーク科目は、科目担当者が許可した場合は、GPP 生以外でも履修可能です。 3. 優先される科目 ◆履修者数が多い科目は、原則商学部生優先となります。

地区	学部	制限科目
三田	文学部	1. 不可 (1) 必修語学科目（文学部履修案内参照） (2) 特論科目すべて ・人文科学特論Ⅰ(2単位)・人文科学特論Ⅱ(2単位) ・社会科学特論Ⅰ(2単位)・社会科学特論Ⅱ(2単位) ・自然科学特論Ⅰ(2単位)・自然科学特論Ⅱ(2単位) (3) 基礎情報処理(2単位) 2. 条件付不可なし 3. 優先される科目（文学部1年生） 履修者数が多い場合は、文学部生優先となります。
		1. 不可 ◆基礎教育科目の必修科目 ◆外国語科目の必修科目、選択必修科目 ◆専門教育科目の必修科目 2. 条件付不可 PEARL 設置科目を履修する場合は、科目担当者及び PEARL アカデミック・ディレクターの許可を得る必要があります。 3. 優先される科目 履修者数が多い場合やクラスが指定されている場合は、経済学部生優先となる科目があります。
	経済学部	1. 不可 ◆外国語科目の必修科目 ◆社会科学科目の必修科目： 「法学Ⅰ（憲法を含む）」「法学Ⅱ（憲法を含む）」 ◆法律学科の必修科目： 「憲法（総論・人権）Ⅱ」「民法（総論）Ⅱ」「民法（総論）Ⅱ」「刑法（総論）Ⅱ」 ◆政治学科の必修科目： 「政治思想基礎」「政治理論基礎」「日本政治基礎」「地域研究・比較政治基礎」「国際政治基礎」 2. 条件付不可なし 3. 優先される科目 履修者数が多い場合やクラスが指定されている場合は、法学部生優先となる科目もあります。
三田	商学部	1. 不可 ◆必修外国語科目 ◆基礎科目・専攻科目・総合教育科目の下記科目 「経済学基礎Ⅰ・Ⅱ」「経営学基礎」「商業学基礎」「会計学基礎（基本簿記と財務諸表の見方）」「微積分基礎」「統計学基礎」「経営学（組織と戦略）」「経営学（企業をめぐる諸問題）」「商業学（マーケティング）」「商業学（マイクロ・マーケティング）」「商業学（マーケティング）」「会計学（財務会計論Ⅰ）」「会計学（管理会計論Ⅰ）」「経済学（ミクロ経済学Ⅰ）」「経済学（マクロ経済学Ⅰ）」「情報リテラシー基礎」「データとの対話」 2. 条件付不可なし 3. 優先される科目 上記以外の科目でも履修者数が多い場合やクラスが指定されている場合は、商学部生優先となる科目もあります。
		1. 不可 ・必修科目（基礎科学必修科目のうち講義科目は除く） 2. 条件付不可 基礎科学必修科目のうち講義科目 *科目担当者の判断により履修を許可する場合があります。（上限あり。講義要綱・シラバス参照） 3. 優先される科目 ・履修者数が多い場合は、医学部生が優先されます。
	理学部	1. 不可 グローバルリーダーシップセミナー グローバルリーダーシップセミナー実地研修 プログラミング言語 2. 条件付不可 ・必修科目 ・実験科目（必修または選択） ・演習科目（必修または選択） 教職に必要な場合に限り、科目担当者と学習指導が判断し、履修を許可する場合があります。 3. 優先される科目 履修者数が多い場合は、理学部生優先となる科目があります。

地区	学部	制限科目
三田	薬学部	1. 不可 ◆必修科目 2. 条件付不可 ◆「1. 不可」以外の講義・演習科目 （科目担当者の許可が必要です。）下記リンクから科目担当者に連絡してください。 https://www.pha.keio.ac.jp/inquiry/ 3. 優先される科目 ◆履修者数が多い場合は、薬学部生が優先されます。
		1. 不可 プログラミング第2回演習 A/B、情報工学実験第1A/B、情報工学実験第2A/B、パターン情報処理 2. 要許可 履修希望学生の学力や、学習環境をもとに、科目担当者が判断し、履修許可します。 科目の履修にあたり科目担当者の許可が必要となりますので、履修希望者は https://www.students.keio.ac.jp/yg/st/class/registration/ にアクセスのうえ所定の手続きをしてください。
	理工学部	◆卒業プロジェクト1 ◆卒業プロジェクト2 ◆心身ウエルネス ◆体育1 ◆体育2 ◆体育3 ◆体育4 ◆体育5 ◆SFC 実践英語入門 ◆外国語ペーシック ◆外国語インテンシブ ◆外国語海外研修 ◆フィールド研究1/2 *外国語ペーシック・インテンシブ・海外研修に限り、看護医療学部、政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科生の履修を認めます。 *マレー・インドネシア語、アラビア語、朝鮮語、及び、スペイン語の海外研修については科目担当者の判断により履修を許可する場合があります。
三田	総合政策学部・環境情報学部	1. 不可 ・実習科目 ・以下の講義・演習科目 「生活援助技術」「医療支援技術」「ヘルスアセスメント」「看護過程」「母性発達援助論」「在宅看護技術演習」「成人看護技術演習」「急性期病態学総論」「急性期病態学各論」「急性期看護学演習」「慢性期病態学各論」「慢性期看護学演習」「小児看護学演習」「精神看護学演習」「終末期病態学」「終末期看護学演習」「社会福祉原論」「助産理論」「助産ケア学Ⅰ」「助産ケア学Ⅱ」「助産診断・技術学Ⅰ」「助産診断・技術学Ⅱ」「助産管理」「世界の医療・保険制度Ⅱ（海外研修）」 2. 条件付不可 その他の科目は、科目担当者が許可しない場合は履修不可 3. 優先される科目なし
		湘南藤沢（信濃町看護含む）
	看護医療学部	1. 不可 ◆必修科目 ※ただし、「研究倫理」のみ薬学研究科生の履修を認める。 2. 条件付不可 ◆「1. 不可」以外の講義・演習科目 科目担当者の許可が必要です。下記リンクから科目担当者に連絡してください。 https://www.pha.keio.ac.jp/inquiry/ 3. 優先される科目 ◆履修者数が多い場合は、薬学部生が優先されます。 *他の地区と学事日程が異なるため、授業日・定期試験日程等、各自、塾生サイトをよく確認してください。 *各学期前半科目の成績は学期末に公開されます。
三田	信濃町	すべて不可
三田	芝共立	1. 不可 ◆必修科目 ※ただし、「研究倫理」のみ薬学研究科生の履修を認める。 2. 条件付不可 ◆「1. 不可」以外の講義・演習科目 科目担当者の許可が必要です。下記リンクから科目担当者に連絡してください。 https://www.pha.keio.ac.jp/inquiry/ 3. 優先される科目 ◆履修者数が多い場合は、薬学部生が優先されます。 *他の地区と学事日程が異なるため、授業日・定期試験日程等、各自、塾生サイトをよく確認してください。 *各学期前半科目の成績は学期末に公開されます。

7 他学部・他研究科生による履修登録取消が認められない科目（学部）

【注意事項（全学部・全研究科）】

※最新情報を必ず以下の URL で確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html>

1. 下記の科目以外にも、個々の授業によって履修登録取消の制限をする場合があります。必ず講義要綱・シラバスを熟読してください。
2. 新規に履修登録取消が制限される場合がありますので、最新情報を K-Support、塾生サイト等で必ず確認してください。
3. 履修する分野や所属学年による制限もありますので、注意してください。

地区	学部	履修取消不可科目	地区	学部	履修取消不可科目	地区	学部	履修取消不可科目
三田	文学部	博物館学実習	日吉	文学部	すべて取消可	矢上	理工学部	・機械工学ものづくりプロジェクト
		すべて取消可		経済学部	すべて取消可		湘南藤沢(信濃町看護含む)	総合政策学部・環境情報学部
	すべて取消可	法学部		すべて取消可	看護医療学部	性と生殖における健康と権利		
	すべて取消可	商学部		すべて取消可	信濃町	医学部	— ※信濃町医学部設置科目は、他学部生の履修は不可	
三田	経済学部	すべて取消可	日吉	商学部	すべて取消可	芝共立	薬学部	すべて取消不可
		すべて取消可		医学部	すべて取消可			
三田	法学部	すべて取消可	日吉	理工学部	理工学基礎実験 グローバルリーダーシップセミナー			
		研究演習 D/S ※取消には所定の手続きが必要 (Web 上での取消は不可)		薬学部	科目担当者の判断により履修を許可されたすべての科目			

諸研究所・センター設置科目の履修登録取消が認められない科目

履修登録取消を制限する科目は以下のとおりです。

※最新情報を必ず以下の URL で確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/registration/other-faculties.html>

研究所・センター	取消制限科目
外国語教育研究センター	すべて取消可
福澤研究センター	すべて取消可
斯道文庫	すべて取消可
アートセンター	すべて取消可
メディア・コミュニケーション研究所	すべて取消可
言語文化研究所	すべて取消可
グローバルリサーチインスティテュート	すべて取消可
教職課程センター	詳細は履修案内を参照してください。 教職課程センターの一部科目は取消許可が必要となります。
教養研究センター	すべて取消可
国際センター	すべて取消可
学生総合センター	すべて取消可
体育研究所	すべて取消可
全学共通	すべて取消可

8 全学共通科目

2025年度より、全学部共通の授業科目として「データサイエンスと人工知能」を開講しています。

本科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（MDASH）・リテラシーレベル」におけるモデルカリキュラムに準じ、データサイエンスと人工知能（AI）の概要を、応用事例を中心に幅広く扱います。

設置科目等に関する詳細は、K-Support上のお知らせや、シラバスを確認してください。

履修や単位の扱いは、p. 23を参照してください。

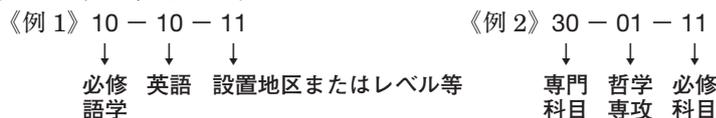
1 必修語学科目および総合教育科目一覧

科目種別	分野番号	設置	授業科目名 (単位) 三田設置科目は1年生履修不可 *は言文研設置科目			
必修語学科目	10-10-11	1年	英語Ⅰ基礎(1)	英語Ⅱ基礎(1)		
	10-10-12	1年	英語Ⅰ中級(1)	英語Ⅱ中級(1)		
	10-10-13	1年	英語Ⅰ中級発展(1)	英語Ⅱ中級発展(1)		
	10-10-14	1年	英語Ⅰ上級(1)	英語Ⅱ上級(1)		
	10-10-15	1年	英語Ⅰ最上級(1)	英語Ⅱ最上級(1)		
	10-10-21	2年	英語Ⅲ基礎発展(1)	英語Ⅳ基礎発展(1)		
	10-10-22	2年	英語Ⅲ中級(1)	英語Ⅳ中級(1)		
	10-10-23	2年	英語Ⅲ中級発展(1)	英語Ⅳ中級発展(1)		
	10-10-24	2年	英語Ⅲ上級(1)	英語Ⅳ上級(1)		
	10-10-25	2年	英語Ⅲ最上級(1)	英語Ⅳ最上級(1)		
	10-20-11	1年	ドイツ語Ⅰ(1)	ドイツ語Ⅱ(1)		
	10-20-12	1年	ドイツ語Ⅰ中級(1)	ドイツ語Ⅱ中級(1)		
	10-20-13	1年	ドイツ語Ⅰ上級(1)	ドイツ語Ⅱ上級(1)		
	10-20-21	2年	ドイツ語Ⅲ(1)	ドイツ語Ⅳ(1)		
	10-30-11	1年	フランス語Ⅰ(1)	フランス語Ⅱ(1)		
	10-30-13	1年	フランス語Ⅰ上級(1)	フランス語Ⅱ上級(1)		
	10-30-21	2年	フランス語ⅢA(1)	フランス語ⅣA(1)	フランス語ⅢB(1)	フランス語ⅣB(1)
	10-30-23	2年	フランス語Ⅲ上級A(1)	フランス語Ⅳ上級A(1)		
	10-40-11	1年	中国語Ⅰ(1)	中国語Ⅱ(1)		
	10-40-12	1年	中国語Ⅰ中級(1)	中国語Ⅱ中級(1)		
	10-40-13	1年	中国語Ⅰ上級(1)	中国語Ⅱ上級(1)		
	10-40-21	2年	中国語ⅢA(1)	中国語ⅣA(1)	中国語ⅢB(1)	中国語ⅣB(1)
	10-40-23	2年	中国語Ⅲ上級A(1)	中国語Ⅳ上級A(1)	中国語Ⅲ上級B(1)	中国語Ⅳ上級B(1)
	10-50-11	1年	スペイン語Ⅰ(1)	スペイン語Ⅱ(1)		
	10-50-21	2年	スペイン語Ⅲ(1)	スペイン語Ⅳ(1)		
	10-60-11	1年	イタリア語Ⅰ(1)	イタリア語Ⅱ(1)		
	10-60-21	2年	イタリア語ⅢA(1)	イタリア語ⅣA(1)	イタリア語ⅢB(1)	イタリア語ⅣB(1)
	10-70-11	1年	韓国語Ⅰ(1)	韓国語Ⅱ(1)		
	10-70-21	2年	韓国語Ⅲ(1)	韓国語Ⅳ(1)		
	10-80-11	1年	ロシア語Ⅰ(1)	ロシア語Ⅱ(1)		
	10-80-21	2年	ロシア語Ⅲ(1)	ロシア語Ⅳ(1)		
	10-90-11	1年	日本語ⅠA(1) 日本語ⅠC(1)	日本語ⅡA(1) 日本語ⅡC(1)	日本語ⅠB(1)	日本語ⅡB(1)
	10-90-21	2年	日本語ⅢA(1)	日本語ⅣA(1)	日本語ⅢB(1)	日本語ⅣB(1)
10-91-21	2年	アラビア語Ⅰ(1) ペルシア語Ⅰ(1) トルコ語Ⅰ(1)	アラビア語Ⅱ(1) ペルシア語Ⅱ(1) トルコ語Ⅱ(1)	アラビア語Ⅲ(1) *ペルシア語初級Ⅰ(1) トルコ語Ⅲ(1)	アラビア語Ⅳ(1) *ペルシア語初級Ⅱ(1) トルコ語Ⅳ(1)	
総合教育科目	人文科学系列8単位以上					
	20-10-10	日吉	音楽Ⅰ(2) 芸術文化論(2) 言語学Ⅰ(2) 哲学Ⅰ(2) 文学Ⅰ(2) 倫理学Ⅰ(2)	音楽Ⅱ(2) 芸術文化論Ⅰ(2) 言語学Ⅱ(2) 哲学Ⅱ(2) 文学Ⅱ(2) 倫理学Ⅱ(2)	漢文Ⅰ(2) 芸術文化論Ⅱ(2) 国語国文Ⅰ(2) 美術Ⅰ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 歴史Ⅰ(2)	漢文Ⅱ(2) 芸術文化論Ⅲ(2) 国語国文Ⅱ(2) 美術Ⅱ(2) 文化人類学Ⅱ(2) 歴史Ⅱ(2) 論理学Ⅰ(2) 論理学Ⅱ(2)
		三田	美術Ⅰ(2)	美術Ⅱ(2)	歴史Ⅰ(2)	歴史Ⅱ(2)
	20-10-20	日吉	人文科学特論Ⅰ(2) 人文科学特論Ⅱ(2)			
	社会科学系列8単位以上					
	20-20-10	日吉	教育学Ⅰ(2) 経済学Ⅰ(2) 政治学Ⅰ(2) 法学Ⅰ(憲法を含む)(2)	教育学Ⅱ(2) 経済学Ⅱ(2) 政治学Ⅱ(2) 法学Ⅱ(憲法を含む)(2)	近代思想史Ⅰ(2) 社会学Ⅰ(2) 地理学Ⅰ(2) 法学Ⅱ(憲法を含む)(2)	近代思想史Ⅱ(2) 社会学Ⅱ(2) 地理学Ⅱ(2)
		三田	近代思想史Ⅰ(2) 経済学Ⅰ(2) 法学Ⅰ(憲法を含む)(2)	近代思想史Ⅱ(2) 経済学Ⅱ(2) 法学Ⅱ(憲法を含む)(2)		
	20-20-20	日吉	社会科学特論Ⅰ(2) 社会科学特論Ⅱ(2)			
	自然科学系列8単位以上					
	20-30-10	日吉	宇宙の科学(2) 人類学Ⅰ(2) 地学Ⅰ(2) 化学Ⅰ(実験を含む)(3) 生物学Ⅱ(実験を含む)(3)	自然地理学Ⅰ(2) 人類学Ⅱ(2) 地学Ⅱ(2) 化学Ⅱ(実験を含む)(3) 物理学Ⅰ(実験を含む)(3)	自然地理学Ⅱ(2) 数学Ⅰ(2) 天文学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(実験を含む)(3) 物理学Ⅱ(実験を含む)(3)	心理学Ⅰ(2) 心理学Ⅱ(2) 生命の科学(2) 天文学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(実験を含む)(3) 物理学Ⅱ(実験を含む)(3)
		三田	基礎化学(2) 数学Ⅰ(2) 統計学Ⅰ(2)	人類学Ⅰ(2) 数学Ⅱ(2) 統計学Ⅱ(2)	人類学Ⅱ(2) 生命科学概論(2)	
	20-30-20	日吉	自然科学特論Ⅰ(2) 自然科学特論Ⅱ(2)			

総合教育科目 38 単位以上	系列外科目	系列外科目			
		20-40-10	日吉	基礎情報処理(2) レポートの書き方(2) 心理学Ⅲ(2) 心理学Ⅳ(2) 科学と環境Ⅰ(2) 科学と環境Ⅱ(2) 書物の世界Ⅰ(2) 書物の世界Ⅱ(2) 総合教育セミナーⅠ(2) 総合教育セミナーⅡ(2) 韓国の社会と文化Ⅰ(2) 韓国の社会と文化Ⅱ(2) 現代ビジネス論Ⅰ(2) 現代ビジネス論Ⅱ(2) アカデミック・リテラシー(2) 人の尊厳(2)	
			三田	基礎情報処理(2) 実践自然科学(2) 映画演劇論Ⅰ(2) 映画演劇論Ⅱ(2) 映画演劇論Ⅲ(2) 映画演劇論Ⅳ(2) 芸術と文明(2) 現代芸術Ⅰ(2) 現代芸術Ⅱ(2) 詩学Ⅰ(2) 詩学Ⅱ(2) 人の尊厳(2) ロシア文学Ⅰ(2) ロシア文学Ⅱ(2) イタリア文化論(2)	
		20-40-20	日吉	イタリア語入門Ⅰ(1) イタリア語入門Ⅱ(1) 英語インテンシブⅠA(1) 英語インテンシブⅡA(1) 英語インテンシブⅠB(1) 英語インテンシブⅡB(1) フランス語インテンシブⅠ(1) フランス語インテンシブⅡ(1) 古典ギリシア語初級Ⅰ(1) 古典ギリシア語初級Ⅱ(1) 韓国語既習Ⅰ(1) 韓国語既習Ⅱ(1) ドイツ語会話初級Ⅰ(1) ドイツ語会話初級Ⅱ(1) ラテン語初級Ⅰ(1) ラテン語初級Ⅱ(1)	
			三田	アラビア語Ⅰ(1) アラビア語Ⅱ(1) アラビア語Ⅲ(1) アラビア語Ⅳ(1) イタリア語初級ⅠA(1) イタリア語初級ⅡA(1) イタリア語初級ⅠB(1) イタリア語初級ⅡB(1) イタリア語中級ⅠA(1) イタリア語中級ⅡA(1) イタリア語中級ⅠB(1) イタリア語中級ⅡB(1) イタリア語中級ⅠC(1) イタリア語中級ⅡC(1) イタリア語上級ⅠA(1) イタリア語上級ⅡA(1) イタリア語上級ⅠB(1) イタリア語上級ⅡB(1) 英語インテンシブⅢA(1) 英語インテンシブⅣA(1) 英語インテンシブⅢB(1) 英語インテンシブⅣB(1) 英語インテンシブⅢC(1) 英語インテンシブⅣC(1) 英語インテンシブⅢD(1) 英語インテンシブⅣD(1) 古典ギリシア語初級Ⅰ(1) 古典ギリシア語初級Ⅱ(1) 古典ギリシア語中級Ⅰ(1) 古典ギリシア語中級Ⅱ(1) 現代ギリシア語初級Ⅰ(1) 現代ギリシア語初級Ⅱ(1) 現代ギリシア語中級Ⅰ(1) 現代ギリシア語中級Ⅱ(1) スペイン語初級Ⅰ(1) スペイン語初級Ⅱ(1) スペイン語中級Ⅰ(1) スペイン語中級Ⅱ(1) 中国語初級Ⅰ(1) 中国語初級Ⅱ(1) 中国語会話Ⅰ(1) 中国語会話Ⅱ(1) 中国語会話Ⅲ(1) 中国語会話Ⅳ(1) 韓国語既習Ⅰ(1) 韓国語既習Ⅱ(1) 韓国語初級Ⅰ(1) 韓国語初級Ⅱ(1) 韓国語上級Ⅰ(1) 韓国語上級Ⅱ(1) ドイツ語初級Ⅰ(1) ドイツ語初級Ⅱ(1) トルコ語Ⅰ(1) トルコ語Ⅱ(1) トルコ語Ⅲ(1) トルコ語Ⅳ(1) 日本語ⅢA(1) 日本語ⅣA(1) 日本語ⅢB(1) 日本語ⅣB(1) ペルシア語Ⅰ(1) ペルシア語Ⅱ(1) ラテン語初級Ⅰ(1) ラテン語初級Ⅱ(1) ラテン語中級Ⅰ(1) ラテン語中級Ⅱ(1) ロシア語初級Ⅰ(1) ロシア語初級Ⅱ(1) ロシア語中級Ⅰ(1) ロシア語中級Ⅱ(1)	
		20-40-30		教授会の認める各学部の総合教育相当科目	
		教授会の認める次の研究所等付属施設の授業科目または講座			
		20-50-10		体育研究所設置講座(講義) : 体育学講義(2) 体育学講義Ⅰ(2) 体育学講義Ⅱ(2) 体育学演習(1)	
		20-50-11		体育研究所設置講座(実技) : 体育実技A(1) 体育実技B(1)	
		20-50-20		国際センター(日吉設置科目・講座)	
		20-50-40		教養研究センター設置講座	
		20-50-50 以降		その他の研究所等設置講座 (外国語教育研究センター特設科目、外国語教育研究センターオープン科目(フランス語・アラビア語)、保健管理センター設置科目、福澤研究センター設置科目、GICセンター設置科目、学生総合センター設置科目、教学マネジメント推進センター設置全学共通科目)	
		自由科目	自由科目(卒業および進級単位にはなりません)		
			99-99-99	文学部の時間割にない他学部設置の総合教育科目 同一科目を重複して履修する場合 外国語教育研究センターオープン科目(フランス語・アラビア語以外) 教職課程センター(秋学期に開講する日吉設置科目) : 現代教師論 教育基礎論 教育心理学 学校カリキュラム論 ※教職課程登録した学部生のみが履修できます	

【分野と分野番号】

分野とは卒業・進級に必要な科目を学則や専攻内規に基づいて分類したもので、下例のように 6 桁の分野番号(分野コード)で表されます。



分野番号の体系は、学則、専攻によって異なります。

【表の読み方および注意事項】

例：分野番号 20-10-10 欄にある「哲学Ⅰ(2)」は、総合教育科目の人文科学系列で日吉キャンパス設置、春学期開講の半期科目で 2 単位、ということを示しています。

- 時間割に掲載のない科目は開講されていません。
- 文学部三田設置科目を 1 年生が履修することはできません(eラーニング形式の学生総合センター設置科目を除く)。
- 総合教育科目は、同一名称(Ⅰ・Ⅱ等記号まで含む)かつ同一単位数の科目を重複履修しても、1 科目しか卒業単位として認められません。2 科目以降は自由科目となります。年度や担当者が異なる場合も同様です。また、記号部分以外が同一名称の 2 単位科目と 4 単位科目も同一科目とみなされ、そのうち 1 科目しか卒業単位となりません(人類学Ⅰ(2)と人類学(4)、人類学Ⅱ(2)と人類学(4))。

※同一科目の重複履修を希望する場合は、p. 10「A 欄申告と B 欄申告」を確認してください。

2 授業科目ナンバリング (K-Number) について

2022年度より、全授業科目に対して、レベルや学問分野、授業形態等を示す番号を付番する授業科目ナンバリング制度 (K-Number) が導入されました。

K-Number によって興味関心のある学問分野を検索し、体系的な学修計画に基づいた学びが可能となります。

なお、複数の学部・研究科に併設された授業科目については、各学部・研究科ごとに異なる K-Number が付与されます。

詳細は Web 等を参照してください。

K-Number の構成 〈文学部設置科目の見方〉

FLT-FE-1 1 11 1-1 1 1-11
 ① ② ③④ ⑤ ⑥ ⑦⑧⑨ ⑩

	種類		内容	
①	科目設置	学部・研究科	文学部 1 年生設置科目は FLT-FE と表記されます。 ※各学部・研究科の表記は Web 等参照	
②		学科・専攻		
③	科目主番号	レベル (履修学年の目安)	0:学部共通 1:1 年次配当レベル (または入門/導入レベル) 2:2 年次配当レベル (または基礎レベル) 3:3 年次配当レベル (または応用/発展レベル) 4:4 年次配当レベル (または専門/実践レベル) 9:その他	
④		分野	大分類	※ Web 等参照
⑤			小分類	
⑥		科目種別	1:必修科目、2:選択必修科目、3:選択科目、4:自由科目、9:その他	
⑦	科目補足	授業区分(全塾共通)	1:語学、2:講義、3:演習、4:実験・実習・実技、5:論文、6:研究指導、7:講義および実習、9:その他	
⑧		授業形態(全塾共通)	1:対面授業 (主として対面授業)、2:オンライン授業 (主としてリアルタイム形式)、3:オンライン授業 (主としてオンデマンド形式)、4:オンライン授業 (全回オンデマンド形式)	
⑨		授業言語(全塾共通)	1:日本語、2:英語、3:その他	
⑩	学問分野	学問分野(全塾共通)	※Web 等参照	

3 少人数科目

(1) 人文科学特論 I・II / 社会科学特論 I・II / 自然科学特論 I・II (総合教育科目各系列)

- ・文学部 1 年生のみを対象とした少人数授業です。
- ・原則として各科目 30 人を定員とします。
- ・人文科学・社会科学・自然科学の系列ごとに 4 単位まで、特論全体で計 8 単位まで履修できます。これを越えて履修する場合、制限を超える科目は自由科目として履修申告してください。
- ・履修に関して指示がある場合は、Web 等で告知します。常に注意してください。

(2) 総合教育セミナー I・II (総合教育科目系列外)

- ・文学部日吉キャンパス所属教員が担当する、文学部 1 年生を対象としたセミナー形式の授業です。
- ・原則として各科目 25 人を定員とします。
- ・履修に関して指示がある場合は、Web 等で告知します。常に注意してください。

4 総合教育科目 (系列外) について

- ・人文科学・社会科学・自然科学の 3 系列に属さない科目です。
- ・上述 3 系列の科目をそれぞれ 8 単位以上修得していれば、卒業に必要な総合教育科目 38 単位の残りすべてを系列外科目で満たすこともできます。
- ・以下のものも総合教育科目系列外として履修可能です。

(1) 必修科目として履修しない必修語学科目

- ・日吉設置科目に限ります。
- ・履修に際しては科目担当者の承認が必要です。まず関連ガイダンス、学習指導相談、日吉学生部文学部窓口のいずれかで相談して下さい。

(2) 教授会の認める各学部設置の総合教育相当科目

- ・履修にあたっての特別な手続きは必要ありません。
- ・文学部1年生時間割に記載されています。総合教育科目の系列外科目として履修できます。
- ・本年度は日吉設置科目として、以下の科目が設置されます。

教授会の認める各学部設置の総合教育相当科目

異文化コミュニケーションⅠ(2単位、半期)	異文化コミュニケーションⅡ(2単位、半期)	医療・福祉の行政(2単位、半期)
映像・音響文化論(2単位、半期)	科学技術と現代社会(2単位、半期)	科学と社会(2単位、半期)
経済人類学Ⅰ(2単位、半期)	経済人類学Ⅱ(2単位、半期)	言語学Ⅲ(2単位、半期)
言語学Ⅳ(2単位、半期)	言語認識論(2単位、半期)	現代芸術論(2単位、半期)
現代思想論(2単位、半期)	現代社会論(2単位、半期)	現代生物学概論(2単位、半期)
現代世界史(2単位、半期)	現代日本史(2単位、半期)	現代メディア論(2単位、半期)
ジェンダー論Ⅰ(2単位、半期)	ジェンダー論Ⅱ(2単位、半期)	社会心理学Ⅰ(2単位、半期)
社会心理学Ⅱ(2単位、半期)	宗教学(2単位、半期)	宗教学Ⅰ(2単位、半期)
宗教学Ⅱ(2単位、半期)	障害者雇用の現状と将来(2単位、半期)	女性学(2単位、半期)
人文総合講座Ⅰ(2単位、半期)	人文総合講座Ⅱ(2単位、半期)	世界の政治(2単位、半期)
地域研究—アフリカ(2単位、半期)	地域研究—スペイン事情Ⅰ(2単位、半期)	地域研究—スペイン事情Ⅱ(2単位、半期)
地域研究—中国事情Ⅰ(2単位、半期)	地域研究—中国事情Ⅱ(2単位、半期)	地域研究—中国事情Ⅲ(2単位、半期)
地域研究—中国事情Ⅳ(2単位、半期)	地域研究—東南アジア(2単位、半期)	地域研究—北米事情Ⅰ(2単位、半期)
地域研究—北米事情Ⅱ(2単位、半期)	地域研究—ヨーロッパ事情Ⅰ(2単位、半期)	地域研究—ヨーロッパ事情Ⅱ(2単位、半期)
地域生態文化論(2単位、半期)	地域文化論(2単位、半期)	地域文化論Ⅰ(2単位、半期)
地域文化論Ⅱ(2単位、半期)	地域文化論Ⅲ(2単位、半期)	地域文化論Ⅳ(2単位、半期)
地球科学概論Ⅰ(2単位、半期)	地球科学概論Ⅱ(2単位、半期)	中国語・中国文化海外短期研修(1単位、特定期間集中)
中国事情(2単位、半期)	ドイツ事情Ⅰ(2単位、半期)	ドイツ事情Ⅱ(2単位、半期)
動物行動学(2単位、半期)	21世紀の実学(2単位、半期)	バリアフリー/ユニバーサル・デザイン入門Ⅰ(2単位、半期)
バリアフリー/ユニバーサル・デザイン入門Ⅱ(2単位、半期)	比較文化論Ⅰ(2単位、半期)	比較文化論Ⅱ(2単位、半期)
東アジア宗教文化概論Ⅰ(2単位、半期)	東アジア宗教文化概論Ⅱ(2単位、半期)	東アジア宗教文化概論Ⅲ(2単位、半期)
東アジア宗教文化概論Ⅳ(2単位、半期)	表象文化論Ⅰ(2単位、半期)	表象文化論Ⅱ(2単位、半期)
フランス事情Ⅰ(2単位、半期)	フランス事情Ⅱ(2単位、半期)	民族文化論(2単位、半期)
ラテンアメリカ研究Ⅰ(2単位、半期)	ラテンアメリカ研究Ⅱ(2単位、半期)	料理と科学Ⅰ(2単位、半期)
料理と科学Ⅱ(2単位、半期)		

少人数セミナー形式授業

自由研究セミナー(2)(経)	自由研究セミナー a/b(各2)(経)	自然科学研究会Ⅰ(2)(法)
自然科学研究会Ⅱ(2)(法)	人文科学特論Ⅰ(2)(法)	人文科学特論Ⅱ(2)(法)
自然科学総合講座Ⅰ(2)(法)	自然科学総合講座Ⅱ(2)(法)	総合教育セミナー Da/b(各2)(商)
総合教育セミナー S(2)(商)	総合教育セミナーⅠ(2)(理)	総合教育セミナーⅡ(2)(理)

(3) 教授会の認める研究所等付属施設の授業科目または講座

- ① 体育研究所設置科目
- ② 国際センター日吉設置講座
- ③ 外国語教育研究センター特設科目
- ④ 外国語教育研究センターオープン科目 (フランス語・アラビア語のみ)
- ⑤ 福澤研究センター設置科目 (日吉設置科目のみ)
- ⑥ 保健管理センター設置科目
- ⑦ 教養研究センター設置科目
- ⑧ GICセンター設置科目
- ⑨ 学生総合センター設置科目
- ⑩ 教学マネジメント推進センター設置全学共通科目

※履修の手続き等に関しては各研究所設置講座の履修要項、「講義要綱」およびガイダンス等を参考にしてください。

【体育科目】体育研究所設置科目

講義科目と実技科目の2種類があります。履修を希望する場合は体育研究所のホームページを参照の上、ガイダンス等の所定の手続きを経ること。

- (1) 体育科目は合計4単位まで卒業単位として履修でき、組み合わせは自由です。例えば「体育実技A」(各1単位)を4科目履修して合計4単位とすることも可能です。5単位以上履修する場合は、自由科目として履修できます。
- (2) 体育実技科目は、例外的に同一担当者、同一名称の科目でも総合教育の系列外科目として最大4単位まで履修することができます。

5 総合教育科目に関する注意

同一名称かつ同一単位数の科目が日吉と三田に設置されている場合、講義内容の水準に差はありません。

1 単位認定（新入生のみ）

他大学あるいは本塾の他学部等を卒業もしくは退学して文学部1年生へ入学し、以前に修得した単位の認定を望む学生は、単位認定の手続きを取ってください。教授会が審査し、単位の一部が認定されることがあります。

- (1) 単位認定された場合、それとは別に48単位まで履修申告可能です。
- (2) 単位認定された科目と同名の科目を履修する場合、自由科目として履修申告します。
- (3) 所定の期間に、単位認定の申請をしてください。手続方法等の詳細はWeb等で案内しますので、必ず確認してください。なお、履修申告期間後は受け付けません。

必要書類：①単位認定申請用紙

②成績証明書（成績表は不可）

③講義要綱（あらかじめ該当ページがわかるように印をつけてください）

※なお、本塾一貫教育校卒業生で、文学部で履修した科目の単位認定を希望する学生は、単位認定申請用紙に成績表を添えて提出してください（この場合、講義要綱やノートなどは不要です）。

※ニューヨーク学院卒業生で派遣先大学の科目認定を希望する場合は、上記①～③の書類が必要となります。

2 成績評価と学業成績表

- (1) 成績評語は、所定の授業に出席し評価試験（定期試験またはレポート）を受けた後に決まります。学業成績の評語は、S・A・B・C・Dの5段階を基本とし、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とします。ただし、特定の科目は、評語をP・Fの2種とし、この場合、Pを合格、Fを不合格とします。なお、他大学等で履修した科目をS・A・B・CまたはPの評語を用いずに認定する場合は、Gとします。履修申告しながら受験しなかった科目や履修取り消しをせずに途中放棄した科目にはD（不合格）の評価が与えられます。

※ 2016年度以前の履修科目の成績評語は、A・B・C・Dの4段階とし、A・B・Cを合格、Dを不合格とします。なお、特定の科目や他大学等で履修した科目については上記と同様です。

- (2) GPA（Grade Point Average）は、2017年度以降入学者が対象となります。

GPAとは、履修登録した科目毎の5段階評価を4.0から0.0までのGP（Grade point）（S:4.0、A:3.0、B:2.0、C:1.0、D:0.0）に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点で、成績を数値で表したものです。

$$\text{GPA} = (\text{履修した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和} \div \text{履修した授業科目の単位数の合計}$$

GPA算出にあたり、P（合格）の科目やF（不合格）の科目、G（認定）の科目、また卒業要件とはならない自由科目は除かれます。

GPAは、当該学期における「学期GPA」と在学中の全期間における「累積GPA」の二種類があります。学業成績表には学期GPAと累積GPAが記載され、成績証明書には累積GPAが記載されます。

なお、GPAは学習指導のためにも活用され、著しく低い場合には、退学が勧告される等の指導を受ける場合があります。

- (3) 学業成績表はWeb上で閲覧可能です。春学期終了科目については9月上旬に、春秋セット科目や通年科目、秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については3月中旬に公開します。学期前半科目については、前半科目成績公開時に公開します。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

学業成績表のWeb閲覧にあたっては慶應ID・パスワードが必要です。閲覧方法や期間等の詳細は塾生サイトで告知します。パスワードの再発行等、Webシステムの利用案内については、「第2 Webシステム」（本書p.6）の章を参照してください。

なお、保証人は保証人IDを利用して学業成績表をWeb上で閲覧することができます。保証人IDは保証人宛に郵送で通知します。

- (4) 学業成績表は再発行できません。取り扱いには十分ご注意ください。
- (5) 留年した場合、前年度に取得した成績評語はS、A、B、C、Pいずれも有効です。
- (6) 成績証明書に取得した科目の成績が記載されるのは、春学期分は9月22日以降、秋学期分は翌年度の4月1日以降です。
- (7) 文学部では、成績質問制度を利用することができます。詳細は、「第9 授業・試験・レポート・質問制度」の項を参照してください。

(8) 学業成績表の見方

評語	評語 S・A、B、C および P は合格、D および F は不合格、G は認定科目
判定欄	進級 次学年に進級する者
	保留 追加試験の結果により判定が決定する者
	原級(留学) 学則による「留学」が認められた者で原級に留まる者
	原級(休学) 学則による「休学」が認められた者で原級に留まる者
	原級 進級条件を充たせず原級に留まる者

3 取得可能学位

文学部が授与する学位は、以下のとおりです。

人文社会学科

哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

- ・入学年度の学部学則 (学位規程 (抜粋) を含む) 掲載の学位規程第2条
- ・慶應義塾 Web サイト「学部」ページ

<https://www.keio.ac.jp/ja/academics/undergraduate/>



4 教員を訪ねる場合

授業の前後に都合を訪ねることを原則としますが、やむを得ない場合は授業のある日に研究室か教員室を訪ねてください。学生部で仲介等はいりません。メールでアポイントをとる場合は、文学部専任教員一覧や各学部の Web 上の教員一覧等を参照してください。なお、K-LMS (シラバス・時間割等) も参照し、該当授業の訪問ルールに留意してください。また、成績に関する質問は直接担当教員を訪ねるのではなく、成績評語に関する質問制度を利用してください。

(1) 日吉所属専任教員 (教授・准教授・助教)

……研究室 (来往舎、第2校舎、第8校舎、体育研究所)

(2) 他地区の専任教員および塾外からの出講者 (講師)

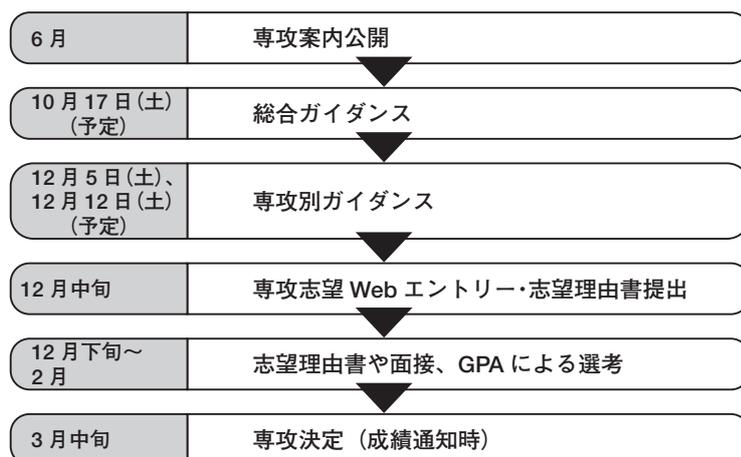
……教員室 (独立館地下1階、第3校舎2階、第6校舎2階)

※授業期間に限る

1 専攻振り分け

- ・文学部生は2年生から専門課程に進み、17の専攻に分かれます。
- ・受入数を設けている専攻では、志望者が受入数を超えた場合、志望理由書などによる選考を行います。選考の結果、希望する専攻に進級できないこともあります。
- ・決定した専攻は、学業成績表への記載をもってお知らせします（3月中旬）。
- ・進級条件を満たさず原級に留まる場合は、専攻振り分けの対象となりません。

2 日程



3 準備

(1) 総合教育科目の履修

専攻選択への準備は、4月に履修科目を選ぶところから始まります。各専攻が取り扱う専門分野が、新入生が想像するものと完全に一致することは稀です。先入観は捨て、実際の授業で体験して下さい。各系列の特論や総合教育セミナーのような少人数科目は、特に参考になるでしょう。

(2) 専攻に関する資料

それぞれの専攻については、まず以下を参考にして下さい。

「文学部ホームページ」(<https://www.flet.keio.ac.jp/>)

「専任教員一覧」(<https://www.flet.keio.jp/faculty/>)

「文学部案内」(冊子；PDF版を文学部ホームページからダウンロード可)

『履修案内』(この冊子)

『文学部専攻案内』(PDF版を <https://www.students.keio.ac.jp/hy/flet/class/major/> からダウンロード)

『K-LMS「文学部案内」コース』(10月中旬に K-Support でお知らせします)

(3) 総合ガイダンス

専攻の選択、志望専攻のエントリー・志望理由書の提出、専攻の決定と進級など、一連の手続きを説明します。必ず出席して下さい。

(4) 専攻別ガイダンス

- ・17専攻がそれぞれガイダンスを行います。専攻教員による説明が行われ、質問を受け付けます。上級生による体験説明、専攻による資料配付が行われる場合もあります。
- ・2日間のガイダンスで、計4専攻の説明を受けることができます。必ず出席して下さい。

4 各専攻で必修語学科目を履修する際の注意

必修語学科目を1・2年生合計で14単位修得しなければならない専攻と、18単位修得しなければならない専攻があります。英語以外の2語種を履修する場合は、それぞれ16単位と20単位が必要です。(p.4にある表「必修語学科目の進級条件」を参照。)

(1) 東洋史学専攻

2年生では、1年生で履修した2語種のどちらかに代えて、ペルシア語・トルコ語・アラビア語のいずれかを必修語学科目として履修することができます。その場合は、専攻担任の許可を得た上で履修申告してください。

(2) 国文学専攻

2年生では、1年生で履修した2語種のうち、いずれか1語種のみを4単位履修します。

(3) 中国文学・独文学・仏文学専攻

・2年生では、1年生で履修した2語種のうち、専攻関連語種（中文：中国語、独文：ドイツ語、仏文：フランス語）1語種のみを4単位履修します。

・所属専攻の専攻関連語種を1年生で履修していない場合は、2年生4月の専攻ガイダンスで必ず相談して下さい。

(4) その他の専攻（哲学・倫理学・美学美術史学、日本史学・西洋史学・民族学考古学、英米文学、図書館・情報学、社会学・心理学・教育学・人間科学）

2年生では、1年生で履修した2語種を各4単位履修します。

1 専門教育科目(選択科目としても履修できる科目)

(1) 学則第 35 条に定める文学部設置の専門教育科目

哲学系	哲学倫理学原典講読Ⅰ(2)	哲学倫理学原典講読Ⅱ(2)	哲学概論Ⅰ(2)	哲学概論Ⅱ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅰ(2)
	西洋哲学倫理学史Ⅱ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅲ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅳ(2)	論理学入門Ⅰ(2)	論理学入門Ⅱ(2)
	科学の哲学Ⅰ(2)	科学の哲学Ⅱ(2)	中級論理学Ⅰ(2)	中級論理学Ⅱ(2)	知識の哲学Ⅰ(2)
知識の哲学Ⅱ(2)	形而上学Ⅰ(2)	形而上学Ⅱ(2)	現代論理学の諸問題Ⅰ(2)	現代論理学の諸問題Ⅱ(2)	現象学Ⅰ(2)
心の哲学Ⅰ(2)	心の哲学Ⅱ(2)	言語の哲学Ⅰ(2)	言語の哲学Ⅱ(2)	現象学Ⅱ(2)	哲学原典研究Ⅱ(2)
現象学Ⅱ(2)	宗教の哲学Ⅰ(2)	宗教の哲学Ⅱ(2)	哲学原典研究Ⅰ(2)	哲学原典研究Ⅲ(2)	哲学原典研究Ⅳ(2)
哲学原典研究Ⅲ(2)	哲学原典研究Ⅳ(2)	哲学原典研究Ⅴ(2)	哲学原典研究Ⅵ(2)	哲学原典研究Ⅶ(2)	哲学原典研究Ⅷ(2)
哲学原典研究Ⅷ(2)	哲学倫理学特殊ⅠA(2)	哲学倫理学特殊ⅡA(2)	哲学倫理学特殊ⅢA(2)	哲学倫理学特殊ⅣA(2)	哲学倫理学特殊ⅤA(2)
哲学倫理学特殊ⅠC(2)	哲学倫理学特殊ⅡC(2)	哲学倫理学特殊ⅢC(2)	哲学倫理学特殊ⅣC(2)	哲学倫理学特殊ⅤC(2)	哲学倫理学特殊ⅥC(2)
哲学倫理学特殊ⅡE(2)	哲学倫理学特殊ⅠF(2)	哲学倫理学特殊ⅡF(2)	哲学倫理学特殊ⅢF(2)	哲学倫理学特殊ⅣF(2)	哲学倫理学特殊ⅤF(2)
哲学倫理学特殊ⅠH(2)	哲学倫理学特殊ⅡH(2)	哲学倫理学特殊ⅢH(2)	哲学倫理学特殊ⅣH(2)	哲学倫理学特殊ⅤH(2)	哲学倫理学特殊ⅥH(2)
哲学倫理学特殊ⅡJ(2)	哲学倫理学特殊ⅠK(2)	哲学倫理学特殊ⅡK(2)	哲学倫理学特殊ⅢK(2)	哲学倫理学特殊ⅣK(2)	哲学倫理学特殊ⅤK(2)
哲学倫理学特殊ⅠM(2)	哲学倫理学特殊ⅡM(2)	哲学倫理学特殊ⅢM(2)	哲学倫理学特殊ⅣM(2)	哲学倫理学特殊ⅤM(2)	哲学研究会Ⅰ(1)
哲学研究会Ⅱ(1)	哲学研究会Ⅲ(1)	哲学研究会Ⅳ(1)	印度哲学Ⅰ(2)	印度哲学Ⅱ(2)	
倫理学概論Ⅰ(2)	倫理学概論Ⅱ(2)	西洋倫理学原典講読Ⅰ(2)	西洋倫理学原典講読Ⅱ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅰ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅱ(2)
西洋哲学倫理学史Ⅱ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅲ(2)	西洋哲学倫理学史Ⅳ(2)	倫理学の課題Ⅰ(2)	倫理学の課題Ⅱ(2)	倫理学の課題Ⅲ(2)
倫理学の課題Ⅲ(2)	倫理学の課題Ⅳ(2)	倫理学洋書講読Ⅰ(2)	倫理学洋書講読Ⅱ(2)	倫理学洋書講読Ⅲ(2)	倫理学洋書講読Ⅳ(2)
倫理学洋書講読Ⅳ(2)	倫理学洋書講読Ⅴ(2)	倫理学洋書講読Ⅵ(2)	哲学概論Ⅰ(2)	哲学概論Ⅱ(2)	哲学倫理学特殊ⅠC(2)
哲学倫理学特殊ⅠA(2)	哲学倫理学特殊ⅡA(2)	哲学倫理学特殊ⅢA(2)	哲学倫理学特殊ⅣA(2)	哲学倫理学特殊ⅤA(2)	哲学倫理学特殊ⅥA(2)
哲学倫理学特殊ⅡC(2)	哲学倫理学特殊ⅠD(2)	哲学倫理学特殊ⅡD(2)	哲学倫理学特殊ⅢD(2)	哲学倫理学特殊ⅣD(2)	哲学倫理学特殊ⅤD(2)
哲学倫理学特殊ⅠF(2)	哲学倫理学特殊ⅡF(2)	哲学倫理学特殊ⅢF(2)	哲学倫理学特殊ⅣF(2)	哲学倫理学特殊ⅤF(2)	哲学倫理学特殊ⅥF(2)
哲学倫理学特殊ⅡH(2)	哲学倫理学特殊ⅠI(2)	哲学倫理学特殊ⅡI(2)	哲学倫理学特殊ⅢI(2)	哲学倫理学特殊ⅣI(2)	哲学倫理学特殊ⅤI(2)
哲学倫理学特殊ⅠK(2)	哲学倫理学特殊ⅡK(2)	哲学倫理学特殊ⅢK(2)	哲学倫理学特殊ⅣK(2)	哲学倫理学特殊ⅤK(2)	哲学倫理学特殊ⅥK(2)
哲学倫理学特殊ⅡM(2)	哲学倫理学特殊ⅠN(2)	哲学倫理学特殊ⅡN(2)	哲学倫理学特殊ⅢN(2)	哲学倫理学特殊ⅣN(2)	哲学倫理学特殊ⅤN(2)
東洋倫理思想Ⅰ(2)	東洋倫理思想Ⅱ(2)	キリスト教概論Ⅰ(2)	キリスト教概論Ⅱ(2)	日本倫理思想Ⅰ(2)	日本倫理思想Ⅱ(2)
倫理学研究会Ⅱ(1)	倫理学研究会Ⅲ(1)	倫理学研究会Ⅳ(1)		倫理学研究会Ⅰ(1)	
芸術研究基礎Ⅰ(1)	芸術研究基礎Ⅱ(1)	美学美術史学原典講読Ⅰ(1)	美学美術史学原典講読Ⅱ(1)	美学美術史学演習Ⅰ(1)	美学美術史学演習Ⅱ(1)
美学美術史学演習Ⅱ(1)	美学美術史学原典講読Ⅲ(1)	美学美術史学原典講読Ⅳ(1)	美学概論Ⅰ(2)	美学概論Ⅱ(2)	美学概論Ⅲ(2)
芸術学A(2)	芸術学B(2)	芸術学C(2)	芸術学D(2)	芸術学E(2)	芸術学F(2)
芸術学F(2)	東洋美術史概説ⅠA(2)	東洋美術史概説ⅡA(2)	東洋美術史概説ⅢA(2)	東洋美術史概説ⅣA(2)	東洋美術史概説ⅤA(2)
西洋美術史概説ⅠA(2)	西洋美術史概説ⅡA(2)	西洋美術史概説ⅢA(2)	西洋美術史概説ⅣA(2)	西洋美術史概説ⅤA(2)	西洋美術史概説ⅥA(2)
西洋音楽史概説ⅡA(2)	西洋音楽史概説ⅢA(2)	西洋音楽史概説ⅣA(2)	西洋音楽史概説ⅤA(2)	西洋音楽史概説ⅥA(2)	西洋音楽史概説ⅦA(2)
美学特殊ⅠB(2)	美学特殊ⅡB(2)	美学特殊ⅢB(2)	美学特殊ⅣB(2)	美学特殊ⅤB(2)	美学特殊ⅥB(2)
美学特殊ⅡD(2)	美学特殊ⅠE(2)	美学特殊ⅡE(2)	美学特殊ⅢE(2)	美学特殊ⅣE(2)	美学特殊ⅤE(2)
美術史特殊ⅠB(2)	美術史特殊ⅡB(2)	美術史特殊ⅢB(2)	美術史特殊ⅣB(2)	美術史特殊ⅤB(2)	美術史特殊ⅥB(2)
美術史特殊ⅡD(2)	美術史特殊ⅠE(2)	美術史特殊ⅡE(2)	美術史特殊ⅢE(2)	美術史特殊ⅣE(2)	美術史特殊ⅤE(2)
美術史特殊ⅠG(2)	美術史特殊ⅡG(2)	美術史特殊ⅢG(2)	美術史特殊ⅣG(2)	美術史特殊ⅤG(2)	美術史特殊ⅥG(2)
美術史特殊ⅡI(2)	美術史特殊ⅢI(2)	美術史特殊ⅣI(2)	美術史特殊ⅤI(2)	美術史特殊ⅥI(2)	美術史特殊ⅦI(2)
美術史特殊ⅠL(2)	美術史特殊ⅡL(2)	美術史特殊ⅢL(2)	美術史特殊ⅣL(2)	美術史特殊ⅤL(2)	美術史特殊ⅥL(2)
音楽史特殊ⅡB(2)	音楽史特殊ⅠC(2)	音楽史特殊ⅡC(2)	音楽史特殊ⅢC(2)	音楽史特殊ⅣC(2)	音楽史特殊ⅤC(2)
音楽史特殊ⅠE(2)	音楽史特殊ⅡE(2)	美学美術史学研究会Ⅰ(1)	美学美術史学研究会Ⅱ(1)	美学美術史学研究会Ⅲ(1)	
美学美術史学研究会Ⅳ(1)					
史学系	日本史料講読Ⅰ(1)	日本史料講読Ⅱ(1)	史学概論Ⅰ(2)	史学概論Ⅱ(2)	日本史概説Ⅰ(2)
	日本史概説Ⅱ(2)	日本史概説Ⅲ(2)	日本史概説Ⅳ(2)	古文書学Ⅰ(2)	古文書学Ⅱ(2)
	古文書学Ⅲ(2)	古文書学Ⅳ(2)	日本史特殊ⅠA(2)	日本史特殊ⅡA(2)	日本史特殊ⅢA(2)
	日本史特殊ⅡB(2)	日本史特殊ⅠC(2)	日本史特殊ⅡC(2)	日本史特殊ⅢC(2)	日本史特殊ⅣC(2)
	日本史特殊ⅠE(2)	日本史特殊ⅡE(2)	日本史特殊ⅢE(2)	日本史特殊ⅣE(2)	日本史特殊ⅤE(2)
	日本史特殊ⅡG(2)	日本史特殊ⅠH(2)	日本史特殊ⅡH(2)	日本史特殊ⅢH(2)	日本史特殊ⅣH(2)
	日本史演習ⅠB(1)	日本史演習ⅡB(1)	日本史演習ⅢB(1)	日本史演習ⅣB(1)	日本史演習ⅤB(1)
	日本史演習ⅡD(1)	日本史演習ⅠE(1)	日本史演習ⅡE(1)	日本史演習ⅢE(1)	日本史演習ⅣE(1)
	日本史演習ⅠG(1)	日本史演習ⅡG(1)	日本史演習ⅢG(1)	日本史演習ⅣG(1)	日本史演習ⅤG(1)
	日本史演習ⅡI(1)	日本史演習ⅢI(1)	日本史演習ⅣI(1)	日本史研究会Ⅰ(1)	日本史研究会Ⅱ(1)
	日本史研究会Ⅲ(1)	日本史研究会Ⅳ(1)	日本史洋書講読Ⅰ(1)	日本史洋書講読Ⅱ(1)	
	東洋史研究入門Ⅰ(1)	東洋史研究入門Ⅱ(1)	東洋史講読ⅠA(1)	東洋史講読ⅡA(1)	東洋史講読ⅢA(1)
	東洋史講読ⅡB(1)	東洋史講読ⅠC(1)	東洋史講読ⅡC(1)	東洋史講読ⅢC(1)	東洋史講読ⅣC(1)
	東洋史講読ⅠE(1)	東洋史講読ⅡE(1)	東洋史概説Ⅰ(2)	東洋史概説Ⅱ(2)	東洋史概説Ⅲ(2)
	東洋史概説Ⅳ(2)	東洋史概説Ⅴ(2)	東洋史概説Ⅵ(2)	東洋史特殊ⅠA(2)	東洋史特殊ⅡA(2)
	東洋史概説Ⅷ(2)	東洋史特殊ⅠC(2)	東洋史特殊ⅡC(2)	東洋史特殊ⅢC(2)	東洋史特殊ⅣC(2)
	東洋史特殊ⅡB(2)	東洋史特殊ⅠE(2)	東洋史特殊ⅡE(2)	東洋史特殊ⅢE(2)	東洋史特殊ⅣE(2)
	東洋史特殊ⅠG(2)	東洋史特殊ⅡG(2)	東洋史特殊ⅢG(2)	東洋史特殊ⅣG(2)	東洋史特殊ⅤG(2)
	東洋史特殊ⅡI(2)	東洋史特殊ⅢI(2)	東洋史特殊ⅣI(2)	東洋史特殊ⅤI(2)	東洋史特殊ⅥI(2)
	東洋史特殊ⅠJ(2)	東洋史特殊ⅡJ(2)	東洋史特殊ⅢJ(2)	東洋史特殊ⅣJ(2)	東洋史特殊ⅤJ(2)
	東洋史特殊ⅡL(2)	東洋史特殊ⅢL(2)	東洋史特殊ⅣL(2)	東洋史特殊ⅤL(2)	東洋史特殊ⅥL(2)
	東洋史特殊ⅠO(2)	東洋史特殊ⅡO(2)	東洋史特殊ⅢO(2)	東洋史特殊ⅣO(2)	東洋史特殊ⅤO(2)
	東洋史特殊ⅡQ(2)	東洋史特殊ⅢQ(2)	東洋史特殊ⅣQ(2)	東洋史特殊ⅤQ(2)	東洋史特殊ⅥQ(2)
	東洋史特殊ⅠT(2)	東洋史特殊ⅡT(2)	東洋史特殊ⅢT(2)	東洋史特殊ⅣT(2)	東洋史特殊ⅤT(2)

史学系	東洋史特殊ⅡV(2)	史学概論Ⅰ(2)	史学概論Ⅱ(2)	東洋史研究会Ⅰ(1)	東洋史研究会Ⅱ(1)
	東洋史研究会Ⅲ(1)	東洋史研究会Ⅳ(1)	東洋史演習ⅠA(1)	東洋史演習ⅡA(1)	東洋史演習ⅠB(1)
	東洋史演習ⅡB(1)	東洋史演習ⅠC(1)	東洋史演習ⅡC(1)		
	史学概論Ⅰ(2)	史学概論Ⅱ(2)	西洋史学原典講読Ⅰ(1)	西洋史学原典講読Ⅱ(1)	西洋史演習Ⅰ(1)
	西洋史演習Ⅱ(1)	西洋史概説Ⅰ(2)	西洋史概説Ⅱ(2)	西洋史概説Ⅲ(2)	西洋史概説Ⅳ(2)
	西洋史概説Ⅴ(2)	西洋史概説Ⅵ(2)	西洋史特殊ⅠA(2)	西洋史特殊ⅡA(2)	西洋史特殊ⅠB(2)
	西洋史特殊ⅡB(2)	西洋史特殊ⅠC(2)	西洋史特殊ⅡC(2)	西洋史特殊ⅠD(2)	西洋史特殊ⅡD(2)
	西洋史特殊ⅠE(2)	西洋史特殊ⅡE(2)	西洋史特殊ⅠF(2)	西洋史特殊ⅡF(2)	西洋史特殊ⅠG(2)
	西洋史特殊ⅡG(2)	西洋史特殊ⅠH(2)	西洋史特殊ⅡH(2)	西洋史特殊ⅠI(2)	西洋史特殊ⅡI(2)
	西洋史特殊ⅠJ(2)	西洋史特殊ⅡJ(2)	西洋史研究会Ⅰ(1)	西洋史研究会Ⅱ(1)	西洋史研究会Ⅲ(1)
西洋史研究会Ⅳ(1)					
民族学考古学原典講読Ⅰ(2)	民族学考古学原典講読Ⅱ(2)	史学概論Ⅰ(2)	史学概論Ⅱ(2)	民族学考古学研究法Ⅰ(1)	
民族学考古学研究法Ⅱ(1)	民族学考古学研究法Ⅲ(1)	民族学考古学研究法Ⅳ(1)	民族学考古学特殊Ⅰ(2)	民族学考古学特殊Ⅱ(2)	
民族学考古学特殊Ⅲ(2)	民族学考古学特殊Ⅳ(2)	民族学考古学特殊Ⅴ(2)	民族学考古学特殊Ⅵ(2)	民族学考古学特殊Ⅶ(2)	
民族学考古学特殊Ⅷ(2)	民族学考古学特殊Ⅷ区(2)	民族学考古学特殊Ⅹ(2)	民族学考古学特殊ⅩⅠ(2)	民族学考古学特殊ⅩⅡ(2)	
民族学考古学特殊ⅩⅢ(2)	民族学考古学特殊ⅩⅣ(2)	民族学考古学特殊ⅩⅤ(2)	民族学考古学特殊ⅩⅥ(2)	民族学考古学特殊ⅩⅦ(2)	
民族学考古学特殊ⅩⅧ(2)	民族学考古学特殊ⅩⅧ区(2)	民族学考古学特殊ⅩⅩ(2)	民族学考古学特殊ⅩⅩⅠ(2)	民族学考古学特殊ⅩⅩⅡ(2)	
考古学Ⅰ(2)	考古学Ⅱ(2)	民族学Ⅰ(2)	民族学Ⅱ(2)	人類学概論Ⅰ(2)	
人類学概論Ⅱ(2)	民族学考古学研究会Ⅰ(1)	民族学考古学研究会Ⅱ(1)	民族学考古学研究会Ⅲ(1)	民族学考古学研究会Ⅳ(1)	
国文学原典講読Ⅰ(1)	国文学原典講読Ⅱ(1)	日本語学Ⅰ(2)	日本語学Ⅱ(2)	日本語学Ⅲ(2)	
日本語学Ⅳ(2)	日本語学Ⅴ(2)	日本語学Ⅵ(2)	日本語学Ⅶ(2)	日本語学Ⅷ(2)	
国文学Ⅰ(2)	国文学Ⅱ(2)	国文学Ⅲ(2)	国文学Ⅳ(2)	国文学Ⅴ(2)	
国文学Ⅵ(2)	国文学Ⅶ(2)	国文学Ⅷ(2)	国文学Ⅷ区(2)	国文学Ⅹ(2)	
国文学ⅩⅠ(2)	国文学ⅩⅡ(2)	国文学ⅩⅢ(2)	国文学ⅩⅣ(2)	国文学ⅩⅤ(2)	
国文学ⅩⅥ(2)	国文学ⅩⅦ(2)	国文学ⅩⅧ(2)	国文学ⅩⅧ区(2)	国文学ⅩⅩ(2)	
国文学ⅩⅩⅠ(2)	国文学ⅩⅩⅡ(2)	国文学史Ⅰ(2)	国文学史Ⅱ(2)	国文学史Ⅲ(2)	
国文学史Ⅳ(2)	国文学史Ⅴ(2)	国文学史Ⅵ(2)	国文学史Ⅶ(2)	国文学史Ⅷ(2)	
国文学演習Ⅰ(1)	国文学演習Ⅱ(1)	国文学演習Ⅲ(1)	国文学演習Ⅳ(1)	国文学演習Ⅴ(1)	
国文学演習Ⅵ(1)	国文学演習Ⅶ(1)	国文学演習Ⅷ(1)	国文学演習Ⅷ区(1)	国文学演習Ⅹ(1)	
国文学演習ⅩⅠ(1)	国文学演習ⅩⅡ(1)	日本語学演習Ⅰ(1)	日本語学演習Ⅱ(1)	日本語学Ⅰ(2)	
日本語学Ⅱ(2)	漢文概論Ⅰ(2)	漢文概論Ⅱ(2)	国文学研究会Ⅰ(1)	国文学研究会Ⅱ(1)	
日本語教育学Ⅰ(2)	日本語教育学Ⅱ(2)	日本語教育学Ⅲ(2)	日本語教育学Ⅳ(2)		
中国古典文学史Ⅰ(2)	中国古典文学史Ⅱ(2)	中国現代文学史Ⅰ(2)	中国現代文学史Ⅱ(2)	中国語学概論Ⅰ(2)	
中国語学概論Ⅱ(2)	中国文学特殊ⅠA(2)	中国文学特殊ⅡA(2)	中国文学特殊ⅠB(2)	中国文学特殊ⅡB(2)	
中国語学特殊ⅠA(2)	中国語学特殊ⅡA(2)	中国語学特殊ⅠB(2)	中国語学特殊ⅡB(2)	中国文化特殊ⅠA(2)	
中国文化特殊ⅡA(2)	中国文化特殊ⅠB(2)	中国文化特殊ⅡB(2)	中国語学・中国文学演習Ⅰ(1)	中国語学・中国文学演習Ⅱ(1)	
中国語学・中国文学演習Ⅲ(1)	中国語学・中国文学演習Ⅳ(1)	中国語学・中国文学演習Ⅴ(1)	中国語学・中国文学演習Ⅵ(1)	中国語学・中国文学演習Ⅶ(1)	
中国語学・中国文学演習Ⅷ(1)	中国語学・中国文学演習Ⅷ区(1)	中国語学・中国文学演習Ⅹ(1)	中国語学・中国文学演習ⅩⅠ(1)	中国語学・中国文学演習ⅩⅡ(1)	
中国語表現演習Ⅰ(1)	中国語表現演習Ⅱ(1)	中国語表現演習Ⅲ(1)	中国語表現演習Ⅳ(1)	中国語表現演習Ⅴ(1)	
中国語表現演習Ⅵ(1)	中国語学・中国文学研究会Ⅰ(1)	中国語学・中国文学研究会Ⅱ(1)	中国語学・中国文学研究会Ⅲ(1)	中国語学・中国文学研究会Ⅳ(1)	
英語史Ⅰ(2)	英語史Ⅱ(2)	英文学史Ⅰ(2)	英文学史Ⅱ(2)	米文学史Ⅰ(2)	
米文学史Ⅱ(2)	現代英語学Ⅰ(2)	現代英語学Ⅱ(2)	英語英米文学基礎講読Ⅰ(1)	英語英米文学基礎講読Ⅱ(1)	
古代中世英語学Ⅰ(2)	古代中世英語学Ⅱ(2)	英語音声学Ⅰ(2)	英語音声学Ⅱ(2)	英語学特殊Ⅰ(2)	
英語学特殊Ⅱ(2)	英語学特殊Ⅲ(2)	英語学特殊Ⅳ(2)	英語学特殊Ⅴ(2)	英語学特殊Ⅵ(2)	
英語学特殊Ⅶ(2)	英語学特殊Ⅷ(2)	英語学特殊Ⅷ区(2)	英語学特殊Ⅹ(2)	英語学特殊ⅩⅠ(2)	
英語学特殊ⅩⅡ(2)	英語学特殊ⅩⅢ(2)	英語学特殊ⅩⅣ(2)	英語学特殊ⅩⅤ(2)	英語学特殊ⅩⅥ(2)	
英文学特殊Ⅰ(2)	英文学特殊Ⅱ(2)	英文学特殊Ⅲ(2)	英文学特殊Ⅳ(2)	英文学特殊Ⅴ(2)	
英文学特殊Ⅵ(2)	英文学特殊Ⅶ(2)	英文学特殊Ⅷ(2)	英文学特殊Ⅷ区(2)	英文学特殊Ⅹ(2)	
英文学特殊ⅩⅠ(2)	英文学特殊ⅩⅡ(2)	英文学特殊ⅩⅢ(2)	英文学特殊ⅩⅣ(2)	英文学特殊ⅩⅤ(2)	
英文学特殊ⅩⅥ(2)	英文学特殊ⅩⅦ(2)	英文学特殊ⅩⅧ(2)	英文学特殊ⅩⅧ区(2)	英文学特殊ⅩⅩ(2)	
英文学特殊ⅩⅩⅠ(2)	英文学特殊ⅩⅩⅡ(2)	米文学特殊Ⅰ(2)	米文学特殊Ⅱ(2)	米文学特殊Ⅲ(2)	
米文学特殊Ⅳ(2)	米文学特殊Ⅴ(2)	米文学特殊Ⅵ(2)	米文学特殊Ⅶ(2)	米文学特殊Ⅷ(2)	
米文学特殊Ⅷ区(2)	米文学特殊Ⅹ(2)	米文学特殊ⅩⅠ(2)	米文学特殊ⅩⅡ(2)	米文学特殊ⅩⅢ(2)	
米文学特殊ⅩⅣ(2)	米文学特殊ⅩⅤ(2)	米文学特殊ⅩⅥ(2)	英語学研究会Ⅰ(1)	英語学研究会Ⅱ(1)	
英語学研究会Ⅲ(1)	英語学研究会Ⅳ(1)	英文学研究会Ⅰ(1)	英文学研究会Ⅱ(1)	英文学研究会Ⅲ(1)	
英文学研究会Ⅳ(1)	米文学研究会Ⅰ(1)	米文学研究会Ⅱ(1)	米文学研究会Ⅲ(1)	米文学研究会Ⅳ(1)	
英語学Ⅰ(2)	英語学Ⅱ(2)	英語学Ⅲ(2)	英語学Ⅳ(2)	英語学Ⅴ(2)	
英語学Ⅵ(2)	英語学Ⅶ(2)	英語学Ⅷ(2)	英語学Ⅷ区(2)	英語学Ⅹ(2)	
英語学ⅩⅠ(2)	英語学ⅩⅡ(2)	英語学ⅩⅢ(2)	英語学ⅩⅣ(2)	英文学Ⅰ(2)	
英文学Ⅱ(2)	英文学Ⅲ(2)	英文学Ⅳ(2)	英文学Ⅴ(2)	英文学Ⅵ(2)	
英文学Ⅶ(2)	英文学Ⅷ(2)	英文学Ⅷ区(2)	英文学Ⅹ(2)	英文学ⅩⅠ(2)	
英文学ⅩⅡ(2)	英文学ⅩⅢ(2)	英文学ⅩⅣ(2)	英文学ⅩⅤ(2)	英文学ⅩⅥ(2)	
米文学Ⅰ(2)	米文学Ⅱ(2)	米文学Ⅲ(2)	米文学Ⅳ(2)	米文学Ⅴ(2)	
米文学Ⅵ(2)	米文学Ⅶ(2)	米文学Ⅷ(2)	米文学Ⅷ区(2)	米文学Ⅹ(2)	
米文学ⅩⅠ(2)	米文学ⅩⅡ(2)				
アカデミック・ライティングⅠA(1)		アカデミック・ライティングⅡA(1)		アカデミック・ライティングⅠB(1)	
アカデミック・ライティングⅡB(1)		アカデミック・ライティングⅠC(1)		アカデミック・ライティングⅡC(1)	
アカデミック・ライティングⅠD(1)		アカデミック・ライティングⅡD(1)		アカデミック・ライティングⅠE(1)	
アカデミック・ライティングⅡE(1)					
文学系					

文学系	テキスト研究中級Ⅰ(1)	テキスト研究中級Ⅱ(1)	ドイツ文学史Ⅰ(2)	ドイツ文学史Ⅱ(2)	ドイツ語学研究Ⅰ(2)
	ドイツ語学研究Ⅱ(2)	ドイツ語学演習Ⅰ(1)	ドイツ語学演習Ⅱ(1)	現代ドイツ研究Ⅰ(2)	現代ドイツ研究Ⅱ(2)
	テキスト研究上級Ⅰ(1)	テキスト研究上級Ⅱ(1)	テキスト研究上級Ⅲ(1)	テキスト研究上級Ⅳ(1)	ドイツ語作文初級Ⅰ(1)
	ドイツ語作文初級Ⅱ(1)	ドイツ語作文中級Ⅰ(1)	ドイツ語作文中級Ⅱ(1)		
	コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅰ(1)	コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅱ(1)	コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅲ(1)	コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅳ(1)	コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅴ(1)
	コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅵ(1)	コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅶ(1)	コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅷ(1)	コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅸ(1)	コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅹ(1)
	ドイツ研究の技法Ⅰ(2)	ドイツ研究の技法Ⅱ(2)	中世ドイツの言語と文化Ⅰ(2)	中世ドイツの言語と文化Ⅱ(2)	
	近代ドイツ研究Ⅰ(2)	近代ドイツ研究Ⅱ(2)	演劇・メディア研究Ⅰ(2)	演劇・メディア研究Ⅱ(2)	ドイツ思想研究Ⅰ(2)
	ドイツ思想研究Ⅱ(2)	ドイツ文化研究Ⅰ(2)	ドイツ文化研究Ⅱ(2)	ドイツ文化研究Ⅲ(2)	ドイツ文化研究Ⅳ(2)
	ドイツ文化史Ⅰ(2)	ドイツ文化史Ⅱ(2)			
ドイツ語学文学ゼミナールⅠ(1)	ドイツ語学文学ゼミナールⅡ(1)		ドイツ語学文学ゼミナールⅢ(1)		
ドイツ語学文学ゼミナールⅣ(1)	ドイツ語学文学ゼミナールⅤ(1)		ドイツ語学文学ゼミナールⅥ(1)		
ドイツ語学文学ゼミナールⅦ(1)	ドイツ語学文学ゼミナールⅧ(1)		ドイツ語学文学ゼミナールⅨ(1)		
ドイツ語学文学ゼミナールⅩ(1)	ドイツ語学文学ゼミナールⅩⅠ(1)		ドイツ語学文学ゼミナールⅩⅡ(1)		
ドイツ語学文学ゼミナールⅩⅢ(1)	ドイツ語学文学ゼミナールⅩⅣ(1)		ドイツ語学文学ゼミナールⅩⅤ(1)		
ドイツ語学文学ゼミナールⅩⅥ(1)					
フランス語学演習Ⅰ(1)	フランス語学演習Ⅱ(1)	フランス語表現演習Ⅰ(1)	フランス語表現演習Ⅱ(1)	フランス語表現演習Ⅲ(1)	
フランス語表現演習Ⅳ(1)	フランスの文化と歴史Ⅰ(2)	フランスの文化と歴史Ⅱ(2)	フランス文学史Ⅰ(2)	フランス文学史Ⅱ(2)	
フランス文学と近代Ⅰ(2)	フランス文学と近代Ⅱ(2)	フランス文学と近代Ⅲ(2)	フランス文学と近代Ⅳ(2)	フランス文学と現代Ⅰ(2)	
フランス文学と現代Ⅱ(2)	フランス文学史Ⅲ(2)	フランス文学史Ⅳ(2)	フランス語学Ⅰ(2)	フランス語学Ⅱ(2)	
フランス語学演習Ⅲ(1)	フランス語学演習Ⅳ(1)	フランス語学演習Ⅴ(1)	フランス語学演習Ⅵ(1)	フランス語学演習Ⅶ(1)	
フランス語学演習Ⅷ(1)	フランス語表現演習ⅤA(1)	フランス語表現演習ⅥA(1)	フランス語表現演習ⅦB(1)	フランス語表現演習ⅧB(1)	
フランス語表現演習ⅧA(1)	フランス語表現演習ⅧA(1)	フランス語表現演習ⅧB(1)	フランス語表現演習ⅧB(1)	フランス語表現演習ⅧB(1)	
フランス文学演習ⅡA(1)	フランス文学演習ⅡB(1)	フランス文学演習ⅡB(1)	フランス文学演習ⅢA(1)	フランス文学演習ⅣA(1)	
フランス文学演習ⅢB(1)	フランス文学演習ⅣB(1)	フランス文学演習ⅤA(1)	フランス文学演習ⅥA(1)	フランス文学演習ⅦB(1)	
フランス文学演習ⅧB(1)	フランス語学文学研究会Ⅰ(1)	フランス語学文学研究会Ⅱ(1)	フランス語学文学研究会Ⅲ(1)	フランス語学文学研究会Ⅳ(1)	
図書館・情報学文献研究Ⅰ(2)	図書館・情報学文献研究Ⅱ(2)	図書館基礎Ⅰ(2)	図書館基礎Ⅱ(2)	情報管理基礎Ⅰ(2)	
情報管理基礎Ⅱ(2)	情報メディア基礎Ⅰ(2)	情報メディア基礎Ⅱ(2)	図書館・情報学概説(2)	図書館・情報学研究Ⅱ(2)	
図書館・情報学研究会Ⅰ(1)	図書館・情報学研究会Ⅱ(1)	図書館の制度と経営(2)	情報サービス概説(2)	情報資源組織論(2)	
児童サービス論(2)	図書館実習Ⅰ(1)	図書館実習Ⅱ(1)	公共図書館論(2)	大学図書館論(2)	
学校図書館論(2)	情報メディア概説(2)	図書館・情報学研究調査入門(2)	情報認識の基礎(2)	印刷メディア(2)	
ウェブ情報論(2)	学術情報メディア論(2)	社会情報論(2)	情報検索概説Ⅰ(2)	情報検索概説Ⅱ(2)	
情報行動(2)	データベース論(2)	デジタルアーカイブ論(2)	情報処理技術(2)	データ解析論(2)	
図書館・情報学特殊Ⅰ(2)	図書館・情報学特殊Ⅱ(2)	図書館・情報学特殊Ⅲ(2)	書誌学Ⅰ(2)	書誌学Ⅱ(2)	
社会学概論Ⅰ(2)	社会学概論Ⅱ(2)	社会心理学概論Ⅰ(2)	社会心理学概論Ⅱ(2)	文化人類学概論Ⅰ(2)	
文化人類学概論Ⅱ(2)	社会学史Ⅰ(2)	社会学史Ⅱ(2)	社会調査Ⅰ(1)	社会調査Ⅱ(1)	
社会調査Ⅲ(1)	社会調査Ⅳ(1)	医療社会学Ⅰ(2)	医療社会学Ⅱ(2)	家族・親族論Ⅰ(2)	
家族・親族論Ⅱ(2)	教育社会学Ⅰ(2)	教育社会学Ⅱ(2)	生の社会学Ⅱ(2)	感情社会学(2)	
コミュニケーション学Ⅰ(2)	コミュニケーション学Ⅱ(2)	宗教社会学Ⅰ(2)	宗教社会学Ⅱ(2)	環境行動論(2)	
リスクコミュニケーション論(2)	知識社会学Ⅰ(2)	知識社会学Ⅱ(2)	都市社会学Ⅰ(2)	都市社会学Ⅱ(2)	
世界社会学(2)	日本社会学Ⅰ(2)	日本社会学Ⅱ(2)	比較文化論Ⅰ(2)	比較文化論Ⅱ(2)	
普及学Ⅰ(2)	普及学Ⅱ(2)	映像社会学(2)	文化社会学(2)	社会学特殊Ⅰ(2)	
社会学特殊Ⅱ(2)	社会学特殊Ⅲ(2)	社会学特殊Ⅳ(2)	社会学特殊Ⅴ(2)	社会学特殊Ⅵ(2)	
社会学特殊Ⅶ(2)	社会学特殊Ⅷ(2)	社会学特殊Ⅷ(2)	社会学特殊Ⅷ(2)	社会学特殊Ⅷ(2)	
社会心理学特殊Ⅱ(2)	社会心理学特殊Ⅲ(2)	社会心理学特殊Ⅳ(2)	社会心理学特殊Ⅴ(2)	社会心理学特殊Ⅵ(2)	
社会心理学特殊Ⅶ(2)	社会心理学特殊Ⅷ(2)	社会心理学特殊Ⅷ(2)	文化人類学特殊Ⅰ(2)	文化人類学特殊Ⅱ(2)	
文化人類学特殊Ⅲ(2)	文化人類学特殊Ⅳ(2)	文化人類学特殊Ⅴ(2)	文化人類学特殊Ⅵ(2)	文化人類学特殊Ⅶ(2)	
文化人類学特殊Ⅷ(2)	文化人類学特殊Ⅷ(2)	文化人類学特殊Ⅷ(2)	文化人類学特殊Ⅷ(2)	文化人類学特殊Ⅷ(2)	
社会学研究会Ⅰ(1)	社会学研究会Ⅱ(1)	社会学研究会Ⅲ(1)	社会学研究会Ⅳ(1)	社会学研究会Ⅴ(1)	
社会学文献研究ⅡA(1)	社会学文献研究ⅡB(1)	社会学文献研究ⅡB(1)	社会学文献研究ⅡC(1)	社会学文献研究ⅡC(1)	
社会学文献研究ⅡD(1)	社会学文献研究ⅡD(1)	社会学文献研究ⅡE(1)	社会学文献研究ⅡE(1)	社会学文献研究ⅡF(1)	
社会学文献研究ⅡF(1)	宗教学Ⅰ(2)	宗教学Ⅱ(2)			
知覚心理学(2)	認知心理学(2)	行動・学習心理学(2)	発達心理学(2)	生理・神経心理学(2)	
心理学研究法(2)	心理統計Ⅰ(2)	心理統計Ⅱ(2)	心理学アカデミック・リーディングⅠ(1)		
心理学アカデミック・リーディングⅡ(1)	心理学実験Ⅰ(2)	心理学実験Ⅱ(2)	心理学実験Ⅲ(2)	心理学史(2)	
心理学研究会Ⅰ(1)	心理学研究会Ⅱ(1)	心理学研究会Ⅲ(1)	心理学研究会Ⅳ(1)	認知神経科学(2)	
経科学(2)	言語心理学(2)	感性心理学(2)	感情心理学(2)	動物心理学(2)	
臨床発達心理学(2)	認知科学(2)	知覚・認知心理学特殊Ⅰ(2)	知覚・認知心理学特殊Ⅱ(2)	行動・学習心理学特殊Ⅰ(2)	
行動・学習心理学特殊Ⅱ(2)	発達・障害心理学特殊Ⅰ(2)	発達・障害心理学特殊Ⅱ(2)	生物・神経科学特殊Ⅰ(2)	生物・神経科学特殊Ⅱ(2)	
心理学基礎Ⅰ(2)	心理学基礎Ⅱ(2)	心理学基礎Ⅲ(2)	司法・犯罪心理学(2)	臨床心理学Ⅰ(2)	
臨床心理学Ⅱ(2)					
教育学概論Ⅰ(2)	教育学概論Ⅱ(2)	教育学原典講読Ⅰ(1)	教育学原典講読Ⅱ(1)	教育史Ⅰ(2)	
教育史Ⅱ(2)	教育学史Ⅰ(2)	教育学史Ⅱ(2)	比較教育学Ⅰ(2)	比較教育学Ⅱ(2)	
教育心理学概論Ⅰ(2)	教育心理学概論Ⅱ(2)	教育学演習Ⅰ(1)	教育学演習Ⅱ(1)	教育学演習Ⅲ(1)	
教育学演習Ⅳ(1)	教育学特殊Ⅰ(2)	教育学特殊Ⅱ(2)	教育学特殊Ⅲ(2)	教育学特殊Ⅳ(2)	
教育学特殊Ⅴ(2)	教育学特殊Ⅵ(2)	教育学特殊Ⅶ(2)	教育学特殊Ⅷ(2)	教育学特殊Ⅷ(2)	
教育学特殊Ⅷ(2)	教育学特殊Ⅷ(2)	教育学特殊Ⅷ(2)	教育学特殊Ⅷ(2)	教育学特殊Ⅷ(2)	
教育学特殊Ⅷ(2)	教育学特殊Ⅷ(2)	教育学特殊Ⅷ(2)	教育学特殊Ⅷ(2)	教育学特殊Ⅷ(2)	
教育学研究会Ⅰ(1)	教育学研究会Ⅱ(1)	教育学研究会Ⅲ(1)	教育学研究会Ⅳ(1)	教育学研究会Ⅴ(1)	
教育学文献研究Ⅰ(2)	教育学文献研究Ⅱ(2)	教育学文献研究Ⅲ(2)	教育学文献研究Ⅳ(2)	教育学文献研究Ⅴ(2)	
教育学文献研究Ⅵ(2)	教育測定実験Ⅰ(2)	教育測定実験Ⅱ(2)			
教育研究法Ⅱ(2)					

人間 関係 学系	人間科学基礎(2)	人間科学研究法基礎(2)	人間科学諸領域Ⅰ(2)	人間科学諸領域Ⅱ(2)	人間科学諸領域Ⅲ(2)
	人間科学諸領域Ⅳ(2)	人間科学研究法ⅠA(2)	人間科学研究法ⅡA(2)	人間科学研究法ⅢA(2)	人間科学研究法ⅣA(2)
	人間科学研究法ⅠB(4)	人間科学研究法ⅡB(4)	人間科学研究法ⅢB(4)	人間科学研究法ⅣB(4)	人間科学演習Ⅰ(1)
	人間科学演習Ⅱ(1)	人間科学演習Ⅲ(1)	人間科学演習Ⅳ(1)	人間科学演習Ⅴ(1)	人間科学演習Ⅵ(1)
	人間科学演習Ⅶ(1)	人間科学演習Ⅷ(1)	人間科学演習Ⅸ(1)	人間科学演習Ⅹ(1)	人間科学特殊ⅠA(2)
	人間科学特殊ⅡA(2)	人間科学特殊ⅢA(2)	人間科学特殊ⅣA(2)	人間科学特殊ⅤA(2)	人間科学特殊ⅥA(2)
	人間科学特殊ⅦA(2)	人間科学特殊ⅧA(2)	人間科学特殊ⅨA(2)	人間科学特殊ⅩA(2)	人間科学特殊ⅪA(2)
	人間科学特殊ⅫA(2)	人間科学特殊ⅬA(2)	人間科学特殊ⅭA(2)	人間科学特殊ⅮA(2)	人間科学特殊ⅯA(2)
	人間科学特殊ⅰA(2)	人間科学特殊ⅱA(2)	人間科学特殊ⅲA(2)	人間科学特殊ⅳA(2)	人間科学特殊ⅴA(2)
	人間科学特殊ⅵA(2)	人間科学特殊ⅶA(2)	人間科学特殊ⅷA(2)	人間科学特殊ⅸA(2)	人間科学特殊ⅹA(2)
	人間科学特殊ⅺA(2)	人間科学特殊ⅻA(2)	人間科学特殊ⅼA(2)	人間科学特殊ⅽA(2)	人間科学特殊ⅾA(2)
	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)
	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)
	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)
	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)
	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)
	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)	人間科学特殊ⅿA(2)
人間科学研究会Ⅳ(1)	人間科学卒業研究(2)	人間科学研究会Ⅰ(1)	人間科学研究会Ⅱ(1)	人間科学研究会Ⅲ(1)	

(2) 学則第35条に定める文学部設置の全専攻共通科目

全 専 攻 共 通 科 目	生涯学習概論(2)	博物館学概論Ⅰ(2)	博物館学概論Ⅱ(2)	博物館経営論(2)	博物館資料論Ⅰ(2)
	博物館資料論Ⅱ(2)	博物館資料保存論Ⅰ(2)	博物館資料保存論Ⅱ(2)	博物館展示論Ⅰ(2)	博物館展示論Ⅱ(2)
	博物館と教育(2)	博物館情報メディア論(2)	博物館学実習Ⅰ(1)	博物館学実習Ⅱ(1)	博物館学実習Ⅲ(1)
	博物館学実習Ⅳ(1)	博物館学特論Ⅰ(2)	博物館学特論Ⅱ(2)	博物館学特論Ⅲ(2)	博物館学特論Ⅳ(2)
	博物館学特論Ⅴ(2)	博物館学特論Ⅵ(2)	博物館美術館の現在(2)	漢文講読Ⅰ(1)	漢文講読Ⅱ(1)
	漢文講読Ⅲ(1)	漢文講読Ⅳ(1)	応用情報処理Ⅰ(2)	応用情報処理Ⅱ(2)	応用情報処理Ⅲ(2)
	応用情報処理Ⅳ(2)	応用情報処理Ⅴ(2)	応用情報処理Ⅵ(2)	情報と職業(2)	情報と倫理Ⅰ(2)
	中国語会話特殊Ⅰ(1)	中国語会話特殊Ⅱ(1)	中国語会話特殊Ⅲ(1)	中国語会話特殊Ⅳ(1)	西洋古典学Ⅰ(2)
	西洋古典学Ⅱ(2)	西洋古典研究会Ⅰ(1)	西洋古典研究会Ⅱ(1)	古典ギリシア語文献講読Ⅰ(1)	古典ギリシア語文献講読Ⅱ(1)
	古典ギリシア語文献講読Ⅲ(1)	古典ギリシア語文献講読Ⅳ(1)	現代ギリシア語文献講読Ⅰ(1)	現代ギリシア語文献講読Ⅱ(1)	ラテン語文献講読Ⅰ(1)
	ラテン語文献講読Ⅱ(1)	ラテン語文献講読Ⅲ(1)	ラテン語文献講読Ⅳ(1)	ロシア語文献講読Ⅰ(1)	ロシア語文献講読Ⅱ(1)
	イタリア語文献講読Ⅰ(1)	イタリア語文献講読Ⅱ(1)	イタリア文学演習Ⅰ(1)	イタリア文学演習Ⅱ(1)	スペイン語圏文化研究Ⅰ(1)
	スペイン語圏文化研究Ⅱ(1)	自然科学研究会Ⅰ(1)	自然科学研究会Ⅱ(1)	自然科学研究会Ⅲ(1)	自然科学研究会Ⅳ(1)
	カウンセリング概論Ⅰ(2)	カウンセリング概論Ⅱ(2)	カウンセリングワークショップⅠ(2)	カウンセリングワークショップⅡ(2)	仏教学概論Ⅰ(2)
	仏教学概論Ⅱ(2)	西洋史名著研究Ⅰ(1)	西洋史名著研究Ⅱ(1)	比較文学Ⅰ(2)	比較文学Ⅱ(2)
	演劇の歴史Ⅰ(2)	演劇の歴史Ⅱ(2)	英書講読Ⅰ(1)	英書講読Ⅱ(1)	デジタル書物学Ⅰ(2)
	デジタル書物学Ⅱ(2)	入門フランス語Ⅰ(1)	入門フランス語Ⅱ(1)	比較精神史Ⅰ(2)	比較精神史Ⅱ(2)
	環境問題と大学(2)	文章と表現Ⅰ(2)	文章と表現Ⅱ(2)	子どもの本と読書(2)	言語学概論Ⅰ(2)
	言語学概論Ⅱ(2)	言語学概論Ⅲ(2)	言語学概論Ⅳ(2)	言語学概論Ⅴ(2)	言語学概論Ⅵ(2)
	言語学特殊Ⅰ(2)	言語学特殊Ⅱ(2)	言語学特殊Ⅲ(2)	言語学特殊Ⅳ(2)	言語学特殊Ⅴ(2)
	言語学特殊Ⅵ(2)	言語学特殊Ⅶ(2)	言語学特殊Ⅷ(2)	言語学特殊Ⅷ(2)	言語学特殊Ⅷ(2)
	言語学特殊ⅩⅠ(2)	言語学特殊ⅩⅡ(2)	言語学特殊ⅩⅢ(2)	言語学特殊ⅩⅣ(2)	言語学特殊ⅩⅤ(2)
	言語学特殊ⅩⅥ(2)	言語学特殊ⅩⅦ(2)	言語学特殊ⅩⅧ(2)	音楽学Ⅰ(2)	音楽学Ⅱ(2)
	音楽学Ⅲ(2)	音楽学Ⅳ(2)	芸術の現在Ⅰ(2)	芸術の現在Ⅱ(2)	
	アート・マネジメントⅠ(ビジュアル・アーツ・マネジメントと文化政策1)(2)	アート・マネジメントⅡ(ビジュアル・アーツ・マネジメントと文化政策2)(2)			
	アート・プロデュースⅠ(パフォーミング・アーツ・マネジメントと文化政策1)(2)	アート・プロデュースⅡ(パフォーミング・アーツ・マネジメントと文化政策2)(2)			

2 学芸員資格の取得について

学芸員資格を取得するためには、卒業要件に加え、下記の表の科目を計画的に履修する必要があります。

以下の Web ページおよび keio.jp ニュースより、授業の履修方法等に関する資料を配布します。また、4 月には学芸員ガイダンスを開催します。資格取得希望者は必ず確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/certification/curator.html>

(3 月頃公開予定)



※博物館学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修する際には、学費とは別に実習費が必要となります。詳細は、上記 Web ページを参照してください。

〈11 学則〉【学芸員資格取得に必要な科目】注：() 内は単位数を表す。

種類		授業科目名 (単位)	必要単位	時間割設置
必修科目	必修	生涯学習概論 (2)	2 単位	全専攻共通科目
		博物館学概論Ⅰ (2)	2 単位	
		博物館学概論Ⅱ (2)	2 単位	
		博物館と教育 (2)	2 単位	
		博物館情報メディア論 (2)	2 単位	
		博物館学実習Ⅰ (1)	1 単位	
		博物館学実習Ⅱ (1)	1 単位	
		博物館学実習Ⅲ (1)	1 単位	
		博物館学実習Ⅳ (1)	1 単位	
	選択必修	博物館経営論 (2)	このうち 2 単位	
		アートマネジメントⅠ (ビジュアル・アーツ・マネジメントと文化政策 1) (2)		
		アートマネジメントⅡ (ビジュアル・アーツ・マネジメントと文化政策 2) (2)	このうち 2 単位	
		博物館資料論Ⅰ (2)		
		博物館資料論Ⅱ (2)		
博物館資料保存論Ⅰ (2)	このうち 2 単位			
博物館資料保存論Ⅱ (2)				
博物館展示論Ⅰ (2)	このうち 2 単位			
博物館展示論Ⅱ (2)				
選択科目	博物館学特論Ⅰ (2)	このうち 6 科目 12 単位	全専攻共通科目	
	博物館学特論Ⅱ (2)			
	博物館学特論Ⅲ (2)			
	博物館学特論Ⅳ (2)			
	博物館学特論Ⅴ (2)			
	博物館学特論Ⅵ (2)			
	博物館美術館の現在 (2)			
	アート・プロデュースⅠ (パフォーミング・アーツ・マネジメントと文化政策 1) (2)			
	アート・プロデュースⅡ (パフォーミング・アーツ・マネジメントと文化政策 2) (2)			
	東洋美術史概説Ⅰ A (2)			美学美術史学専攻
	東洋美術史概説Ⅱ A (2)			
	東洋美術史概説Ⅰ B (2)			
	東洋美術史概説Ⅱ B (2)			
	西洋美術史概説Ⅰ A (2)			
	西洋美術史概説Ⅱ A (2)			
	西洋美術史概説Ⅰ B (2)			
	西洋美術史概説Ⅱ B (2)			
	考古学Ⅰ (2)		民族学考古学専攻	
	考古学Ⅱ (2)			
	民族学Ⅰ (2)			
民族学Ⅱ (2)				

第 8

専攻別内規および注意事項【2・3・4年生】

文学部では学則の他に専攻ごとに専攻内規を定めています。各自、所属する専攻の内規を熟読の上、不明な点がある場合は、履修申告の前に、専攻担任に必ず相談してください。

【目次】	
哲 学 専 攻	36
倫 理 学 専 攻	38
美学美術史学専攻	40
日 本 史 学 専 攻	44
東 洋 史 学 専 攻	46
西 洋 史 学 専 攻	50
民族学考古学専攻	52
国 文 学 専 攻	54
中 国 文 学 専 攻	58
英 米 文 学 専 攻	60
独 文 学 専 攻	64
仏 文 学 専 攻	66
図書館・情報学専攻	70
社 会 学 専 攻	72
心 理 学 専 攻	76
教 育 学 専 攻	78
人 間 科 学 専 攻	82

【共通 専攻内規における科目の定義】

卒業要件科目とは、卒業するために必ず履修し、単位を修得しなければならない科目である。

進級条件科目とは、次学年に進級するために必ず履修し、単位を修得しなければならない科目である。

学年指定科目とは、指定された学年において履修しなければならないが、単位修得が進級条件とはならない科目である。

学年指定科目を修得できなかった場合、上位学年で再度履修することができる。

また、学年指定科目は、指定された学年より下位の学年で履修することはできない。

学年推奨科目とは、その学年においての履修が推奨される科目である。

【専攻変更】

原則として認められません。ただし、真にやむを得ない理由がある場合に限り、教授会の議を経て認められることがあります。やむを得ない理由がある場合には、学生部文学部担当に申し出て指示を受けてください。

哲学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

哲学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位					
			小計	合計				
必修科目	必修	30-01-11	哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ(独)(哲学専攻用)(各2) 哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ(仏)(哲学専攻用)(各2)	のうち2科目(4) (ただし同一語種に限る)	4単位			
	選択必修	30-01-21	哲学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 西洋哲学倫理学史Ⅰ・Ⅱ(各2) 西洋哲学倫理学史Ⅲ・Ⅳ(各2) 論理学入門Ⅰ・Ⅱ(各2)			のうち6科目(12)	12単位	
		30-01-22	科学の哲学Ⅰ・Ⅱ(各2) 中級論理学Ⅰ・Ⅱ(各2) 知識の哲学Ⅰ・Ⅱ(各2) 形而上学Ⅰ・Ⅱ(各2) 現代論理学の諸問題Ⅰ・Ⅱ(各2) 心の哲学Ⅰ・Ⅱ(各2) 言語の哲学Ⅰ・Ⅱ(各2) 現象学Ⅰ・Ⅱ(各2) 宗教の哲学Ⅰ・Ⅱ(各2) 哲学原典研究Ⅰ・Ⅱ(独)(各2) 哲学原典研究Ⅲ・Ⅳ(仏)(各2) 哲学原典研究Ⅴ・Ⅵ(英)(各2) 哲学原典研究Ⅶ・Ⅷ(古典)(各2)	のうち10科目(20)	20単位			
		30-01-23	哲学倫理学特殊ⅠA～ⅠN・ⅡA～ⅡN(各2) …のうち4科目(8)					8単位
		研究会	30-01-31					
	30-01-32	哲学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)						
	卒試	30-01-41	卒業試験(卒業論文)					
選択科目	30-01-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目 哲学専攻設置の次の科目を含めることができる 印度哲学Ⅰ・Ⅱ(各2)		24単位以上				

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された48単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

分野番号30-01-11、30-01-21の科目群を「基礎コース」の科目とする。

分野番号30-01-22、30-01-23の科目群を「専門コース」の科目とする。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ」のうち同一語種の2科目(倫理学専攻設置の「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ(独)(仏)(倫理学専攻用)」は含まれない)。

<学年推奨科目>

基礎コースの科目はこの学年で履修することが望ましい。

【第3学年】

＜学年指定科目＞

「哲学研究会Ⅰ・Ⅱ」(同一担当者のもの)

進級条件科目ではないが、研究会Ⅰ・Ⅱを必修科目として履修し、その単位を修得していないと、第4学年次で「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」の履修が認められない。ただし留学の場合に限り、例外的対応を考慮することもある。

※「哲学研究会Ⅰ・Ⅱ」を2組以上履修する場合は1組を必修科目(A欄)として履修申告し、他は選択科目(B欄55)として履修申告すること。必修科目(A欄)として履修する研究会については定員を設ける。専攻別ガイダンスおよび別途Web等で案内するため、必ず確認すること。

＜学年推奨科目＞

専門コースの科目をこの学年で履修することが望ましい。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」(同一担当者のもの)、「卒業試験(卒業論文)」

第3学年次に必修科目として履修した「哲学研究会Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していないと、「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」の履修は認められない。ただし留学の場合に限り、例外的対応を考慮することもある。なお、第3学年次に必修科目として履修した研究会と同じ担当者の研究会を2年継続して履修しなくともよい。

卒業試験は卒業論文によって行い、必修科目として履修する研究会の担当教員に提出する。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている研究会担当教員の「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修申告すること(研究会とは別の登録番号)。

※「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」を2組以上履修する場合は、1組を必修科目(A欄)として履修申告し、他は選択科目(B欄55)として履修申告すること。必修科目(A欄)として履修する研究会については定員を設ける。専攻別ガイダンスおよび別途Web等で案内するため、必ず確認すること。

※第4学年次で、必修科目の「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」の単位を修得済みで、かつ卒業論文を残して原級に留まった場合は、必修科目として履修した「哲学研究会Ⅲ・Ⅳ」の担当教員の「卒業試験(卒業論文)」を履修申告し、その教員の指導のもとに卒業論文を作成すること。なお、当該年度に担当教員が不在である等の特別な事情がある場合は、必ず事前に専攻担任に相談の上その指示に従うこと。

＜学年推奨科目＞

専門コースの科目をこの学年で履修することが望ましい。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目24単位以上を卒業までに修得しなければならない。(30~33ページを参照)
- (2) 「印度哲学Ⅰ・Ⅱ」は哲学専攻設置の選択科目である。

4 履修上の注意

- (1) ひとつのグループから一定数の科目を履修するよう指定された科目(分野30-01-21・30-01-22・30-01-23)を、指定数を超えて履修(A欄申告)した場合は選択科目とみなし、修得した単位は卒業単位として取り扱う。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 単位修得済科目の重複履修は、授業科目系列表内の必修科目(倫理学専攻設置のものを含む)に限り、以下のとおりとする。
卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目1回までとする。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目(B欄99)として履修すること。
A. 同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を1回まで認め、選択科目(B欄55)として取り扱う。
B. 同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途Web等に掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。
- (3) 専門コースで「中級論理学Ⅰ・Ⅱ」、「現代論理学の諸問題Ⅰ・Ⅱ」を履修する予定の者は先に基礎コースで「論理学入門Ⅰ・Ⅱ」を履修しておくこと。
- (4) 留学を希望する場合、留学を予定する期間の半年前までに、必ず専攻担任に申し出ること。

倫理学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

倫理学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	30-02-11	倫理学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	48単位	
	30-02-12	哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ(独)(倫理学専攻用)(各2) 哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ(仏)(倫理学専攻用)(各2) (ただし同一語種に限る)	4単位		
	30-02-13	西洋哲学倫理学史Ⅰ～Ⅳ(各2)	8単位		
	30-02-20	倫理学の課題Ⅰ～Ⅳ(各2) のうち2科目(4)	4単位		
	30-02-21	倫理学洋書講読Ⅰ～Ⅵ(各2) 哲学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 哲学倫理学特殊ⅠA～ⅠN・ⅡA～ⅡN(各2) } のうち10科目(20)	20単位		
	30-02-22	日本倫理思想Ⅰ・Ⅱ(各2) 東洋倫理思想Ⅰ・Ⅱ(各2) キリスト教概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 仏教学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)[全専攻共通科目] } のうち2科目(4)	4単位		
	30-02-31	倫理学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1)	4単位		
	30-02-32	倫理学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)			
	30-02-41	卒業試験(卒業論文)			
	選択科目	30-02-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		24単位以上

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された48単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ」

本科目の主な目的は、研究会で使用する英語以外の外国語(ドイツ語・フランス語)の修得であることから、以下のとおり履修すること。

- ①哲学専攻設置の「哲学倫理学原典講読Ⅰ・Ⅱ(哲学専攻用)」は含まれない。
- ②日吉でドイツ語・フランス語を履修した者
：同一語種を選択することを原則とする。
- ③日吉でドイツ語・フランス語以外を履修した者
：ドイツ語・フランス語のうちから、自分が研究したい領域の言語の原典講読を選択すること。

<学年指定科目>

「倫理学概論Ⅰ・Ⅱ」、「西洋哲学倫理学史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」はすべて第2学年で履修しなくてはならない。

【第3学年】

＜進級条件科目＞

「倫理学研究会Ⅰ・Ⅱ」（組み合わせに条件あり）

進級のためには、原則として同一担当者による「倫理学研究会Ⅰ」と「同Ⅱ」の2科目2単位を必修科目として修得しなければならないが、正規の留学の場合にのみ「倫理学研究会Ⅰ」および異なる担当者による「同Ⅰ」、あるいは「倫理学研究会Ⅱ」および異なる担当者による「同Ⅱ」の2科目2単位を修得すれば進級を認める。研究会を履修する場合、学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し、履修の許可を得なければならない。なお、研究会は第2学年次では履修できない。

※「倫理学研究会Ⅰ・Ⅱ」を2組以上履修する場合は1組を必修科目として履修申告し（A欄）、他は選択科目として履修申告（B欄55）すること。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「倫理学研究会Ⅲ・Ⅳ」（組み合わせに条件あり）、「卒業試験（卒業論文）」

卒業のためには、原則として同一担当者による「倫理学研究会Ⅲ」と「同Ⅳ」の2科目2単位を必修科目として修得しなければならないが、正規の留学の場合にのみ、「倫理学研究会Ⅳ」および異なる担当者による「同Ⅳ」の2科目2単位を修得すれば卒業要件（一部）として認める。研究会を履修する場合、学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し、履修の許可を得なければならない。

卒業試験は卒業論文によって行い、必修として履修した「倫理学研究会Ⅲ・Ⅳ」（正規の留学の場合にのみ異なる担当者による2つの「倫理学研究会Ⅳ」のいずれか）の担当教員による「卒業試験（卒業論文）」（研究会とは別の登録番号が文学部卒業試験時間割に記載されている）を必ず履修し、その担当教員（指導教授）に卒業論文を提出すること。必修科目としての「倫理学研究会」4単位すべてを年度末までに修得できないことが確定している者は、その年度に卒業論文を提出する資格を得ることができない。

※「倫理学研究会Ⅲ・Ⅳ」を2組以上履修する場合は1組を必修科目として履修申告し（A欄）、他は選択科目として履修申告（B欄55）すること。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目24単位以上を卒業までに修得しなければならない。（30～33ページを参照）

4 履修上の注意

- (1) 必修科目のなかで、ひとつのグループから一定数の科目を履修するように指定された科目（分野30-02-21・30-02-22）を、指定単位数を超えて履修（A欄申告）した場合は、選択科目とみなし、修得した単位は卒業単位として取り扱う。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。

- (2) 単位修得済科目の重複履修は、分野番号30-02-11から30-02-22までのうち、30-02-12を除き、以下のとおりとする（分野番号30-02-12の科目は卒業に必要な単位としての重複履修を認めない）。

卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目1回までとする。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。

A. 同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を1回まで認め、選択科目として取り扱う（B欄55）。研究会（分野番号30-02-31、30-02-32）の重複履修については、上記を参照のこと。

B. 同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途Web等に掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。

- (3) 本規定に照らして専攻担任の許可を必要とする者は、履修申告の前に専攻担任に申し出ること。

美学美術史学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

美学美術史学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]：要件科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	必修	30-03-11 芸術研究基礎Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	38単位	
		30-03-12 [要]美学美術史学原典講読Ⅰ(A)~(F)・Ⅱ(A)~(F)(英)(各1) [要]美学美術史学演習Ⅰ(A)~(D)・Ⅱ(A)~(D)(各1)	4単位		
		30-03-13 [要]美学美術史学原典講読Ⅲ・Ⅳ(独・仏・伊・日)(各1)	2単位		
		30-03-14 美学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 芸術学A~Fのうち1科目(2)	6単位		
	選択必修	30-03-21 東洋美術史概説ⅠA~B・ⅡA~B(各2)	}のうち6科目(12)※		12単位
		30-03-22 西洋美術史概説ⅠA~B・ⅡA~B(各2)			
		30-03-23 西洋音楽史概説ⅠA~B・ⅡA~B(各2)			
		30-03-24 美学特殊ⅠA~E・ⅡA~E(各2) 美術史特殊ⅠA~L・ⅡA~L(各2) 音楽史特殊ⅠA~E・ⅡA~E(各2)	}のうち2科目(4)		4単位
		30-03-25 アート・マネジメントⅠ・Ⅱ (ビジュアル・アーツ・マネジメントと文化政策1・2)(各2) [全専攻共通科目] アート・プロデュースⅠ・Ⅱ (パフォーミング・アーツ・マネジメントと文化政策1・2)(各2) [全専攻共通科目]	}のどちらか1種類で2科目(4)		4単位
	研究会	30-03-31 美学美術史学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1)のうち2科目(2)	2単位		
		30-03-32 美学美術史学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)のうち2科目(2)	2単位		
	卒試	30-03-41 卒業試験(卒業論文)			
	選択科目	30-03-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目			34単位以上

※ 東洋美術史、西洋美術史、西洋音楽史の概説3種類のうちから2つ以上の種類にわたって修得すること(1種類につき計8単位までを必修単位として認める)。

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された38単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<学年指定科目>

「芸術研究基礎Ⅰ・Ⅱ」、「美学美術史学原典講読Ⅰ・Ⅱ」、「美学美術史学演習Ⅰ・Ⅱ」

- ・「美学美術史学原典講読Ⅰ・Ⅱ」のクラス分けは、別に発表する。自分のクラスを確認の上、履修申告すること。
- ・「美学美術史学演習ⅠA~D」と「同ⅡA~D」は同じアルファベットの授業を履修すること。
- ・第2学年次に留学する場合は、第3学年の進級条件科目の項目に書かれてあることをよく読んでおくこと。

【第3学年】

＜進級条件科目＞

「美学美術史学研究会Ⅰ」、「美学美術史学研究会Ⅱ」(組み合わせに条件あり)

進級のためには、原則として同一担当者による「美学美術史学研究会Ⅰ」と「同Ⅱ」の2科目2単位を必修科目として修得しなければならない。留学した場合にのみ、「美学美術史学研究会Ⅰ」と異なる担当者による「同Ⅰ」(第2学年次に留学した場合は、「美学美術史学研究会Ⅱ」と異なる担当者による「同Ⅱ」)の2科目2単位を必修科目として修得すれば進級を認める。研究会を履修する場合、学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し、履修の許可を得なければならない。なお、研究会は第2学年次では履修できない。

＜学年推奨科目＞

「美学美術史学原典講読Ⅲ・Ⅳ」、「アート・マネジメントⅠ・Ⅱ(ビジュアル・アーツ・マネジメントと文化政策1・2)」、「アート・プロデュースⅠ・Ⅱ(パフォーミング・アーツ・マネジメントと文化政策1・2)」

これらの科目は本学年で履修することが望ましい。

「美学美術史学原典講読Ⅲ・Ⅳ」のうち、独語・仏語・伊語については、原則として、第1・2学年次に履修した第2外国語と同じ語種の授業を選択すること。ただし、本授業と並行して別に初等文法を学ぶことを条件に未修者についても履修を認める。日本語については、研究上特に近世以前の日本語原典の読解能力の修得を必要とする者、第2外国語として独語・仏語・伊語以外の語種を履修した者、あるいは、すでに「美学美術史学原典講読Ⅲ・Ⅳ」の日本語以外の授業を履修した者(重複履修)、これらのいずれかに該当する者にも履修を認める。なお、「美学美術史学原典講読Ⅲ」と「同Ⅳ」は同一語種で履修すること。また、いずれの語種についても、学年初めに必ず担当教員から履修の許可を得なければならない。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「美学美術史学研究会Ⅲ」、「美学美術史学研究会Ⅳ」(組み合わせに条件あり)、「卒業試験(卒業論文)」

卒業のためには、原則として同一担当者による「美学美術史学研究会Ⅲ」と「同Ⅳ」の2科目2単位を必修科目として修得しなければならないが、第3学年次に留学した場合にのみ、「美学美術史学研究会Ⅳ」と異なる担当者による「同Ⅳ」の2科目2単位を必修科目として修得すれば卒業要件(一部)として認める。研究会を履修する場合、学年初めに必ず各研究会の担当教員に面接し、履修の許可を得なければならない。

卒業試験は卒業論文によって行い、必修として履修した「美学美術史学研究会Ⅲ・Ⅳ」(特別な事情のある場合にのみ異なる担当者による2つの「美学美術史学研究会Ⅳ」のいずれか)の担当教員による「卒業試験(卒業論文)」(研究会とは別の登録番号が文学部卒業試験時間割に記載されている)を必ず履修し、その担当教員(指導教授)に卒業論文を提出すること。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目34単位以上を卒業までに修得しなければならない。(30～33ページを参照)

4 履修上の注意

- (1) 「芸術研究基礎Ⅰ・Ⅱ」は、原則として本専攻第2学年次の学生のみが履修を認められる科目であり、第2学年次に単位を修得できなかった者についてのみ第3学年次以降での履修を認める。
- (2) 概説科目(「東洋美術史概説ⅠA～B・ⅡA～B」、「西洋美術史概説ⅠA～B・ⅡA～B」、「西洋音楽史概説ⅠA～B・ⅡA～B」)は、「東洋美術史」、「西洋美術史」、「西洋音楽史」の3種類の中から2種類以上にわたり、ⅠA～B・ⅡA～Bそれぞれの科目の組み合わせを問わず(ただし重複履修については下記(6)を参照)、計6科目12単位を必修とするが、そのうち1種類について、計8単位までを必修科目として認める。
- (3) 特殊科目(「美学特殊ⅠA～E・ⅡA～E」、「美術史特殊ⅠA～L・ⅡA～L」、「音楽史特殊ⅠA～E・ⅡA～E」)は、そのうち2科目4単位を必修とする(組み合わせは自由だが、重複履修については下記(6)を参照)。
- (4) 全専攻共通科目の「アート・マネジメントⅠ・Ⅱ(ビジュアル・アーツ・マネジメントと文化政策1・2)」と「アート・プロデュースⅠ・Ⅱ(パフォーミング・アーツ・マネジメントと文化政策1・2)」については、「アート・マネジメント」か「アート・プロデュース」のうち1種類2科目4単位(特別な事情のある場合を除き、「Ⅰ」と「Ⅱ」の組み合わせ)を本専攻の必修とする。

(5) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱いについて

必修科目（分野番号 30-03-12 から 30-03-32 までの科目）を指定単位数を超えて履修（A 欄で申告）し、その単位を修得した場合、超過分は選択科目とみなし、卒業単位として扱う。なお必修科目について、それぞれの指定単位数をすでに充足し、次年度以降において選択科目として履修する場合も、A 欄で申告すること（重複履修については下記 (6) を参照）。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。

(6) 重複履修の取り扱いについて

① 「芸術研究基礎 I・II」は卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。また、他専攻の専門教育科目、全専攻共通科目は重複して履修できない。

② 「芸術研究基礎 I・II」を除く美学美術史学専攻の専門教育科目については、下記 A の場合、卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目 1 回までとする。重複履修が 2 回以上となる場合、および下記 B の場合は、自由科目として履修すること（履修申告時に B 欄 99 を選択）。

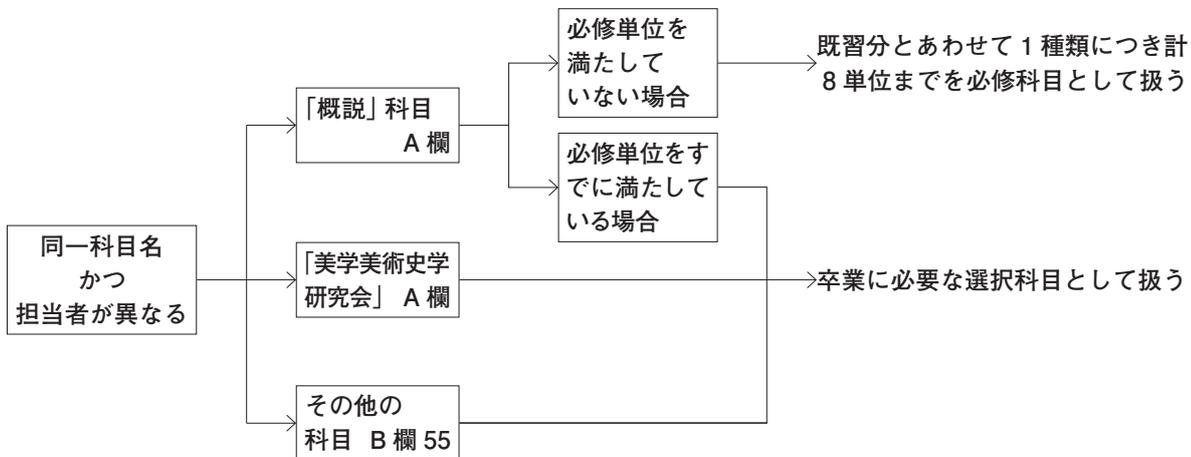
A. 同一科目名で担当者が異なる場合は、1 回までの重複履修を認める [下記補足図 A]。その際、「概説」科目以外については卒業に必要な選択科目として扱う。「概説」科目（上記 (2) を参照）については、必修単位を満たしていない場合に限り、既習分と併せて 1 種類につき計 8 単位までを必修科目として扱う（「美学美術史学研究会」および「概説」科目は A 欄申告とし、その他の科目は履修申告時に B 欄 55 を選択）。

B. 同一科目名・同一担当者の場合は、自由科目として履修申告すること。

(7) 在学中に留学を考えている者は、当該年度の履修申告に際して必ず専攻担任に相談し、留学が決まり次第学生部文学部担当に申し出ること。

上記 (6) ②補足図

A. 同一科目名で担当者が異なる場合 (1 回までの重複分のみ)



日本史学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

日本史学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[セ]: セット履修科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	必修	30-04-11 [セ] 日本史史料講読Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	42単位	
		30-04-12 史学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位		
		30-04-13 日本史概説Ⅰ～Ⅳ(各2)	8単位		
	選択必修	30-04-20	古文書学Ⅰ・Ⅱ(各2)のうち1科目(2)		2単位
			古文書学Ⅲ・Ⅳ(各2)のうち1科目(2)		2単位
		30-04-21	日本史特殊ⅠA～ⅠH・ⅡA～ⅡH(各2)のうち6科目(12)		12単位
		30-04-22	[セ] 日本史演習ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJ(各1)のうち4科目(4)		4単位
		30-04-23	東洋史概説Ⅰ～Ⅹ(各2) [東洋史学専攻設置]		}のうち 2科目 (4)
			西洋史概説Ⅰ～Ⅵ(各2) [西洋史学専攻設置]		
	考古学Ⅰ・Ⅱ(各2)	} [民族学考古学専攻設置]			
民族学Ⅰ・Ⅱ(各2)					
研究会	30-04-31	[セ] 日本史研究会Ⅰ・Ⅱ(各1)	4単位		
	30-04-32	[セ] 日本史研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)			
卒試	30-04-41	卒業試験(卒業論文)			
選択科目	30-04-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目 日本史学専攻設置の次の科目を含めることができる 日本史洋書講読Ⅰ・Ⅱ(各1)	30単位以上		

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された42単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注) 「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「日本史史料講読Ⅰ・Ⅱ」

1. 史料講読は、第2学年から第3学年への進級条件科目とする。
2. 第2学年次に留学する者は、第3学年次に履修することを特例として承認する。

【第3学年】

<進級条件科目>

「日本史研究会Ⅰ・Ⅱ」(担当者の許可を得たもの)(第2学年では履修することができない)

1. 日本史研究会は、ⅠとⅡ、ⅢとⅣを同一学年で続けて履修することを原則とする。
2. 日本史研究会Ⅰ・Ⅱは、原則として第3学年から第4学年への進級条件科目とする。
3. 留学した場合、留学先において、該当する学期の日本史研究会と単位互換することができる演習等の履修を要する。

＜学年指定科目＞

「日本史演習ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJ」(担当者の許可を得たもの)(第2学年では履修することができない)

1. 日本史演習ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJは、4科目を第3学年次以降にセット科目として履修する。
2. 第3学年秋学期より第4学年春学期まで留学した場合、第3学年春学期に履修した演習Ⅰと、第4学年秋学期に履修した演習Ⅱを合わせて単位認定することができる。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「日本史研究会Ⅲ・Ⅳ」(担当者の許可を得たもの)(第2・3学年では履修することができない)

「卒業試験(卒業論文)」

卒業試験は、卒業論文によって行う。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修申告すること(日本史研究会Ⅲ・Ⅳとは別の登録番号がある)。

【各学年共通】

- (1) 「史学概論Ⅰ・Ⅱ」は日本史学専攻用の登録番号で登録しなければならない。
- (2) 「日本史概説Ⅰ～Ⅳ」すべてを卒業までに履修し、単位を修得しなければならない。
- (3) 「古文書学Ⅰ・Ⅱ」のうち1科目、「古文書学Ⅲ・Ⅳ」のうち1科目を卒業までに履修し、単位を修得しなければならない。
- (4) 「日本史特殊ⅠA～ⅠH・ⅡA～ⅡH」は、卒業までに6科目12単位を履修し、単位を修得しなければならない。
- (5) 「東洋史概説Ⅰ～Ⅹ」、「西洋史概説Ⅰ～Ⅵ」、「考古学Ⅰ・Ⅱ」、「民族学Ⅰ・Ⅱ」の中から2科目を卒業までに履修し、単位を修得しなければならない。
- (6) 各研究会は指定された学年で履修しなければならない。
各学年で3科目以上履修することはできない。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目30単位以上を卒業までに修得しなければならない。(30～33ページを参照)
- (2) 「日本史洋書講読Ⅰ・Ⅱ」は日本史学専攻設置の選択科目である。

4 履修上の注意

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
指定単位数を超えて修得した必修科目は、選択科目(30-04-55)とみなし、卒業単位として取り扱う。履修申告では、必修単位として挙げられている科目は全てA欄申告すること。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
日本史学専攻以外の設置科目については、卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。
日本史学専攻の設置科目の重複履修については、「日本史史料講読Ⅰ・Ⅱ」、「日本史研究会Ⅰ～Ⅳ」を除き、以下のとおりとする。
卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目1回までとする。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。
 - A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を1回まで認め、必修科目(上記(1)に該当する場合ならびに日本史洋書講読Ⅰ・Ⅱは選択科目)として取り扱う(A欄申告)。
 - B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。
- (3) 留学を希望する場合
留学前に専攻担任との面談を必ず受け、必修科目の取扱いなどを確認すること。

東洋史学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

東洋史学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]：要件科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	30-05-11	[要] 東洋史研究入門Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	40単位	
	30-05-12	[要] 東洋史講読ⅠA～ⅠE(各1)のうち1科目 [要] 東洋史講読ⅡA～ⅡE(各1)のうち1科目	2単位		
	30-05-13	東洋史概説Ⅰ～Ⅹ(各2)のうち6科目(12)	12単位		
	30-05-21	東洋史特殊ⅠA～ⅠV・ⅡA～ⅡV(各2)のうち8科目(16)	16単位		
	30-05-22	史学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)[史学系設置科目] 日本史概説Ⅰ～Ⅳ(各2)[日本史学専攻設置] 西洋史概説Ⅰ～Ⅵ(各2)[西洋史学専攻設置] }のうち2科目(4)	4単位		
	30-05-31	[要] 東洋史研究会Ⅰ(A)～(F)・Ⅱ(A)～(F)(各1)のうち2科目(2)	2単位		
	30-05-32	[要] 東洋史研究会Ⅲ(A)～(F)・Ⅳ(A)～(F)(各1)のうち2科目(2)	2単位		
卒試	30-05-41	卒業試験(卒業論文)			
選択科目	指定選択	30-05-51	必修科目として履修しない 東洋史特殊ⅠA～ⅠV・ⅡA～ⅡV(各2) [要] 東洋史研究会Ⅰ(A)～(F)・Ⅱ(A)～(F)(各1) [要] 東洋史研究会Ⅲ(A)～(F)・Ⅳ(A)～(F)(各1)	合計12単位まで含めることができる	32単位以上
	選択科目	30-05-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目 東洋史学専攻設置の次の科目を含めることができる 東洋史演習ⅠA～ⅠC・ⅡA～ⅡC(各1)		

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

(注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「東洋史研究入門Ⅰ・Ⅱ」

※必修語学科目の変更について

第2学年において必修語学科目のうち1語種をアラビア語、ペルシア語、トルコ語のうちいずれかひとつの語種に変更することができるが、同一語種を4科目(4単位)履修し、単位修得しなければならない(いずれもB欄91)

- ① アラビア語とトルコ語：文学部設置のアラビア語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、またはトルコ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修し、かつ単位修得しなければならない。
- ② ペルシア語：2科目は文学部設置のペルシア語Ⅰ・Ⅱを、もう2科目は言語文化研究所特殊講座のペルシア語初級Ⅰ・Ⅱを履修し、かつ単位修得しなければならない。

【第3学年】

＜進級条件科目＞

「東洋史講読ⅠA～ⅠE」のうち1科目、「東洋史講読ⅡA～ⅡE」のうち1科目
 「東洋史研究会Ⅰ(A)～(F)」のうち1科目、「東洋史研究会Ⅱ(A)～(F)」のうち1科目
 東洋史講読の履修については次項【各学年共通】(2)を参照すること。
 研究会の履修については次項【各学年共通】(4)を参照すること。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「東洋史研究会Ⅲ(A)～(F)」のうち1科目、「東洋史研究会Ⅳ(A)～(F)」のうち1科目、「卒業試験(卒業論文)」
 研究会の履修については次項【各学年共通】(4)を参照すること。
 卒業試験は卒業論文によって行う。第4学年は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」
 を必ず履修申告すること(研究会とは別の登録番号がある)。

【各学年共通】

- (1) 東洋史研究入門Ⅰおよび東洋史研究入門Ⅱは、【留学に伴う単位認定】(92ページ)の対象外とする。
- (2) 「東洋史講読ⅠA～ⅠE」のうち1科目、「東洋史講読ⅡA～ⅡE」のうち1科目を第2学年または第3学年において必修科目として履修し、かつ単位修得しなければならない。「東洋史講読ⅠA～ⅠE」と「東洋史講読ⅡA～ⅡE」は同一担当者の科目を履修すること。
- (3) 「史学概論Ⅰ・Ⅱ」は東洋史学専攻用の登録番号で登録しなければならない。
- (4) 「東洋史研究会」
 「東洋史研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は同一担当者の科目を第3・4学年においてそれぞれ必修科目の単位として2科目ずつ2年間連続して履修することを原則とする。ただし、以下の場合を認める。
 - ① 事情により第3学年に選択科目として単位修得した「東洋史研究会Ⅰ・Ⅱ」と同一担当者の「東洋史研究会Ⅲ・Ⅳ」を第4学年において必修科目として履修し、その担当者の「卒業試験(卒業論文)」を履修申告することもできる。
 - ② 第2学年で履修することも可能。履修する場合は、自由科目として履修申告すること(B欄99)。
 - ③ 同一学年において4科目以上履修することをさまたげないが、その場合、2科目を必修科目として履修し(30-05-31または32)、残りは指定選択科目(30-05-51)としなければならない(B欄51)。
 ただし、第2学年は②のとおりとする。また、第3学年で4科目(4単位)を修得しても卒業要件を満たさない。
 - ④ 留学先の授業科目の時間数および内容が適切と認められる場合、当該科目の単位を東洋史研究会Ⅱ(A)～(F)あるいは東洋史研究会Ⅲ(A)～(F)の単位として認定することがある。認定を希望する者は履修案内91ページに定める留学に関する手続きを始める前に、自身が履修する東洋史研究会Ⅰ(A)～(F)の担当者および専攻担任にその旨相談し、留学先の当該科目の時間数および内容を証明する書類を提出のうえ両者から事前承認を得ること。最終的な認定の可否は、留学から帰国後に【留学に伴う単位認定】(92ページ)の定めに従い、決定する。東洋史研究会Ⅰ(A)～(F)および東洋史研究会Ⅳ(A)～(F)は、【留学に伴う単位認定】の対象外とする。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目32単位以上を卒業までに修得しなければならない。(30～33ページを参照)
- (2) 「東洋史演習ⅠA～ⅠC・ⅡA～ⅡC」は東洋史学専攻設置の選択科目である。
- (3) 指定選択科目については、次項4(1)②を参照すること。

4 履修上の注意

(1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い

- ① 必修科目のなかで、ひとつのグループから一定数の科目を履修するように指定されている科目（分野番号 30-05-12、30-05-13、30-05-22 の科目）について指定単位数を超えて履修し、かつ単位修得した場合は選択科目（分野番号 30-05-55）の単位とみなす（A 欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと）。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- ② 「東洋史特殊 I A～I V・II A～II V」、「東洋史研究会 I (A)～(F)・II (A)～(F)・III (A)～(F)・IV (A)～(F)」は必修科目の指定単位数を超えて単位修得した場合、合計 12 単位まで指定選択科目（分野番号は 30-05-51）として認める（A 欄申告。ただし研究会については上記【各学年共通】も参照のこと）。

(2) 重複履修の取り扱いについて

東洋史学専攻以外の設置科目については、卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。

東洋史学専攻の設置科目の重複履修については、以下のとおりとする。

- ① 「東洋史研究入門 I・II」、「東洋史概説 I～X」
同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同にかかわらず自由科目として履修すること（B 欄 99）。
- ② 「東洋史講読 I A～I E・II A～II E」、「東洋史演習 I A～I C・II A～II C」
 - A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目 1 回まで認め、選択科目として取り扱う（「東洋史講読」は B 欄 55、「東洋史演習」は A 欄申告すること）。重複履修が 2 回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B 欄 99）。
 - B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途 Web 等に掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。
- ③ 「東洋史特殊 I A～I V・II A～II V」
 - A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目 1 回まで認め、必修科目（上記(1)に該当する場合は指定選択科目）として取り扱う（A 欄申告）。重複履修が 2 回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B 欄 99）。
 - B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途 Web 等に掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。
- ④ 「東洋史研究会 I～IV」
 - A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目 1 回まで認め、指定選択科目として取り扱う（B 欄 51）。重複履修が 2 回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B 欄 99）。
 - B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合には、自由科目として履修すること（B 欄 99）。

(3) 東洋史演習「I A～I C・II A～II C」、文学部設置のアラビア語、ペルシア語、トルコ語、中国語、韓国語、それに言語文化研究所特殊講座のアジア諸言語をできるだけ積極的に履修することが望ましい。

西洋史学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

西洋史学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	必修	30-06-11 史学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	40単位	
		30-06-12 西洋史学原典講読Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位		
		30-06-13 西洋史演習Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位		
		30-06-14 西洋史概説Ⅰ～Ⅵ(各2)	12単位		
	選択必修	30-06-21 西洋史特殊ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJ(各2)のうち4科目(8)	8単位		
		30-06-22 日本史概説Ⅰ～Ⅳ(各2) [日本史学専攻設置] のうち2科目(4)	4単位		
		30-06-23 東洋史概説Ⅰ～Ⅹ(各2) [東洋史学専攻設置] のうち2科目(4)	4単位		
	研究会	30-06-31 西洋史研究会Ⅰ(A)～(G)・西洋史研究会Ⅱ(A)～(G)(各1)	4単位		
		30-06-32 西洋史研究会Ⅲ(A)～(G)・西洋史研究会Ⅳ(A)～(G)(各1)			
卒試	30-06-41 卒業試験(卒業論文)				
選択科目	30-06-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		32単位以上		

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された24科目40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「西洋史学原典講読Ⅰ・Ⅱ」

第2学年において同一担当者の「西洋史学原典講読Ⅰ」および「同Ⅱ」を履修することを原則とする。

第2学年の在籍者で、次のいずれかの条件に該当する者は、第2学年の初めに専攻別ガイダンスで指示を受けること。

- ・必修語学として英語を履修していない。
- ・必修語学として独語・仏語・伊語・西語・露語のうちいずれの言語も履修していない。

【第3学年】

<進級条件科目>

「西洋史研究会Ⅰ(A)～(G)」・「西洋史研究会Ⅱ(A)～(G)」の2科目

「西洋史演習(独語・仏語・伊語・西語・露語のいずれか)Ⅰ・Ⅱ」

第3学年において同一担当者の「西洋史演習Ⅰ」および「同Ⅱ」を履修することを原則とする。

【第4学年】

<卒業要件科目>

「西洋史研究会Ⅲ(A)～(G)」・「西洋史研究会Ⅳ(A)～(G)」の2科目、「卒業試験(卒業論文)」

卒業試験は卒業論文によって行う。第4学年は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修申告すること。

【各学年共通】

- (1) 「西洋史概説」は「Ⅰ～Ⅵ」のすべてを修得しなければならない。
- (2) 「西洋史特殊ⅠA～ⅠJ」および「ⅡA～ⅡJ」は4科目8単位を必修科目として修得しなければならない。同一担当者による同一科目名の科目は、自由科目としてしか履修することができない。
- (3) 「西洋史研究会Ⅰ～Ⅳ」は第2学年で履修することはできない。第3・4学年において同一担当者の「西洋史研究会Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ・Ⅳ」を継続して履修することを原則とする。また同一学年で異なるアルファベットの西洋史研究会を同時に履修することはできない。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目32単位以上を卒業までに修得しなければならない。(30～33ページを参照)

4 履修上の注意

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
「西洋史特殊ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJ」、「日本史概説Ⅰ～Ⅳ」、「東洋史概説Ⅰ～Ⅷ」はそれぞれ必修科目として指定単位数を超えて履修し、その単位を修得した場合、超過分は選択科目とみなし、卒業単位として取り扱う(A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと)。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
西洋史学専攻設置科目の重複履修の取り扱いは以下のとおりとする(他専攻設置科目である「日本史概説Ⅰ～Ⅳ」・「東洋史概説Ⅰ～Ⅷ」は卒業に必要な単位としての重複履修を認めない)。
 - ①「史学概論Ⅰ・Ⅱ」、「西洋史研究会Ⅰ～Ⅳ」
卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同にかかわらず自由科目として履修すること(B欄99)。
 - ②「西洋史学原典講読Ⅰ・Ⅱ」、「西洋史演習Ⅰ・Ⅱ」
 - A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、選択科目として取り扱う(B欄55)。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。
 - B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途Web等にて掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。
 - ③「西洋史概説Ⅰ～Ⅵ」、「西洋史特殊ⅠA～ⅠJ・ⅡA～ⅡJ」
 - A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、選択科目として取り扱う(B欄55)。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。
 - B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合、自由科目として履修すること(B欄99)。
- (3) 「史学概論Ⅰ・Ⅱ」は西洋史学専攻用の登録番号で登録しなければならない。
- (4) 「西洋史演習(独語・仏語・伊語・西語・露語)Ⅰ・Ⅱ」は第2学年で履修することはできない。
- (5) 交換留学・私費留学をする場合
「西洋史原典講読Ⅰ・Ⅱ」「西洋史演習Ⅰ・Ⅱ」「西洋史研究会Ⅰ～Ⅳ」にかかわる進級条件、卒業要件を変更することがある。留学前の、なるべく早い段階で専攻担任に相談すること。

民族学考古学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

民族学考古学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]：要件科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位	
			小計	合計
必修科目	必修	30-07-11 民族学考古学原典講読Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	40単位
		30-07-12 史学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	
		30-07-13 民族学考古学研究法Ⅰ・Ⅱ(各1) 民族学考古学研究法Ⅲ・Ⅳ(各1)	4単位	
	選択必修	30-07-21 民族学考古学特殊Ⅰ～XXⅡ(各2)のうち4科目(8)	8単位	
		30-07-22 考古学Ⅰ・Ⅱ(各2) 民族学Ⅰ・Ⅱ(各2) 人類学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) } いずれか4科目(8)	8単位	
		30-07-23 日本史概説Ⅰ～Ⅳ(各2) [日本史学専攻設置]	}のうち4科目(8)※	
		30-07-24 東洋史概説Ⅰ～Ⅹ(各2) [東洋史学専攻設置]		
		30-07-25 西洋史概説Ⅰ～Ⅵ(各2) [西洋史学専攻設置]		
		研究会	30-07-31 [要] 民族学考古学研究会Ⅰ(A)～(F)・Ⅱ(A)～(F)(各1)	
	30-07-32 [要] 民族学考古学研究会Ⅲ(A)～(F)・Ⅳ(A)～(F)(各1)			
卒試	30-07-41 卒業試験(卒業論文)			
選択科目	30-07-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		32単位以上	

※日本史概説、東洋史概説、西洋史概説の概説3種類のうちから必ず2つ以上の種類にわたって修得すること。

2 必修科目

必修科目として、上掲の授業科目系列表に示された40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注) 「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「民族学考古学原典講読Ⅰ・Ⅱ」

<学年推奨科目>

「民族学考古学研究法Ⅰ・Ⅱ」、「民族学考古学研究法Ⅲ・Ⅳ」

Ⅰ・ⅡとⅢ・Ⅳは、必ず同一学年で履修すること。必修語学と重複する場合など、やむを得ない事情がない限り、第2学年でⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ全てを履修すること。

【第3学年】

<進級条件科目>

「民族学考古学研究会Ⅰ・Ⅱ」

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「民族学考古学研究会Ⅲ・Ⅳ」、「卒業試験（卒業論文）」

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号がある）。

【各学年共通】

- (1) 「民族学考古学特殊Ⅰ～ⅩⅩⅡ」（分野 30-07-21）は4科目8単位を必修とする。
- (2) 研究会の履修について
 - ① 「民族学考古学研究会Ⅰ・Ⅱ」は原則として第3学年において履修し、「Ⅲ・Ⅳ」は第4学年（卒論指導）において履修する。第3学年において民族学考古学研究会Ⅰ・Ⅱ（計2単位）を必修科目として修得しない場合は、第4学年に進級できない。
ただし、第3学年の秋学期に「留学」（学則153条に基づく留学）する場合は、春学期に「Ⅰ」を必修科目として2科目（計2単位）修得することで、一方を「Ⅱ」と読み替えることにする。第4学年の春学期に「留学」（同前）する場合は、秋学期に「Ⅳ」を必修科目として2科目（計2単位）修得することで、一方を「Ⅲ」と読み替える。
 - ② 「民族学考古学研究会Ⅰ・Ⅱ」は第2学年で履修し、卒業単位にすることも可能。ただしその場合は選択科目（分野 30-07-55）として履修すること（B欄55）。
 - ③ 第3・第4学年では、「Ⅰ・Ⅱ」あるいは「Ⅲ・Ⅳ」一組を必修科目（A欄）として履修し、（注：留学の場合は「Ⅰ・Ⅰ」「Ⅳ・Ⅳ」となる）これ以外の研究会を履修する場合は、選択科目（B欄55）として申告すること。なお、選択科目として履修した科目を必修科目に変更することはできない。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目32単位以上を卒業までに修得しなければならない。（30～33ページを参照）。

4 履修上の注意

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
必修科目の中で、ひとつのグループから一定数の科目を履修するように指定された科目（分野 30-07-21・30-07-22・30-07-23・30-07-24・30-07-25）について指定単位数を超えて履修し、単位を修得した場合は選択科目（分野 30-07-55）の単位とみなし、卒業単位として取り扱う（A欄申告。ただし重複履修については（2）を参照のこと）。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
民族学考古学専攻以外の設置科目については、卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。
民族学考古学専攻設置科目の重複履修については、以下のとおりとする。
 - ① 「民族学考古学研究会Ⅰ～Ⅳ」
 - 2 必修科目【各学年共通】（2）を参照すること。
第2学年で「民族学考古学研究会Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得し、第3学年において必修科目として当該科目を履修する場合にのみ、同一担当者の同一科目名の重複履修を認める。
 - ② 「民族学考古学特殊Ⅰ～ⅩⅩⅡ」
 - A. 担当者が異なる場合
同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、選択必修科目（上記（1）に該当する場合は選択科目）として取り扱う（A欄申告）。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
 - B. 担当者が同じ場合
同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途 Web 等に掲示する。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること。
 - ③ 「民族学考古学研究会Ⅰ～Ⅳ」「民族学考古学特殊Ⅰ～ⅩⅩⅡ」以外の科目
同一名称の科目は、卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同に関わらず自由科目として履修すること（B欄99）。

国文学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

国文学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[セ]: セット履修科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	必修	30-08-11 国文学原典講読Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	36単位	
	選択必修	30-08-20 日本語学Ⅰ～Ⅷ(各2)のうち2科目(4)	4単位		
		30-08-21 国文学Ⅰ～XXⅡ(各2)のうち6科目(12)	12単位		
		30-08-22 国文学史Ⅰ～Ⅷ(各2)のうち4科目(8)	8単位		
		30-08-23 [セ]国文学演習Ⅰ～XⅡ(各1) [セ]日本語学演習Ⅰ・Ⅱ(各1)	のうち4科目(4) 4単位		
		30-08-24 日本語文法Ⅰ・Ⅱ(各2) 漢文概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	のうち2科目(4) 4単位		
	研究会	30-08-31 [セ]国文学研究会Ⅰ・Ⅱ(A)～(G)(各1)のうち同一担当者の2科目(2)	2単位		
卒試	30-08-41 卒業試験(卒業論文)				
選択科目	指定選択	日本語学Ⅰ～Ⅷ(各2) 国文学Ⅰ～XXⅡ(各2) 国文学史Ⅰ～Ⅷ(各2) [セ]国文学演習Ⅰ～XⅡ(各1) [セ]日本語学演習Ⅰ・Ⅱ(各1) 日本語文法Ⅰ・Ⅱ(各2) 漢文概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	のうち必修科目として履修していない10単位以上を含めなければならない。	10単位以上	40単位以上
	選択	30-08-55 本大学設置の専門教育科目(学部学則第35条3項参照) 国文学専攻設置の次の科目を含めることができる 日本語教育学Ⅰ～Ⅳ(各2)			

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された36単位を、以下の「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「国文学原典講読Ⅰ・Ⅱ」

「国文学原典講読」のクラス分けは、別に発表する。自分のクラスを確認の上、履修登録すること。

【第3学年】

<学年指定科目>

選択必修科目としての「国文学演習Ⅰ～XⅡ」「日本語学演習Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)はセット履修とする。第3学年において重複とならない2組みを履修すること(それ以上の履修もさまたげない)。

これらは進級条件科目ではないが、単位を取得できなかった演習と同じ担当者の「国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」を第4

学年で履修することはできない。ただし、交換留学・私費留学など特別な事情がある場合のみ、第3学年で単位を取得していない演習の担当者と同一の担当者の「国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」の履修を、担当教員と面接のうえ認めることがある。

留学に関しては、第3学年の春・秋学期、または、第3学年の秋学期に実施し、単位取得など所定の条件を満たした場合のみ、最短で4年間の在学で卒業することが可能となる。このような留学に際しては、留学前の面談の時期に注意すること（第3学年春学期以降留学する場合は第2学年の学期中、第3学年秋学期以降留学する場合は第3学年の5月末日を期限とする）。なお、留学中に取得した単位は、国文学原典講読、国文学史、国文学演習、日本語学演習、国文学研究会の単位には読み替えられないものとする。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

①「国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」

研究会は、セット履修とする。「国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」（各1単位 計2単位）のうち、第3学年で履修した2組みの「国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」「日本語学演習Ⅰ・Ⅱ」のうち、一方の担当者と同一の担当者のⅠ・Ⅱ1組みを選択して履修すること。2組み以上の「国文学研究会」を履修することはできない。これは卒業論文指導であるから、論文のテーマ等を考え、指導を受けようとする教員の研究会を選ぶこと。その際、専攻所定の手続きを取り、担当教員の承認を受けなければ「国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」の履修は認められない。

②「卒業試験（卒業論文）」

卒業試験は卒業論文によって行うので、4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号がある）。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目（国文学専攻設置の「日本語教育学Ⅰ～Ⅳ」を含める）40単位以上を卒業までに修得しなければならない。（30～33ページを参照）
- (2) このうちには、「日本語学Ⅰ～Ⅷ」・「国文学Ⅰ～ⅩⅩⅡ」・「国文学史Ⅰ～Ⅷ」・「国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」・「日本語学演習Ⅰ・Ⅱ」・「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」・「漢文概論Ⅰ・Ⅱ」の中から必修科目として履修しない10単位以上を指定選択科目として、含めなければならない。

履修申告の際には、必修科目と指定選択科目を区別せず、すべてを必修科目としてA欄申告すること（必修科目としての単位数を超えた段階で、以降の科目が自動的に指定選択科目として処理される）。ただし重複履修の場合は4-(2)を参照。

4 履修上の注意

- (1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱いについて
「日本語学Ⅰ～Ⅷ」・「国文学Ⅰ～ⅩⅩⅡ」・「国文学史Ⅰ～Ⅷ」・「国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」・「日本語学演習Ⅰ・Ⅱ」・「漢文概論Ⅰ・Ⅱ」に関しては、それぞれ必修科目としての単位数を超えて履修した科目の単位は、自動的に指定選択科目の単位となる（履修申告は必修科目としてA欄申告すること。ただし重複履修の場合は4-(2)を参照）。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。

(2) 重複履修の取り扱いについて

- ①「日本語学Ⅰ～Ⅷ」「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」は重複履修できない。
- ②すでに履修した必修科目を重複履修する際は、以下の点に注意すること。特に、選択科目として履修できる単位数の制限と、履修申告の際の申告欄に注意すること。

〈対象科目〉

A.「国文学Ⅰ～ⅩⅩⅡ」、B.「国文学史Ⅰ～Ⅷ」、C.「国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」・「日本語学演習Ⅰ・Ⅱ」、D.「漢文概論Ⅰ・Ⅱ」

〈重複履修の方法〉

卒業に必要な単位としての重複履修は、各科目1回までとする。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。

a. 担当者が異なる場合

同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、必修科目として取り扱う（A欄申告）。

β. 担当者が同じ場合

同一科目名・同一担当者の場合については、選択科目としての履修を許可する科目を、履修申告前に別途 Web 等に掲示する (B 欄 51)。許可する科目のリストにないものは、自由科目として履修申告すること (B 欄 99)。

なお、同一担当者の科目を重複履修する場合、A・B の科目群においては、それぞれの科目群につき合計 8 単位まで、C の科目群においては 4 単位までとする。

(3) 学年によって履修できない科目について

- ① 「国文学演習 I ～ XII」「日本語学演習 I ・ II」は、必修科目としてだけでなく、選択科目としても、第 2 学年では履修できない。
- ② 「国文学研究会 I ・ II」は第 2 学年・第 3 学年では履修できない。

中国文学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

中国文学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類	分野番号	授業科目名 (単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	30-09-11	中国古典文学史Ⅰ・Ⅱ (各2)	12 単位	38 単位	
		中国現代文学史Ⅰ・Ⅱ (各2)			
		中国語学概論Ⅰ・Ⅱ (各2)			
		中国文学特殊ⅠA またはⅠB、ⅡA またはⅡB (各2)			
	30-09-12	中国語学特殊ⅠA またはⅠB、ⅡA またはⅡB (各2)	4 単位		
	30-09-13	中国語学特殊ⅠA またはⅠB、ⅡA またはⅡB (各2)	4 単位		
	30-09-14	中国文化特殊ⅠA またはⅠB、ⅡA またはⅡB (各2)	4 単位		
選択必修	30-09-21	中国語学・中国文学演習Ⅰ～Ⅻ (各1)	12 単位	38 単位	
		中国語表現演習Ⅰ～Ⅵ (各1)			
		のうち 12 科目 (12)			
研究会	30-09-31	中国語学・中国文学研究会Ⅰ・Ⅱ (各1)	2 単位		
卒試	30-09-41	卒業試験 (卒業論文)			
選択科目	研究会	30-09-32	中国語学・中国文学研究会Ⅲ・Ⅳ (各1)	38 単位以上	
	指定選択	30-09-51	必修科目として履修しない 中国文学特殊ⅠA またはⅠB、ⅡA またはⅡB (各2) 中国語学特殊ⅠA またはⅠB、ⅡA またはⅡB (各2) 中国文化特殊ⅠA またはⅠB、ⅡA またはⅡB (各2) 中国語学・中国文学演習Ⅰ～Ⅻ (各1) 中国語表現演習Ⅰ～Ⅵ (各1) 中国語会話特殊Ⅰ～Ⅳ (各1) [全専攻共通科目] 漢文講読Ⅰ～Ⅳ (各1) [全専攻共通科目]		のうち 10単位以上を 含めなければ ならない。
	選択	30-09-55	上記以外の大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された 38 単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注) 「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35 ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「中国古典文学史Ⅰ・Ⅱ」、「中国現代文学史Ⅰ・Ⅱ」、「中国語学概論Ⅰ・Ⅱ」

【第3学年】

進級条件科目はないが研究会Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「卒業試験（卒業論文）」

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号がある）。(4. (3)「研究会の履修方法」を参照すること。)

【各学年共通】

- (1) 「中国文化特殊ⅠA・ⅡA、ⅠB・ⅡB」、「中国語学・中国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」、「中国語表現演習Ⅰ～Ⅵ」は「シラバス講義要綱」で推奨学年が示される場合がある。
- (2) 「中国文学特殊ⅠA・ⅡA、ⅠB・ⅡB」、「中国語学特殊ⅠA・ⅡA、ⅠB・ⅡB」、「中国語学・中国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」は第3学年または第4学年のいずれで履修してもよい。ただし、「中国語学・中国文学研究会Ⅰ・Ⅱ」については、第3学年で履修することが望ましい。(研究会の履修については、4. (3)「研究会の履修方法」を参照すること。)

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目38単位以上を卒業までに修得しなければならない。(30～33ページを参照)
- (2) 選択科目の中には、指定選択科目として下記①～⑧の科目のうちから10単位以上を含めなければならない。
 - ①「中国語学・中国文学研究会Ⅲ・Ⅳ」(各1)
 - ② 必修科目として履修しない「中国文学特殊ⅠAまたはⅠB、ⅡAまたはⅡB」(各2)
 - ③ 必修科目として履修しない「中国語学特殊ⅠAまたはⅠB、ⅡAまたはⅡB」(各2)
 - ④ 必修科目として履修しない「中国文化特殊ⅠAまたはⅠB、ⅡAまたはⅡB」(各2)
 - ⑤ 必修科目として履修しない「中国語学・中国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」(各1)
 - ⑥ 必修科目として履修しない「中国語表現演習Ⅰ～Ⅵ」(各1)
 - ⑦「中国語会話特殊Ⅰ～Ⅳ」(各1)
 - ⑧「漢文講読Ⅰ～Ⅳ」(各1)

4 履修上の注意

- (1) 必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
 - ①「中国文学特殊ⅠA・ⅡA、ⅠB・ⅡB」、「中国語学特殊ⅠA・ⅡA、ⅠB・ⅡB」、「中国文化特殊ⅠA・ⅡA、ⅠB・ⅡB」は、いずれも4単位を必修科目として履修する。それ以上さらに履修(A欄申告)する場合は、指定選択科目とみなし、修得した単位は卒業単位として取り扱う。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
 - ②「中国語学・中国文学演習Ⅰ～ⅩⅡ」および「中国語表現演習Ⅰ～Ⅵ」は、計18単位のうち12単位を必修科目として履修する。それ以上さらに履修する場合は、指定選択科目として履修することができる(A欄申告)。
- (2) 重複履修の取り扱い
下の学年ですでに単位を取得した中国文学専攻設置の必修科目・選択科目を上学年で再度履修する場合は、科目担当者が異なる場合、8単位まで指定選択科目として認める。Web履修申告はB欄51で申告すること。
- (3) 研究会の履修方法
研究会は、第3・4学年と続けて、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの順に履修することが望ましい。学則上、ⅠとⅡは必修科目、ⅢとⅣは選択科目であるが、ⅢとⅣは卒業論文指導を主体とする必修に準ずる科目であるので履修することが望ましい。履修しない場合は、必ず専攻担任に申し出ること。
- (4) 留学に伴う研究会履修の特別措置
研究会は、ⅠとⅡ、ⅢとⅣをそれぞれ同一学年で続けて履修することを原則とする。但し、第3学年秋学期から留学し、留学期間の在学期間への算入によって、翌年第4学年に進級して復学する場合、第3学年春学期(留学前)にⅠを履修し、第4学年秋学期(留学後)にⅡを履修することを認める。また、留学に伴って単位認定が必要になる可能性があるため、留学前には必ず専攻担任に相談すること。
- (5) 2年生の必修語学の履修語種
2年生の必修語学は、1年次に履修した語種の如何に関わらず原則として中国語(中級・上級・最上級のいずれか)を履修すること。ただし、中国語を母語とする留学生は、原則として日本語を履修すること。

英米文学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

英米文学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]: 要件科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位	
			小計	合計
必修科目	30-10-11	英語史Ⅰ・Ⅱ(各2) 英文学史Ⅰ・Ⅱ(各2) 米文学史Ⅰ・Ⅱ(各2) 現代英語学Ⅰ・Ⅱ(各2) 英語英米文学基礎講読Ⅰ(A)～(G)・Ⅱ(A)～(G)(各1) …第2学年での修得が望ましい	18単位	40単位
		30-10-12	古代中世英語学Ⅰ・Ⅱ(各2)…第3学年指定科目 英語音声学Ⅰ・Ⅱ(各2)	
	30-10-21	英語学特殊Ⅰ～ⅩⅥ(各2) 英文学特殊Ⅰ～ⅩⅩⅡ(各2) 米文学特殊Ⅰ～ⅩⅥ(各2)	10単位 } のうち10単位	
	30-10-31	[要] 英語学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1) [要] 英語学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)	4単位 } のうち同分野同担当者 4科目(4)	
		[要] 英文学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1) [要] 英文学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)		
30-10-41	卒業試験(卒業論文)			
選択科目	30-10-51	英米文学専攻設置の以下の科目を含めることができる 英語学Ⅰ～ⅩⅣ(各2) 英文学Ⅰ～ⅩⅥ(各2) 米文学Ⅰ～ⅩⅡ(各2) アカデミック・ライティングⅠA～ⅠE(各1)・ⅡA～ⅡE(各1)	32単位以上	
	30-10-55	大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

必修科目の「英語史Ⅰ・Ⅱ」、「英文学史Ⅰ・Ⅱ」、「米文学史Ⅰ・Ⅱ」、「現代英語学Ⅰ・Ⅱ」、「英語英米文学基礎講読Ⅰ・Ⅱ」の組み合わせのうち3組以上。また、「英語英米文学基礎講読Ⅰ・Ⅱ」は第2学年で修得することが望ましい。しかし、第2学年において、「英語英米文学基礎講読Ⅰ」あるいは「英語英米文学基礎講読Ⅱ」が不合格となっても、上記の5組中3組に合格していれば、進級条件を満たすことになる。

但し、「交換留学」「私費留学」を予定している者については、進級条件を一部変更することもある。事前に専攻担任に相談のこと。

【第3学年】

＜進級条件科目＞

「研究会Ⅰ」および「研究会Ⅱ」

4. (4)、5. (1) を参照。

但し、「交換留学」「私費留学」を予定している者については、進級条件を一部変更することもある。事前に専攻担任に相談のこと。なお、単位認定については、履修案内の該当箇所を事前によく読んでおくこと。

＜学年指定科目＞

「古代中世英語学Ⅰ」および「古代中世英語学Ⅱ」

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「研究会Ⅲ」および「研究会Ⅳ」、「卒業試験（卒業論文）」

4. (4) を参照。

4年生は「研究会Ⅲ」ならびに「研究会Ⅳ」とともに必ず文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」も履修申告すること。

「卒業試験（卒業論文）」は、「研究会」とは別の登録番号があるので注意されたい。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目 32 単位以上を卒業までに修得しなければならない（30～33 ページを参照）。
- (2) 「英語学Ⅰ～Ⅳ」、「英文学Ⅰ～Ⅵ」、「米文学Ⅰ～Ⅱ」、「アカデミック・ライティングⅠA～ⅠE・ⅡA～ⅡE」は英米文学専攻設置の選択科目である。

4 履修上の注意

- (1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い
選択必修科目である「英語学特殊Ⅰ～Ⅵ」、「英文学特殊Ⅰ～ⅡⅡ」、「米文学特殊Ⅰ～Ⅵ」（分野 30-10-21）の3種類のみ、必修指定単位数（10 単位）を超えて履修した場合は選択科目とみなし、卒業単位として扱う（A 欄申告。ただし重複履修については（2）を参照のこと）。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱い
英米文学専攻設置科目の重複履修の取り扱いは以下のとおりとする。
 - ① 選択必修科目「英語学特殊Ⅰ～Ⅵ」、「英文学特殊Ⅰ～ⅡⅡ」、「米文学特殊Ⅰ～Ⅵ」（分野 30-10-21）
上記科目については、選択必修科目（上記（1）に該当する場合は選択科目）として複数回の重複履修を認める（A 欄申告）。
 - ② 選択科目「英語学Ⅰ～Ⅳ」、「英文学Ⅰ～Ⅵ」、「米文学Ⅰ～Ⅱ」、「アカデミック・ライティングⅠA～ⅠE・ⅡA～ⅡE」（分野 30-10-51）
上記科目については、同一科目名で担当者が異なる場合にかぎり、重複履修を各科目 1 回まで認め、選択科目として取り扱う（A 欄申告）。同一科目名で同一担当者の場合、あるいは重複履修が 2 回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B 欄 99）。
 - ③ 上記以外の科目
卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同にかかわらず自由科目として履修すること（B 欄 99）。
- (3) 特殊科目、アカデミック・ライティングの履修上の注意
「英語学特殊Ⅰ～Ⅵ」、「英文学特殊Ⅰ～ⅡⅡ」、「米文学特殊Ⅰ～Ⅵ」、「アカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ（A～E）」は、原則として定員を 20 名とする。
「英語学特殊Ⅰ～Ⅵ」、「英文学特殊Ⅰ～ⅡⅡ」、「米文学特殊Ⅰ～Ⅵ」は、第2学年では2単位、第3学年では8単位までしか履修を認めない。第4学年では特に上限を設けない。

(4) 「研究会」の履修上の注意

第3・4学年の2年間にわたって同一担当者の科目を履修する。第3学年においては、「研究会Ⅰ」および「研究会Ⅱ」を、第4学年においては「研究会Ⅲ」および「研究会Ⅳ」を履修すること。

「研究会Ⅰ」、「研究会Ⅱ」、「研究会Ⅲ」、「研究会Ⅳ」のそれぞれを、同一学年で2科目以上履修することはできない。またこれらを第2学年で履修することはできない。

5 その他

(1) 「研究会」志望上の注意

第3学年においてどの「研究会」を選ぶかは、第2学年中に行われるガイダンスに出席して各自の希望で決め、定められた期日までに志望票を提出すること。ただし、希望者多数の研究会では選抜が行われることがある。なお、以上の手続を経たうえで担当教員の承認を受けなければ、「研究会」の履修は認められない。

(2) 各学年共通の注意

履修案内を熟読してもなお不明な点がある場合は、必ず専攻担任に尋ねて疑問を解消し、後に困難な事態に立ち至らぬよう留意されたい。

独文学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

独文学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 [要]: 要件科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位	
			小計	合計
必修科目	必修	30-11-11 テキスト研究中級Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	46単位
		30-11-12 ドイツ文学史Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	
		30-11-13 ドイツ語学研究Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	
		30-11-14 ドイツ語学演習Ⅰ・Ⅱ(各1)	2単位	
		30-11-15 現代ドイツ研究Ⅰ・Ⅱ(各2)	4単位	
	選択必修	30-11-21 テキスト研究上級Ⅰ～Ⅳ(各1)のうち2科目(2)	2単位	
		30-11-22 ドイツ語作文初級Ⅰ・Ⅱ(各1) ドイツ語作文中級Ⅰ・Ⅱ(各1) }のうち2科目(2)※	2単位	
		30-11-23 コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅰ～Ⅳ(各1) コミュニケーション・ドイツ語上級Ⅰ～Ⅳ(各1) }のうち4科目(4)※※	4単位	
		30-11-24 [要]ドイツ研究の技法Ⅰ・Ⅱ(各2) 中世ドイツの言語と文化Ⅰ・Ⅱ(各2) 近代ドイツ研究Ⅰ・Ⅱ(各2) 演劇・メディア研究Ⅰ・Ⅱ(各2) ドイツ思想研究Ⅰ・Ⅱ(各2) ドイツ文化研究Ⅰ～Ⅳ(各2) ドイツ文化史Ⅰ・Ⅱ(各2) }のうち8科目(16)	16単位	
		ゼミ 30-11-31 ドイツ語学文学ゼミナールⅠ～ⅩⅥ(各1)のうち6科目(6)	6単位	
	卒試 30-11-41 卒業試験(卒業論文)			
選択科目	30-11-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		30単位以上	

※ 「初級Ⅰ・Ⅱ」2科目(2)もしくは「中級Ⅰ・Ⅱ」2科目(2)を履修することが望ましい

※※ 「中級Ⅰ～Ⅳ」4科目(4)もしくは「上級Ⅰ～Ⅳ」4科目(4)を履修することが望ましい

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された46単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「テキスト研究中級Ⅰ・Ⅱ」

<学年推奨科目>

以下の科目を、第2学年で履修すべき科目として推奨する。第2学年で単位を修得できなかった場合は、第3学年で再度履修することが望ましい。ただし、学生個々の進度に応じて学年にこだわらずに履修することも認められる。

- ① 「ドイツ文学史Ⅰ・Ⅱ」(春秋連続して履修することが望ましい)
- ② 「ドイツ語作文初級Ⅰ・Ⅱ」、「ドイツ語作文中級Ⅰ・Ⅱ」のうち「初級Ⅰ・Ⅱ」の2科目もしくは「中級Ⅰ・Ⅱ」の2科目
- ③ 「コミュニケーション・ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(この4科目を同一学年で並行して履修することが望ましい)
- ④ 「ドイツ研究の技法Ⅰ・Ⅱ」(春秋連続して履修することが望ましい)
- ⑤ 「ドイツ語学演習Ⅰ・Ⅱ」

【第3学年】

＜学年推奨科目＞

(1) 以下の科目を、第3学年で履修すべき科目として推奨する。第3学年で単位を修得できなかった場合は、第4学年で再度履修すること。ただし、学生個々の進度に応じて学年にこだわらずに履修することも認められる。

- ① 「テキスト研究上級Ⅰ～Ⅳ」のうち2科目
- ② 「コミュニケーション・ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(この4科目は同一学年で並行して履修することが望ましい)

(2) 「ドイツ語学文学ゼミナール」の履修方法については、次項【各学年共通】を参照すること。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「ドイツ語学文学ゼミナールⅠ～ⅩⅥ」のうち1科目以上、「卒業試験(卒業論文)」

「ドイツ語学文学ゼミナール」の履修方法については、次項【各学年共通】を参照すること。

卒業試験は卒業論文によって行う。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験(卒業論文)」を必ず履修申告すること(「ドイツ語学文学ゼミナール」とは別の登録番号がある)。

【各学年共通】

「ドイツ語学文学ゼミナール」の履修方法

- ① 第4学年において、卒業論文作成にあたり「卒業試験(卒業論文)」のいずれかの担当者に指導教員として承認と指示を受け、指導教員が担当する「ドイツ語学文学ゼミナール」を履修すること。指導を希望する教員のゼミナールは、第3学年と第4学年の2年間、継続して履修することが望ましい。
- ② 「ドイツ語学文学ゼミナールⅠ～ⅩⅥ」はいくつ履修してもよいが、卒業に必要な必修単位は6単位である。
 - ①の理由から、その内訳には、同一科目を2科目ずつ計4単位まで含めることができる。また、修得単位が必要単位数を超えたときには、自動的に選択科目の単位とみなされる(A欄申告)。
- ③ 第3学年において6単位以上修得しても卒業要件は満たさない。
- ④ 第2学年において「ドイツ語学文学ゼミナール」を履修することは、原則としてできないが、例外として担当教員と専攻担任が必要と認めた場合には許可することもあるため、専攻担任へ相談すること。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目30単位以上を卒業までに修得しなければならない。(30～33ページを参照)

4 履修上の注意

- (1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い

必修科目の取得単位が必要単位数を超えたときには、自動的に選択科目の単位とみなされる(A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと)。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱いについて
 - ① 「ドイツ語学文学ゼミナール」以外の必修科目に関しては、原則として卒業に必要な単位としての重複履修は認められない。同一科目を重複履修する場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。
 - ② 「ドイツ語学文学ゼミナール」は例外的に2科目ずつ計4単位まで必修科目としての重複履修が可能である(A欄申告)。

仏文学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

仏文学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 以下の表を用いて履修申告する授業科目の分野番号を確認すること。

種類	分野番号	授業科目名 (単位)	卒業必要単位			
			小計	合計		
必修科目	基礎コース	30-12-11 フランス語学演習Ⅰ・Ⅱ (各1) フランス語表現演習Ⅰ～Ⅳ (各1)	6 単位	40 単位		
			30-12-12 フランスの文化と歴史Ⅰ・Ⅱ (各2) フランス文学史Ⅰ・Ⅱ (各2)		8 単位	
	専門コース	30-12-21 フランス文学と近代Ⅰ～Ⅳ (各2) フランス文学と現代Ⅰ・Ⅱ (各2)	} のうち6科目 (12)		12 単位	
						30-12-22 フランス文学史Ⅲ・Ⅳ (各2) フランス語学Ⅰ・Ⅱ (各2)
		30-12-23 フランス語学演習Ⅲ～Ⅷ (各1) フランス語表現演習 ⅤA、ⅥA、ⅦA、ⅧA、ⅤB、ⅥB、ⅦB、ⅧB (各1) ※ フランス文学演習ⅠA、ⅡA、ⅢA、ⅣA、 ⅤA、ⅥA、ⅠB、ⅡB、ⅢB、ⅣB、ⅤB、ⅥB (各1) ※	} のうち13科目 (13) ただしフランス語学 文学研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ のうち少なくとも 1科目を含めること		13 単位	
						30-12-31 フランス語学文学研究会Ⅰ・Ⅱ (各1) : 3年次履修 フランス語学文学研究会Ⅲ (1) : 4年次履修
		卒試	30-12-41 卒業試験 (卒業論文)			
	選択科目	30-12-55	大学設置 (学部学則第35条3項参照) の専門教育科目		36 単位以上	

※ 同じローマ数字の科目であっても、アルファベットが異なる場合は内容が異なり、別科目である。

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

分野番号30-12-11、30-12-12の科目群を基礎コースの科目とする。

分野番号30-12-21から30-12-41の科目群を専門コースの科目とする。

注) 「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「フランス語学演習Ⅰ・Ⅱ」、「フランス語表現演習Ⅰ～Ⅳ」のうち5科目 (5単位) 以上

＜学年推奨科目＞

基礎コースの科目は、すべて第2学年で履修することが望ましい。

【第3学年】

＜第3学年においてのみ履修できる科目＞

「フランス語学文学研究会Ⅰ」、「フランス語学文学研究会Ⅱ」（下記「研究会の履修方法」参照）

【第4学年】

＜第4学年においてのみ履修できる科目＞

「フランス語学文学研究会Ⅲ」、「フランス語学文学研究会Ⅳ」（下記「研究会の履修方法」参照）

＜卒業要件科目＞

「フランス語学文学研究会Ⅳ」（下記「研究会の履修方法」参照）、「卒業試験（卒業論文）」

卒業試験は卒業論文によって行う。

4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号がある）。

【各学年共通】

＜研究会の履修方法＞

- ① 「フランス語学文学研究会Ⅰ・Ⅱ」は第3学年次に、「フランス語学文学研究会Ⅲ・Ⅳ」は第4学年次に履修する。
- ② 卒業には、以下の2科目（計2単位）が必要である。
 - ・「フランス語学文学研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」から1科目（1単位）
 - ・「フランス語学文学研究会Ⅳ」（1単位）卒業要件としては上記2科目で十分であるが、特別な理由がない限り、全ての研究会（4科目4単位）を履修することが望ましい。
- ③ 留学をする者は、研究会の履修方法について事前に専攻担任に相談すること。
（例）3年次の秋学期から4年次春学期にかけて塾派遣交換留学、かつ帰国年度に卒業したい
→3年次春学期に「フランス語学文学研究会Ⅰ」を必ず履修する
その他、留学には様々なケースが考えられるので、細心の注意を払うこと。
- ④ 第2学年では研究会は履修できない。
- ⑤ 「フランス語学文学研究会Ⅰ・Ⅱ」を2組以上履修する場合は1組を必修科目（A欄申告）として履修し、他は選択科目（B欄55）として履修すること。
- ⑥ 第4学年で原級となった場合、既に修得した研究会の単位は有効であるが、「卒業試験（卒業論文）」と同一担当者の「フランス語学文学研究会Ⅲ・Ⅳ」を自由科目として履修することが望ましい（B欄99）。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目36単位以上を卒業までに修得しなければならない。（30～33ページを参照）

「4-（1）必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い」と「4-（2）重複履修の取り扱い」を参照のこと。

4 履修上の注意

- （1）必要単位を超えて履修した必修科目の取り扱い
必修科目専門コースの単位を指定数を超えて修得した場合は、これらを選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う（A欄申告。ただし重複履修については（2）を参照のこと）。
※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- （2）重複履修の取り扱い
 - ① 「フランス語学演習Ⅲ～Ⅷ」、「フランス語表現演習ⅤA、ⅥA、ⅦA、ⅧA、ⅤB、ⅥB、ⅦB、ⅧB」※
「フランス文学演習ⅠA、ⅡA、ⅢA、ⅣA、ⅤA、ⅥA、ⅠB、ⅡB、ⅢB、ⅣB、ⅤB、ⅥB」※
※同じローマ数字の科目であっても、アルファベットが異なる場合は内容が異なり、別科目である。

以上の科目について、重複履修を各科目1回まで認め、選択必修科目(上記(1)に該当する場合は選択科目)として取り扱う(A欄申告)。ただし、それが同一科目・同一担当者であった場合は、履修申告前に担当者に相談のこと。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること(B欄99)。

② 上記以外の科目

同一名称の科目は、卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同に関わらず自由科目として履修すること(B欄99)。ただし、3年次に限り「フランス語文学研究会I・II」を2組以上履修する場合は1組を必修科目(A欄申告)として履修し、他は選択科目(B欄55)として履修すること。

図書館・情報学専攻

1 注意事項

- (1) 履修の際の注意点は、学年初めのガイダンスで指示するので、必ず出席すること。
- (2) 学士入学者、原級者は、専攻担任のガイダンスを必ず受けること。

2 専門教育科目およびその単位数

図書館・情報学専攻における専門教育科目の必修科目ならびに選択科目とその単位数は授業科目系列表の通りである。

【授業科目系列表】 [要]: 要件科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)						卒業必要単位	
必修科目	必修2年 30-13-01	2年次	図書館・情報学文献研究Ⅰ・Ⅱ(各2) 図書館基礎Ⅰ(2) 図書館基礎Ⅱ(2) 情報メディア基礎Ⅰ(2) 情報メディア基礎Ⅱ(2) 情報管理基礎Ⅰ(2) 情報管理基礎Ⅱ(2)						22単位
	必修3年 30-13-03	3年次	図書館・情報学概説(2)						
	研究会 30-13-02	3年次 4年次	図書館・情報学研究法(2) [要] 図書館・情報学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1)						
	卒業試験 30-13-11		卒業試験(卒業論文)						
3・4年次指定選択科目	図書館コース		情報メディアコース			情報管理コース			26単位以上
	分野(B欄)	授業科目名(単位)	分野(B欄)	授業科目名(単位)	分野(B欄)	授業科目名(単位)	分野(B欄)	授業科目名(単位)	
	図必修 30-13-21 (21)	図書館の制度と経営(2) 情報メディア概説(2) 情報資源組織論(2) 情報検索概説Ⅰ(2) 図書館・情報学研究調査入門(2) 公共図書館論(2) 大学図書館論(2) 情報サービス概説(2) 生涯学習概論(2) [全専攻共通科目]	18単位	メ必修 30-13-31 (31)	図書館の制度と経営(2) 情報メディア概説(2) 情報資源組織論(2) 情報検索概説Ⅰ(2) 図書館・情報学研究調査入門(2) 印刷メディア(2) 学術情報メディア論(2) 社会情報論(2) ウェブ情報論(2)	18単位	管必修 30-13-51 (51)	図書館の制度と経営(2) 情報メディア概説(2) 情報資源組織論(2) 情報検索概説Ⅰ(2) 図書館・情報学研究調査入門(2) 情報行動(2) 情報処理技術(2) データベース論(2) デジタルアーカイブ論(2)	
図選択 30-13-23 (23)	[要] 図書館実習Ⅰ・Ⅱ(各1) 児童サービス論(2) 学校図書館論(2) 情報認識の基礎(2) データ解析論(2) 書誌学Ⅰ(2) 書誌学Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅰ(2) 図書館・情報学特殊Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅲ(2) 情報検索概説Ⅱ(2) および、図書館コース以外のコース必修科目	8単位	メ選択 30-13-33 (33)	[要] 図書館実習Ⅰ・Ⅱ(各1) 児童サービス論(2) 学校図書館論(2) 情報認識の基礎(2) データ解析論(2) 書誌学Ⅰ(2) 書誌学Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅰ(2) 図書館・情報学特殊Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅲ(2) 情報検索概説Ⅱ(2) および、情報メディアコース以外のコース必修科目	8単位	管選択 30-13-53 (53)	[要] 図書館実習Ⅰ・Ⅱ(各1) 児童サービス論(2) 学校図書館論(2) 情報認識の基礎(2) データ解析論(2) 書誌学Ⅰ(2) 書誌学Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅰ(2) 図書館・情報学特殊Ⅱ(2) 図書館・情報学特殊Ⅲ(2) 情報検索概説Ⅱ(2) および、情報管理コース以外のコース必修科目	8単位	
選択科目	30-13-55 (55)	本大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目						24単位以上	

※ 指定選択科目のB欄分野番号は2年原級者のみ使用(B欄分野番号は上表参照)

3 履修上の注意

【各学年共通】

- (1) 図書館・情報学を専攻する者は、図書館・情報学専攻専門教育科目の必修科目 22 単位、指定選択科目 26 単位以上およびその他の専門教育科目 24 単位以上、計 72 単位以上を修得しなければならない。ただし、その他の専門教育科目に図書館・情報学専攻設置の専門教育科目を含めることはできない。
- (2) 必修科目 22 単位は、特別の場合を除き、第 2 学年において 16 単位、第 3 学年において 4 単位、第 4 学年において 2 単位を修得するように配分されている。
- (3) 図書館・情報学研究法は第 3 学年次に、また図書館・情報学研究会 I・II は第 4 学年次に、それぞれ指定された必修科目であって、他の学年次および他の専攻の者は自由科目としても履修できない。
- (4) 第 2 学年の必修科目および第 3 学年以降のコース必修科目をその年次で修得しなかった場合、時間割の関係上、翌年度以降にこれらの科目を履修することが不可能になり、卒業が遅れることがあるので留意されたい。
- (5) 司書教諭資格の取得を希望する者は、教員免許取得に必要な科目の他、原則として教職課程センターに設置されている「学校経営と学校図書館」、「学校図書館メディア論」、「学習指導と学校図書館」、「読書教育論」、「情報メディア利用論」の 5 科目を修得しなければならない。
- (6) 「情報」科をはじめとする各教科の教員免許の取得を希望する者は、教職課程センターが実施するガイダンスに必ず出席すること。

【第 2 学年】

- (7) 原則として、コースにかかわらず、2 年生は授業科目系列表の「3・4 年次指定選択科目」（全専攻共通科目を含む）を履修することはできない（70 ページを参照）。ただし第 2 学年で原級に留まった者については、余裕をもって事前に専攻担任と面談のうえ、許可を得ること。
- (8) 第 3 学年に進級するためには、第 2 学年に配分されている必修科目 8 科目（16 単位）のうち、6 科目以上（12 単位以上）を修得しなければならない。ただし、交換留学、私費留学をするものについては、この進級条件を変更することがある。留学前に専攻担任に必ず相談すること。

【第 3 学年】

- (9) 図書館コース、情報メディアコース、情報管理コースのいずれか一つのコースを選択する。コースごとにコース必修科目と、コース選択科目が授業科目系列表のように定められているので、その指示通りに履修しなければならない。
- (10) 司書資格の取得を希望する者は、図書館・情報学専攻を卒業し、それぞれのコースの必修科目に加え、以下の科目を各コースのコース選択科目として修得しなければならない。
 - ・図書館コースの学生：「図書館実習 I・II」「児童サービス論」
 - ・情報メディアコース、情報管理コースの学生：「情報サービス概説」「生涯学習概論」「図書館実習 I・II」「児童サービス論」。加えて、「公共図書館論」「大学図書館論」「学校図書館論」のうちから 2 科目以上。
- (11) 第 4 学年に進級するためには、「図書館・情報学研究法」を修得しなければならない。

【第 4 学年】

- (12) 文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号である）。卒業試験は卒業論文によって行う。卒業論文提出にあたっては、9 月に開催される中間発表会および提出後に行われる最終面接に出席しなければならない。
- (13) 司書資格の取得を希望する者は、上の (10) の指示に従うこと。

社会学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

社会学専攻における専門教育科目（必修科目および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]：要件科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位	
			小計	合計
必修科目	必修	30-14-11 次の6科目を第2学年で修得すること。 社会学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 社会心理学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 文化人類学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	12 単位	40 単位
		30-14-12 社会学史Ⅰ・Ⅱ(各2) 社会調査Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ(各1) } のうち4科目 [要] 社会調査Ⅲ・Ⅳ(各1)	8 単位	
	選択必修	30-14-21 次の科目のうちから卒業までに20単位を修得すること。 医療社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) 家族・親族論Ⅰ・Ⅱ(各2) 教育社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) 生の社会学(2) 感情社会学(2) コミュニケーション学Ⅰ・Ⅱ(各2) [要] 宗教社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) 環境行動論(2) 知識社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) リスクコミュニケーション論(2) 日本社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) 都市社会学Ⅰ・Ⅱ(各2) 世界社会学(2) 普及学Ⅰ・Ⅱ(各2) 比較文化論Ⅰ・Ⅱ(各2) 文化社会学(2) 映像社会学(2) 社会心理学特殊Ⅰ～Ⅹ(各2) 社会学特殊Ⅰ～Ⅹ(各2) 文化人類学特殊Ⅰ～ⅩⅡ(各2)	20 単位	
		卒試	30-14-41 卒業試験(卒業論文) 30-14-42 卒業試験(社会学専攻)	
選択科目	指定選択	30-14-51 社会学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1) } 卒業論文コースの者は、 30-14-52 社会学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1) } 「社会学研究会Ⅰ～Ⅳ(各1)」 合計4単位を必ず含めること	32 単位 以上	
	選択	30-14-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目 社会学専攻設置の次の科目を含めることができる 社会学文献研究ⅠA～ⅠE・ⅡA～ⅡE(各1) 宗教学Ⅰ・Ⅱ(各2)		

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された40単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注) 「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

卒業試験は「卒業試験(卒業論文)」あるいは「卒業試験(社会学専攻)」によって行う。

【第2学年】

<進級条件科目>

- ① 「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」
- ② 「社会心理学概論Ⅰ・Ⅱ」
- ③ 「文化人類学概論Ⅰ・Ⅱ」

これらの授業科目は第2学年ですべて修得すること。それに満たない場合は第3学年に進級できない。

【第3学年】

＜学年指定科目＞

コースにより異なる。第3学年から、卒業に向けて「卒業論文コース」と「卒業試験コース」の二つのコースに分かれる。履修要件はコースごとに異なる。下記【コース別授業科目系列表】の項を参照。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「卒業試験（卒業論文）」あるいは「卒業試験（社会学専攻）」

履修要件はコースごとに異なる。下記【コース別授業科目系列表】の項を参照。

【コース別授業科目系列表】

	卒業論文コース	卒業試験コース
第3学年 指定科目 (コース必修)	社会学研究会Ⅰ・Ⅱ	なし
第4学年 卒業要件科目 (コース必修)	社会学研究会Ⅲ・Ⅳ 卒業試験（卒業論文）	選択必修科目(分野30-14-21)のうち、合計4単位以上 卒業試験（社会学専攻）

「コース必修」とは、各コースにおいて必ず修得しなくてはならない科目である。

「卒業論文コース（社会学研究会を履修する）」

- ① 「卒業論文コース」を選択した者は、第3学年および第4学年を通じ、「社会学研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を修得しなければ、最終年度において卒業論文を提出する資格を得ることができない。第4学年で別の担当者の研究会に変更し、その担当者に卒論を提出することを希望する場合は、変更前・変更後の研究会担当者との相談を、履修申告前に行わなければならない。なお「卒業論文コース」の者が、研究会担当者の承認を受けて第4学年で「卒業試験コース」に変更することもありうる。ただし、第4学年で、履修申告期間終了後においては、一切の変更を認めない（研究会の履修方法は4(3)を参照すること）。
- ② 卒業論文コースの者は「卒業試験（卒業論文）」に合格しなければ卒業できない。
社会学研究会に所属する（卒業論文コースの）者は第4学年において文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」（研究会担当者の登録番号）を必ず履修申告し、所定の期日に卒業論文を提出し、合格しなければならない。

「卒業試験コース（社会学研究会を履修しない）」

「卒業試験コース」の者は、第3学年においては選択科目上の履修条件はないが、第4学年においては選択必修科目（分野30-14-21）のうち、合計4単位以上を履修、修得しかつ「卒業試験（社会学専攻）」を履修申告し、卒業試験に合格しなければならない。なお、修得済み科目を自由科目として重複履修することができる。

第4学年において文学部時間割に記載されている「卒業試験（社会学専攻）」を必ず履修申告すること。その上で、秋学期末に行われる卒業試験に合格しなければならない。卒業試験の概要に関しては、専攻別ガイダンスおよび別途 Web 等で案内する。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目32単位以上を卒業までに修得しなければならない。(30～33ページを参照)
- (2) 「卒業論文コース」の者は、選択科目のうち指定選択科目である「社会学研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を必ず含めなければならない。
- (3) 「社会学文献研究ⅠA～ⅠE・ⅡA～ⅡE」、「宗教学Ⅰ・Ⅱ」は社会学専攻設置の選択科目である。

4 履修上の注意

(1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い

必修科目（分野 30-14-12）を 8 単位を超えて修得した場合、または選択必修科目（分野 30-14-21）を 20 単位を超えて修得した場合は選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う（A 欄申告。ただし重複履修については（2）を参照のこと）。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。

(2) 重複履修の取り扱いについて

過年度に修得済みの科目を再履修する場合は担当者が異なっても自由科目となる（B 欄分野番号 99 で申告すること）。

(3) 研究会の履修方法

- ① 指定された年次以外の研究会を履修する場合には、次のとおり自由科目として申告する。

	研究会 I・II	研究会 III・IV
3 年生	選択科目 (A 欄申告)	自由科目 (B 欄分野番号 99)
4 年生	自由科目 (B 欄分野番号 99)	選択科目 (A 欄申告)

- ② 第 2 学年においては「社会学研究会」を履修することはできない。

心理学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

心理学専攻における専門教育科目の必修科目および選択科目とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】 ※[要]: 要件科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位					
			小計	合計				
必修科目	必修	30-15-11 知覚心理学(2) 認知心理学(2) 行動・学習心理学(2) 発達心理学(2) 生理・神経心理学(2)	10	38				
		30-15-12 心理学研究法(2)	2					
		30-15-13 心理統計Ⅰ・Ⅱ(各2)	4					
		30-15-14 心理学アカデミックリーディングⅠ・Ⅱ(各1)	2					
		30-15-15 心理学実験Ⅰ・Ⅱ(各2)	4					
		30-15-16 心理学史(2)	2					
	選択必修	30-15-21	認知神経科学(2) 行動神経科学(2) 言語心理学(2) 感性心理学(2) 感情心理学(2) 動物心理学(2) 臨床発達心理学(2) 認知科学(2) 知覚・認知心理学特殊Ⅰ、Ⅱ(各2) 行動・学習心理学特殊Ⅰ、Ⅱ(各2) 発達・障害心理学特殊Ⅰ、Ⅱ(各2) 生物・神経科学特殊Ⅰ、Ⅱ(各2) 心理学基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(各2) 司法・犯罪心理学(2) 臨床心理学Ⅰ、Ⅱ(各2)		10	のうち 10単位		
			研究会		30-15-31 [要] 心理学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1) 30-15-32 [要] 心理学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)	4		
			卒試		30-15-41 卒業試験(卒業論文)			
			選択科目		選択指定	30-15-51 人間関係学系専攻設置の必修科目(選択必修科目を含む)	20以上	34以上
					選択	30-15-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目		

2 必修科目

各学年次において履修する科目および進級条件科目

	各学年次において履修する科目	進級条件科目
第2学年	知覚心理学(2) 認知心理学(2) 行動・学習心理学(2) 発達心理学(2) 生理・神経心理学(2) 心理学アカデミックリーディングⅠ・Ⅱ(各1) 心理学研究法(2) 心理統計Ⅰ・Ⅱ(各2)	知覚心理学 認知心理学 } のうち 行動・学習心理学 発達心理学 } 3科目 生理・神経心理学 心理学アカデミックリーディングⅠ・Ⅱ 心理学研究法 認知神経科学 行動神経科学 } のうち 言語心理学 感性心理学 } 3科目 感情心理学 動物心理学 } 臨床発達心理学 認知科学 }
第3学年	心理学実験Ⅰ・Ⅱ(各2) 心理学史(2) [要] 心理学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1)	心理学実験Ⅰ [要] 心理学研究会Ⅰ
第4学年	[要] 心理学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1) 卒業試験(卒業論文)	

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された38単位を卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

【各学年共通】

＜心理学研究会の履修方法＞

第3・4学年在籍中は、同一担当教員の心理学研究会Ⅰ～Ⅳを毎年履修することを原則とする（原級・留学など特殊な事情がある場合には、事前に担当教員に相談すること）。このうち、第3学年での研究会Ⅲ・Ⅳ、および必修科目として単位取得済みの研究会は、自由科目（B欄99）として履修すること。

＜必修科目と選択必修科目について＞

選択必修科目は、知覚心理学、認知心理学、行動・学習心理学、発達心理学、生理・神経心理学（分野番号30-15-11）において当該分野の基礎知識を修得していることを前提としている。よって、これらの単位を修得してから履修することを強くすすめる。

【第4学年】

＜卒業試験（卒業論文）について＞

卒業試験は卒業論文によって行う。卒業論文は履修する心理学研究会Ⅳの担当者に提出し、その審査に合格しなければならない。4年生は文学部卒業試験時間割に記載されている「卒業試験（卒業論文）」を必ず履修申告すること（研究会とは別の登録番号がある）。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目34単位以上を卒業までに修得しなければならない。(30～33ページを参照)
- (2) 選択科目のうちには、指定選択科目（人間関係学系専攻設置の必修科目（選択必修科目を含む））20単位以上を含めなければならない。次項4.(1)を参照すること。

4 履修上の注意

- (1) 選択必修科目の修得単位の扱いについて

選択必修科目の単位のうち、10単位を超えて修得した単位については、指定選択科目の単位として扱い、卒業必要単位に含める（A欄申告。ただし重複履修については(2)を参照のこと）。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。
- (2) 重複履修の取り扱いについて

心理学専攻設置科目の重複履修の取り扱いは以下のとおりとする。

 - ① 選択必修科目（分野番号30-15-21）
 - A. 担当者が異なる場合

同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目1回まで認め、必修科目（上記(1)に該当する場合は指定選択科目）として取り扱う（A欄申告）。重複履修が2回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
 - B. 担当者が同じ場合

同一科目名・同一担当者の場合は、自由科目として履修すること（B欄99）。
 - ② 選択必修科目（分野番号30-15-21）以外の科目

卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同にかかわらず自由科目として履修すること（B欄99）。
- (3) 「各学年次において履修する科目」についての注意

「各学年次において履修する科目」とは、学習指導の点から履修すべき学年が指定されている必須科目である。この科目については以下の点に注意すること。

 - ・指定された学年より下の学年で履修することはできない。ただし、2年原級者の心理学実験Ⅰ、Ⅱと心理学研究会Ⅰ～Ⅳについては、専攻担任および科目担当者が必修科目または自由科目として個別に履修を認めることがある。また、心理学研究会Ⅲ、Ⅳについては上記の〈心理学研究会の履修方法〉に従って第3学年で自由科目として履修できる。
 - ・指定された学年で単位を取得できなかった場合、時間割上の制約で翌年度以降の単位取得に時間がかかり卒業が遅れることがある。

教育学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

- (1) 教育学専攻設置の学科目は〔必修科目(研究会・卒試を含む)〕および〔選択科目〕から構成され、その単位数は以下の通りである。
- (2) 卒業までに必修16科目(26単位)、選択必修16科目のうち8科目(16単位)、研究会4科目(4単位)、選択科目26単位以上を履修しなければならない(履修方法に関しては後述の規定に従うこと)。
- (3) 卒業試験は卒業論文によって行う(卒業論文の指導担当者は研究会担当者と同一)。

【授業科目系列表】 ※〔要〕: 要件科目(定義は2ページを確認すること)

種類	分野番号	授業科目名(単位)	卒業必要単位		
			小計	合計	
必修科目	必修	30-16-11 教育学概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 教育学原典講読Ⅰ・Ⅱ(各1)	6単位	46単位	
		30-16-12 教育史Ⅰ・Ⅱ(各2) 教育学史Ⅰ・Ⅱ(各2) 比較教育学Ⅰ・Ⅱ(各2) 教育心理学概論Ⅰ・Ⅱ(各2)	16単位		
		30-16-13 〔要〕教育学演習Ⅰ・Ⅱ(各1) 〔要〕教育学演習Ⅲ・Ⅳ(各1)	4単位		
	選択必修	30-16-21 教育学特殊Ⅰ(2)、教育学特殊Ⅱ(2) 教育学特殊Ⅲ(2)、教育学特殊Ⅳ(2) 教育学特殊Ⅴ(2)、教育学特殊Ⅵ(2) 教育学特殊Ⅶ(2)、教育学特殊Ⅷ(2) 教育学特殊Ⅷ(2)、教育学特殊Ⅸ(2) 教育学特殊Ⅹ(2)、教育学特殊Ⅺ(2) 教育学特殊Ⅻ(2)、教育学特殊Ⅻ(2) 教育学特殊Ⅻ(2)、教育学特殊Ⅻ(2) 教育学特殊Ⅻ(2)、教育学特殊Ⅻ(2)	このうち 8科目(16)		16単位
		研究会	30-16-31 30-16-32 〔要〕教育学研究会Ⅰ・Ⅱ(各1) 〔要〕教育学研究会Ⅲ・Ⅳ(各1)		4単位
		卒試	30-16-41 卒業試験(卒業論文)		
	選択科目	30-16-51 教育学専攻設置の以下の科目を含めることができる 教育学文献研究Ⅰ(2)、教育学文献研究Ⅱ(2) 教育学文献研究Ⅲ(2)、教育学文献研究Ⅳ(2) 教育学文献研究Ⅴ(2)、教育学文献研究Ⅵ(2) 教育測定実験Ⅰ・Ⅱ(各2) 教育研究法Ⅰ・Ⅱ(各2)			26単位以上
30-16-55 大学設置(学部学則第35条3項参照)の専門教育科目					

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された46単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない(上記1(2)を参照)。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35ページを確認すること。

【第2学年】

<進級条件科目>

「教育学概論Ⅰ」、「教育学概論Ⅱ」、「教育学原典講読Ⅰ」、「教育学原典講読Ⅱ」※

＜教育学原典講読Ⅰ・Ⅱの履修について＞

原則として4名の教員（ $a \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ ）が担当する。第2学年の履修者は、4つのグループに分かれてもらう（グループ編成は専攻担任が決定する）。教育学原典講読Ⅰ（春学期）で a が担当したグループを、教育学原典講読Ⅱ（秋学期）では β が担当する。春学期に β が担当したグループは、秋学期には a が担当する。同様に γ と δ についても入れ替わる。自分が所属するグループのⅠ・Ⅱそれぞれの担当者名をきちんと確認した上で、履修申告すること。

※交換留学または私費留学をした者に限り、例外を認める。

〈交換留学、私費留学をした者について〉

2年次秋学期に留学し、遡及進級を希望する場合、教育学原典講読Ⅱ・教育学概論Ⅱについては3年次秋学期に履修することを認める。3年次秋学期に単位取得ができない場合は第4学年への進級を認めない。

教育学演習Ⅰ、教育学研究会Ⅰについては、留学中に研究会担当者と複数回のコンタクトを取り、授業内の活動を一定程度確保できた場合、留学先で取得した授業単位をもって、単位認定制度により授業単位の認定を行うことができる（詳細は研究会担当者に問い合わせること）。

【第3学年】

＜進級条件科目＞

「教育学演習Ⅰ」、「教育学演習Ⅱ」、「教育学研究会Ⅰ」、「教育学研究会Ⅱ」※

必ずいずれかの同一担当者の科目を履修すること。原則として教育学演習Ⅰを修得しなければ教育学演習Ⅱは履修できない。同様に教育学研究会Ⅰを修得しなければ教育学研究会Ⅱは履修できない。なお、研究会は卒業論文指導のために設けられたものであり、演習と密接な関係をもっている。したがって演習と同じ担当者の研究会を履修すること。

これらの科目は、第2学年では履修できない。

※交換留学または私費留学をした者に限り、例外を認める。

〈交換留学、私費留学をした者について〉

教育学演習Ⅰ・Ⅱ、教育学研究会Ⅰ・Ⅱについては、留学中に研究会担当者と複数回のコンタクトを取り、授業内の活動を一定程度確保できた場合、留学先で取得した授業単位をもって、単位認定制度により授業単位の認定を行うことができる（詳細は研究会担当者に問い合わせること）。

【第4学年】

＜卒業要件科目＞

「教育学演習Ⅲ」、「教育学演習Ⅳ」、「教育学研究会Ⅲ」、「教育学研究会Ⅳ」、「卒業試験（卒業論文）」※

第4学年の学生は、必ずこれらの科目を履修すること。原則として「教育学演習Ⅲ」を修得しなければ「教育学演習Ⅳ」は履修できない。同様に「教育学研究会Ⅲ」を修得しなければ「教育学研究会Ⅳ」を履修できない。なお、それらは第3学年次に履修した「教育学演習Ⅰ」・「教育学演習Ⅱ」、「教育学研究会Ⅰ」・「教育学研究会Ⅱ」と同一担当者のものであることが原則である。

「卒業試験（卒業論文）」は研究会とは別の登録番号がある。文学部卒業試験時間割を確認すること。

※交換留学または私費留学をした者に限り、例外を認める。

〈交換留学、私費留学をした者について〉

教育学演習Ⅲ・Ⅳ、教育学研究会Ⅲ・Ⅳについては、留学中に研究会担当者と複数回のコンタクトを取り、授業内の活動を一定程度確保できた場合、留学先で取得した授業単位をもって、単位認定制度により授業単位の認定を行うことができる（詳細は研究会担当者に問い合わせること）。

3 選択科目

- (1) 選択科目として、本大学設置の専門教育科目26単位以上を卒業までに修得しなければならない。（上記1(2)、30～33ページを参照）
- (2) 選択科目に、教育学専攻設置の「教育学文献研究Ⅰ～Ⅵ」、「教育測定実験Ⅰ・Ⅱ」、「教育研究法Ⅰ・Ⅱ」を含める。これらの科目は、専門的に教育学研究を目指す場合に必要と考えられる方法や内容に焦点を当てた科目である。したがって、専攻の設置する専門教育科目ではあるものの、あえて必修科目とはせず、選択科目扱いとしている。各研究会でより高度な卒業論文執筆を目指す学生や、大学院進学を考えている学生の積極的履修を望む。

4 履修上の注意

(1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い

必修科目中の選択必修科目（「教育学特殊Ⅰ～Ⅵ」）について指定単位数を超えて履修した場合、その超過分は選択科目とみなし卒業単位として取り扱う（A欄申告）。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。

ただし、同一名称科目を卒業時までには再度履修した場合は自由科目扱い（履修申告時にB欄99を選択すること）となり、選択必修科目や選択科目とみなされることはない。

人間科学専攻

1 専門教育科目およびその単位数

人間科学専攻における専門教育科目（必修科目（Ⅰ～Ⅲ類）および選択科目）とその単位数は次の通りである。

【授業科目系列表】

種類		分野番号	授業科目名 (単位)	卒業必要単位					
				小計	合計				
必修科目	必修	Ⅰ類	30-17-11	人間科学基礎 (2) 人間科学研究法基礎 (2)	4 単位	38 単位以上			
		Ⅱ類	30-17-12	人間科学諸領域Ⅰ～Ⅳ (各2)	8 単位				
	選択必修	Ⅲ類	30-17-21	人間科学研究法ⅠA・ⅡA (各2) 人間科学研究法ⅢA・ⅣA (各2) 人間科学研究法ⅠB～ⅣB (各4) 人間科学演習Ⅰ・Ⅱ (各1) 人間科学演習Ⅲ・Ⅳ (各1) 人間科学演習Ⅴ・Ⅵ (各1) 人間科学演習Ⅶ・Ⅷ (各1) 人間科学演習Ⅸ・Ⅹ (各1) 人間科学特殊ⅠA～ⅣA (各2) 人間科学特殊ⅠB～ⅣB (各4)	26 単位以上				
				30-17-31	人間科学研究会Ⅰ (A)～(J)・Ⅱ (A)～(J) (各1) 〈コースA〉				
				30-17-32	人間科学研究会Ⅲ (A)～(J)・Ⅳ (A)～(J) (各1) 〈コースA〉				
				30-17-33	人間科学卒業研究 (2) 〈コースB〉				
				30-17-41	卒業試験 (卒業論文) 〈コースA〉				
				30-17-42	卒業試験 (人間科学専攻) 〈コースB〉				
				選択科目			30-17-55	大学設置 (学部学則第35条3項参照) の専門教育科目	34 単位以上

今年度開講されるⅢ類科目（人間科学研究法・人間科学特殊）は以下の通りである。 ※（ ）内は科目のサブタイトルを表す

人間科学研究法	(計量と解析) (各2) (心理統計基礎Ⅰ) (心理統計基礎Ⅱ) (各2)
人間科学研究法 (半期集中)	開講科目なし
人間科学演習 (半期)	(文献講読) (各1)
人間科学特殊 (半期)	(社会福祉学) (2) (比較文化関係論) (2) (文化と精神病理) (2) (責任と法の社会学) (2) (医療人類学) (2) (深層学習と新しい心理学) (2) (社会階層の比較社会学) (2) (合理的選択の社会学) (2) (コミュニケーションの社会心理学) (2) (教育と市民社会の社会学) (2) (社会的幸福と逸脱の愉楽の心理学) (2) (生命倫理の人類学) (2) (人類学とフィールドワーク) (2) (パーソナリティ心理学Ⅰ) (2) (パーソナリティ心理学Ⅱ) (2) (精神分析学) (2) (科学・技術の人類学) (2) (映像と文化) (2) (戦いと平和の人類学) (2) (アフリカ地域研究) (2) (臨床心理学) (2) (産業・組織心理学) (2) (計算社会科学) (2) (地域コミュニティ論) (2) (消費社会学) (2) (集団意思決定) (2) (心理統計中級) (2)
人間科学特殊 (半期集中)	開講科目なし

2 必修科目

必修科目として、上に掲げた授業科目系列表に示された 38 単位を、以下の条件を満たしつつ、卒業までに修得し、かつ卒業試験に合格しなければならない。

注)「進級条件科目」、「卒業要件科目」、「学年指定科目」、「学年推奨科目」の定義は、35 ページを確認すること。

【第 2 学年】

<進級条件科目>

- ① 「人間科学基礎」、「人間科学研究法基礎」
これらに 1 科目でも不合格があれば第 3 学年に進級することができない。
- ② 「人間科学諸領域 I～IV」のうち 2 科目
これら 4 科目は第 2 学年次に履修することを原則とする。第 2 学年次中に最低 2 科目(4 単位)に合格すること。
この条件が充足されなかった場合は第 3 学年次に進級することができない。

【第 3 学年】

<学年指定科目>

コースにより異なる。

第 3 学年次において、「卒業試験(卒業論文)」を卒業の要件とするコース(以下、コース A とよぶ)、または、「卒業試験(人間科学専攻)」を卒業の要件とするコース(以下、コース B とよぶ)のいずれかを選ばなければならない。
履修要件はコースごとに異なる。下記の【コース別授業科目系列表】を参照。

【第 4 学年】

<卒業要件科目>

「卒業試験(卒業論文)」あるいは「卒業試験(人間科学専攻)」

履修要件はコースごとに異なる。【コース別授業科目系列表】を参照。

【コース別授業科目系列表】

卒業要件		コース A (研究会所属あり)	コース B (研究会所属なし)
専門必修科目 (38 単位以上)	I 類	4 単位	4 単位
	II 類	8 単位	8 単位
	III 類	「人間科学研究会 I・II」(各 1) … 第 3 学年指定科目(コース必修) 「人間科学研究会 III・IV」(各 1) … 卒業要件科目(コース必修) を含めて 26 単位以上	「人間科学卒業研究」(2) … 卒業要件科目(コース必修) を含めて 26 単位以上
専門選択科目 (34 単位以上)		34 単位以上	34 単位以上
卒業試験の方法と卒業要件科目		卒業試験は卒業論文によって行う。 「卒業試験(卒業論文)」 … 卒業要件科目(コース必修)	卒業試験は人間科学卒業研究(2)の 修得をもって代替する。 「卒業試験(人間科学専攻)」 … 卒業要件科目(コース必修)
卒業に必要な専門教育科目の 総単位数		72 単位以上	72 単位以上

「コース必修」とは、各コースにおいて必ず修得しなくてはならない科目である。

(1) 「コース A」について

コース A を志望する学生は、①第 2 学年次の秋学期に行われるガイダンスに基づいて、「卒業論文」の指導を仰ぐ教員を選定し、②当該教員にその旨申し出、当該教員の審査を受け、これに合格した上で、③当該教員の担当する「人間科学研究会 I・II」を第 3 学年次で修得し、④当該教員の担当する「人間科学研究会 III・IV」を第 4 学年次で修得し、⑤第 4 学年次の定められた期日までに「卒業論文」を提出し、論文の審査(「卒業試験」に充当する)に合格しなければならない。

(2) 「コース B」について

コース B を志望する学生は、①第 4 学年次秋学期開講の「人間科学卒業研究」を含めて、卒業までにⅢ類 26 単位以上を修得し、②「卒業試験」に合格しなければならない。③「卒業試験」は「人間科学卒業研究」の修得をもって代替する。

(3) コース変更について

- ① 第 3 学年次にコース A を選択した学生が第 4 学年次履修申告時に「人間科学研究会Ⅲ・Ⅳ」を履修しない場合には、コース B への変更となる。この変更をした場合、「人間科学研究会Ⅰ・Ⅱ」の単位が修得済であればⅢ類の単位として認める。
- ② コース A を選択しながら第 4 学年次に卒業試験（卒業論文）が不合格で卒業できなかった場合、次年度にコース B に変更することができる。コース B に変更した場合、既に修得した「人間科学研究会Ⅲ・Ⅳ」の単位はⅢ類の単位として認める。
- ③ 原則として、第 4 学年の途中でコース A からコース B へ変更することはできない。

3 選択科目

選択科目として、本大学設置の専門教育科目 34 単位以上を卒業までに修得しなければならない。（次項 4（1）、30～33 ページを参照すること。）

4 履修上の注意

(1) 必要単位数を超えて履修した必修科目の取り扱い

Ⅲ類科目の単位を指定数を超えて修得した場合は、これらを選択科目の単位とみなし、卒業単位として取り扱う（A 欄申告。ただし重複履修については（2）を参照のこと）。

※この場合、学業成績表上では元の分野番号欄に表示されるが、選択科目とみなされる。

(2) 重複履修の取り扱い

- ① 「人間科学研究法ⅠA～ⅣA」、「人間科学研究法ⅠB～ⅣB」、「人間科学演習Ⅰ～Ⅹ」、「人間科学特殊ⅠA～ⅩLVA」、「人間科学特殊ⅠB～ⅣB」

同一科目名で担当者が異なる場合は、重複履修を各科目 1 回まで認め、選択必修科目（上記（1）に該当する場合は選択科目）として取り扱う（A 欄申告）。重複履修が 2 回以上となる場合は、自由科目として履修すること（B 欄 99）。

- ② 上記以外の科目

同一名称の科目は、卒業に必要な単位としての重複履修を認めない。同一科目を重複して履修する場合は、担当者の異同に関わらず自由科目として履修すること（B 欄 99）。

(3) 研究会の履修方法

各学年次において、研究会Ⅰ・ⅡおよびⅢ・Ⅳを次のとおりどちらも履修申告すること。

	研究会Ⅰ・Ⅱ	研究会Ⅲ・Ⅳ
3 年生	選択科目 (A 欄申告)	自由科目 (B 欄 99)
4 年生	自由科目 (B 欄 99)	選択科目 (A 欄申告)

(4) その他

- ① 春学期の授業開始直前の「専攻別ガイダンス」において、科目履修上の細かい説明を行うので、専攻学生は全員必ず出席すること。
- ② 履修申告の控えを必ずとり、Web 成績表公開までは保存しておくこと（控えがないために履修上の問題の“責”がいずれにあったのか判断のつきかねる場合があるので、このことをくれぐれも注意されたい）。

1 授業

(1) 授業振鈴表

授業振鈴表は巻頭に掲載してあります。

(2) 代替講義日・休日の授業

休祝日の増加や、振替休日、早慶野球戦等のため、授業回数が減少する傾向にあります。授業回数の確保と全曜日開講日数の平準化を図るために代替講義日・休日の授業が設けられています。

【代替講義日】 実際の曜日に関わらず、各曜日の授業が行われます。

〔春学期〕 代替講義日 なし

〔秋学期〕 月曜代替講義日 1月8日（金）

【休日の授業】

開校記念日：4月23日（木）、昭和の日：4月29日（水）、海の日：7月20日（月）、

スポーツの日：10月12日（月）、文化の日：11月3日（火）

【休日の試験】

なし

(3) 補講日

実際の曜日に関わらず、担当教員が必要であると判断した場合、補講日に補講を行うことがあります。補講実施科目については Web 等で確認してください。

〔春学期〕 6月4日（木）、6月5日（金）、7月18日（土）

〔秋学期〕 11月18日（水）1・2時限、11月26日（木）、2027年1月23日（土）

※ 6月4日(木)・5日(金)および11月18日(水)1・2時限・26日(木)には、4学期制科目の各学期前半科目定期試験が行われる場合があります。

(4) 授業内試験

随時授業内に行われます。インフルエンザ等の学校感染症により登校できない場合は、授業担当教員に申し出てください。

(5) 緊急時における授業の取り扱い

塾生サイトより最新の情報を確認してください。

【日吉】 緊急時における授業等の取扱い

<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/schedule/emergency.html>



(6) 早慶野球戦における授業の取扱い

早慶戦当日の休講取扱いは、塾生サイトより最新の情報を確認してください。

早慶戦における授業の取扱い

<https://www.students.keio.ac.jp/com/class/schedule/sokei.html>



(7) 裁判員候補者に選定された場合の取扱い

慶應義塾大学は、いわゆる「公欠」という考え方をとっていません。裁判員候補者に選定され、授業の出欠に迷う場合は、日吉学生部所属学部窓口にご相談してください。なお、授業の性質上欠席が認められない場合があります。

(8) 障害学生支援（合理的配慮）

慶應義塾大学は障害のある学生が、他の学生と同様・同等な教育を受けることができるように必要な修学機会の確保に向けた、支援内容や方法の提供に努めます。支援の対象となるのは、慶應義塾大学の学部・研究科に所属する学生です。また、支援の内容は、当該学生の障害の内容によって異なりますが、本人からの申し出を起点とし、必要となる支援の内容と大学が提供できる支援の内容を、建設的な話し合いの場において都度すり合わせを行い、支援の内容（合理的配慮の提供）を決定します。申し出から配慮内容決定までには1ヵ月程度の期間を要します。また、合理的配慮の継続を希望する場合は、学期ごとの申請が必要となります。

申請手続き等の詳細は協生環境推進室 Web ページを参照してください。

<https://www.diversity.keio.ac.jp/bf/index.html>



※合理的配慮とは：「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（2013年）の第七条において、「障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をしなければならない」と規定されていることに鑑み、必要な対応を行うことを「合理的配慮の提供」と定義しています。

2 レポート

レポートを提出する場合は以下を厳守してください。

- (1) 指定された期間に指定された方法で提出してください。
- (2) オンラインでレポートを提出する場合、提出期限直前は通信トラブルが発生しやすくなります。期限に余裕を持って提出するようにしてください。
- (3) 本書 p. 89「レポート・論文の執筆上の注意」を参照してください。

3 定期試験

春学期と秋学期の各学期末に定期試験があります。

※定期試験時間割、持ち込み指示、受験に関する注意事項等、詳細は塾生サイト (<https://www.students.keio.ac.jp/hy/class/exam/index.html>) や K-Support (「Apps」→「授業」→「試験時間割」) で必ず確認してください。これらの追加・変更については、その都度発表します。試験情報は、一度確認するだけでなく、定期試験前にも再度確認してください。

- (1) 試験期間
 - 春学期末定期試験 7月22日(水)～7月31日(金) (予定)
 - 秋学期末定期試験 1月26日(火)～2月5日(金) (予定)
- (2) 注意事項
 - ①学生証
 - ・学生証を携帯せずに試験を受けることは一切認められません。受験に際しては、学生証を必ず携帯し、提示してください。
 - ・試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、日吉学生部総合受付で必ず「仮学生証」の交付を受けてください(発行手数料500円、発行当日限り全キャンパスで有効、メディアセンター入館も可)。
 - ・仮学生証発行手続きにより、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。
 - ②不正行為
 - ・不正行為およびそれと誤認されるような行為のないよう、真摯な態度で試験に臨んでください。
 - ・答案は必ず提出しなければなりません。
 - ・カンニング、許可されていない物の持ち込み、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合は、**不正行為とみなされ学則第188条により厳重に処分されます。**
 - ③定期試験の実施時間
 - ・巻頭の定期試験振鈴表を参照してください。定期試験の振鈴時刻、試験時間は授業時と異なります。また、定期試験の振鈴はキャンパスによって異なりますので注意してください。
 - ・定期試験時間は原則50分です。特に指定のない限りこの時間で実施しますが、試験時間の異なる科目もあります。定期試験時間割で確認してください。
 - ④遅刻
 - ・試験開始鈴後、20分までの遅刻は、試験を受験することができます。ただし、試験時間の延長はありません。なお、遅刻理由が電車遅延等、追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するか、それとも追加試験を受験するかは、本人の判断で選択することができます。電車遅延等による遅刻で試験開始鈴後20分以内に入室した場合は追加試験の対象とはなりません。なお、交通機関の遅れによる追加試験の申込受付は原則として当日中に限りです。
 - ⑤退室
 - ・試験開始後は途中退室を認めません。
 - ⑥答案用紙
 - ・担当者、科目名、および学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がないと成績はつきません。
- (3) その他

外国語科目や演習科目のように、授業への参加度・授業内試験・レポート等によって評価の定まる科目等、定期試験期間内に試験を実施しない科目があります。科目毎の評価方法・基準は、授業内での説明およびWeb上の「シラバス・時間割」(本書 p. 1 参照) に示されています。授業内試験やレポートにおいて不正行為があった場合、定期試験同様に処分の対象になります。
- (4) 定期試験時間割重複の取り扱いについて

試験時間割が重複した場合、日吉学生部文学部担当での手続きが必要です。

 - a. 時間割確認後すぐに日吉学生部文学部担当へ申し出てください。
 - b. 申し込み期限に遅れると受験できなくなりますので注意してください(申し込み期間は塾生サイトでお知らせします)。
 - c. 受験料は不要です。

4 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目の定期試験を病気や不慮の事故等、やむを得ない理由で受けることのできなかった者に対して行われる試験です。自己都合や不注意等による定期試験の欠席は、正当な理由とは見なされません。

- ①対象科目は、定期試験期間内に行われる試験科目です（ただし外国語科目を除く）。
- ②語学科目、演習科目、体育実技等は、原則として定期試験を行わず、レポートや授業内試験等により評価の定まる科目です。
- ③追加試験を受験する場合は、所定の手続きが必要です。手続き方法は試験時間割発表の際、塾生サイトで指示します。

(1) 追加試験注意事項

- ①診断書・遅延証明など受験できなかった理由をしめす書類が必要です。
- ②診断書・遅延証明など正式書類のない場合は、学習指導との面接が必要となります。
- ③受験料は、1科目2,000円となります（時間割重複・交通機関の遅延の場合は、受験料は不要です）。
- ④定期試験期間中、当該科目の試験時間に試験教室に立ち入っていた場合や試験開始後に体調不良などの理由で途中退出する場合は、当該科目の追加試験の受験は認められません。
- ⑤追加試験申し込みは、試験時間割発表後になります。
- ⑥追加試験時間割変更、持込み指示は追加試験時間割発表時に塾生サイトで案内します。情報が入り次第更新されますので、気をつけてください。

(2) 受験資格と必要書類

①時間割の重複による場合 三田と日吉の定期試験の時間重複	受験料不要
②鉄道の遅延による場合（原則として当日申し込むこと） 交通機関が発行する試験当日日付の「遅延証明書」 経路用紙（原則試験当日（遅延当日）にのみ、科目設置地区の学生部窓口にて「遅延証明書」を提示することで受け取り可能） *認められるのは自宅（※大学に登録されている自宅住所）からの経路に限ります。 *バスなど電車以外の遅延は認められません。 *自己都合による遅れを含む場合は認められません。	受験料不要
③病気・怪我の場合 病名・試験当日の日付を含む医師による「診断書」	受験料1科目2,000円
④葬儀を理由とする場合 二親等以内の場合で、「会葬礼状」など事実を客観的に証明する書類	受験料1科目2,000円
受験料の支払方法は申請内容確認後、K-Support 経由で案内します。	

- ⑤①～④以外の理由による追加試験受験希望の場合、学習指導との面接による受験許可が必要です。
「保証人連署の理由書」を用意してください。（A4サイズ）
- ⑥病気・怪我が理由で試験当日日付の「診断書」がない場合、試験当日日付以外の診断書等を提出してください。
*「保証人連署の理由書」には、本人と保証人の署名および捺印が必要となります。

【申込受付・追加試験日程】

追加試験の申し込みを以下のとおり受け付けます。また、受付時間などの変更があった場合、掲示にてお知らせします。

科目設置	追加試験受付	追試時間割発表 Web ページによる時間割発表	追加試験日程
日吉設置科目	(春) 時間割発表～8月上旬 (秋) 時間割発表～2月上旬 受付：日吉学生部 平日：8：45～16：45	(春) 8月上旬 Web (秋) 2月下旬	(春) 8月8日(土)、8月10日(月)、8月12日(水)(予定) (秋) 2月下旬(予定)

5 再試験

文学部学生に関しては、文学部・他学部・諸研究所いずれの設置科目であっても再試験は行いません。

6 不正行為

定期試験、授業内試験、レポート、授業中に行われる小テスト等における不正行為は、学生の自分にもとるときわめて悪質な違反であり、学則第188条および文学部内規により厳しく処分されます。当該科目が不合格になるだけでなく、その年度または学期に履修し、合格した他の全科目についても評価を1ランク下げる措置がとられます。場合によっては氏名が公表され、停学・退学の処分を受けることもあります。

定期試験、授業内試験（小テスト）で不正行為とみなされる行為には以下のようなものがあります。

- ・カンニング
- ・代筆
- ・答案用紙の持ち帰り
- ・試験監督者の指示に従わない行為
- ・スマートフォン、時計型端末の使用・着用、その他、許可されていないものの持ち込み

また、試験に臨む時は、不正行為と誤認されるような紛らわしい態度を取らないようにしなければなりません。

レポートで不正行為とみなされる行為は、担当教員による特別な指示（グループワークや共同研究）がある場合を除き、成績評価の対象となるレポートを他の人と協力して作成することは不正行為とみなされます。具体的には以下の行為が含まれます。

- ・他の人と協力してレポートを作成すること
- ・部分的であれ、他の人のレポートを写すこと、また他の人にレポートを見せること
- ・他の人のレポートファイルをもとに文言を修正して自らのレポートを作成すること
- ・他の人にレポートを作成してもらうこと
- ・他の人のレポートを作成すること
- ・部分的であれ、他の人の過去のレポートを写すこと、また他の人へ過去のレポートを提供すること

なお、レポートなどで不正行為とみなされる行為には上記の他にも以下のようなものがあります。

- ・盗用（または剽窃）：活字媒体や Web サイト等に掲載された他人の文章や資料、自分*が別の機会に作成した文章や資料などを出典を示さずにそのまま使うこと

*自分が過去に書いた文章や公表した研究成果を、出典等を示さずに使うことを自己盗用と言います。自分の過去のレポートやゼミでの公表物を、引用、出典を示さずに他の授業のレポートに用いたり、そのまま提出すると不正行為とみなされます。もちろん、同じ内容のレポートを同時に複数の授業の課題として提出することも不正行為です。

- ・改ざん：主張の根拠となる資料やデータを故意に書き換えて使用すること
- ・ねつ造：実際には存在しない資料やデータをあたかも存在するように偽って使用すること
- ・担当教員が認めた範囲を超えて生成 AI を使用すること
- ・その他これらに類する行為

レポートや論文における剽窃・盗用は不正行為です。他人の意見・文章を断りなく用いた場合は、自分では意図していなくても盗用、剽窃とみなされ、定期試験、授業内試験での不正行為と同等のあるいはより深刻な不正行為として、処分の対象となります。

レポート・論文の執筆上の注意

レポートや論文（卒業論文を含む）の執筆・提出は、定期試験や授業内試験と並んで大学での学修成果としての到達度を証する重要なものです。

自分の文章で自分の考えを述べるのが必須であり、ウェブサイトや文献、他者のレポートから抜粋、丸写ししたものを提出することは許されません。担当教員から他の学生と共同で作成するよう指示がある場合を除き、執筆は一人で行ってください。また、文献等から得た情報をレポートや論文に載せる場合には、自分の考えと明確に区別するために、出典を明示することが必要です。出典が明示されていない不適切なレポートや論文は剽窃や盗用と判断され、不正行為として処分の対象となります。

以下に重要なポイントを挙げておきます。

1. 自分の意見や考えとそれ以外の部分を明確に分ける。
2. 他人の文章や見解など参照・引用する場合は必ず出典（文献名と著者およびページ、ウェブサイトの場合には URL とページタイトル、およびその取得日）を明らかにする。
3. 文言を引用するときは、誤字も含めて一字一句正確に引用する。
4. 参考にした文献やウェブサイトがある場合には、2. と同様に必ず参考資料として（文献名、業者、ページ、ウェブサイトの場合には URL とページタイトル、およびその取得日）を記載する。
5. 出典の示し方はルールに従う（下記の文献も参照のこと）。

出典の示し方の一般的な方法については、以下の参考書やチュートリアルなどで学んでください。

佐藤望、湯川武、横山千晶、近藤明彦著『アカデミック・スキルズ（第3版）—大学生のための知的技法入門』（慶應義塾大学出版会、2020年）

河野哲也著『レポート・論文の書き方入門（第4版）』（慶應義塾大学出版会、2018年）

情報リテラシーのためのウェブチュートリアルシステム『KITIE』（慶應義塾大学日吉メディアセンター、2022年）

<https://www2.lib.keio.ac.jp/project/kitie/>

ChatGPT 等生成 AI の使用について

各授業科目において、学部・研究科や担当教員が生成 AI の利用を奨励もしくは許可する場合には、当該教員等が示す方針のもとで適正に活用してください。ただし、生成 AI を利用してレポート等を作成した場合には、その旨を明記する必要があります。

なお、生成 AI の利用は他者の力を借りることと同じ意味を持ちます。各授業科目における課題や試験等に関して、独力で取り組むことが求められている場合には、生成 AI を利用することは認められません。

参考：慶應義塾における生成 AI の利用ガイドライン（情報センター）
https://www.itc.keio.ac.jp/ja/software_ai_guideline.html



7 試験における不正行為の取り扱いに関する文学部内規

【第 1 条（不正行為の報告）】

本学部学生に関する試験において、不正行為があったときは、監督者は学生部学事担当に報告し、学生部学事担当は学習指導主任にこれを報告しなければならない。学習指導主任は、直ちに学部長に報告しなければならない。

【第 2 条（処分案作成）】

前条の報告をうけた学部長は、速やかに執行部会議を召集し、不正行為の処分案を作成する。処分案作成に際しては当該学生の事情聴取を原則とする。また、必要に応じて、関係者の出席を求めその意見を徴することができる。

【第 3 条（処分の決定）】

執行部会議は処分案を運営委員会に提出し、運営委員会は学則第 188 条により、その処分の決定を行う。

【第 4 条（処分通知および報告）】

運営委員会が処分を決定したときは、学部長は、直ちに該当学生およびその保証人に処分の内容を通知しなければならない。

8 「成績評語に関する質問制度」について

(1) 制度対象

①対象学生

文学部に所属する学生で、成績評語に対して疑義があり、確固たる根拠をもって問い合わせたいと考える者（これは成績変更を嘆願する制度ではありません）

②対象科目・評語

履修するすべての科目のすべての評語

(2) 対象科目・期間

対象科目	質問制度手続期間
春学期前半科目（4 学期制）	2026 年 6 月 24 日(水)～6 月 25 日(木) 16:45
春学期後半科目（4 学期制） および春学期科目で春学期に成績評語が出た科目	2026 年 9 月 4 日(金)～9 月 8 日(火) 16:45
秋学期前半科目（4 学期制）	2026 年 12 月 14 日(月)～12 月 15 日(火) 16:45
秋学期後半科目（4 学期制） および秋学期科目で秋学期に成績評語が出た科目	2027 年 3 月 10 日(水)～3 月 12 日(金) 16:45

※申請方法等の詳細は K-Support で案内します。

(3) その他

①条件を満たしている場合のみ科目担当教員へ送付し、回答があった場合返信いたします。なお、担当教員への回答の催促は一切行いません。また、回答に関する問い合わせは一切受け付けません。

②手続期間を過ぎたものは一切受け付けません。

③当該科目の最終授業（試験を実施する場合には、その最終試験）終了時以降に、この質問制度を利用せずに、成績評語についてメールやその他の方法で担当教員に直接問い合わせることはできません。この場合は、不正行為とみなされ、学則第 188 条および文学部内規により厳しく処分されます。

1 休学(学部学則第152条)

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合は、学部学則第152条により、学部教授会の許可を得て休学することができます。文学部において、休学は学期もしくは1年を単位とし、休学期間は春学期4月1日～9月21日、秋学期9月22日～翌年3月31日、通年4月1日から翌年3月31日となります。休学期間は、在学可能な年数制限(学則第152条)や卒業に必要な在学期間(学則第44条)には算入されません。所定の書式は塾生サイト→各種手続き→休学・退学・就学(日吉文)からダウンロードできます。

【休学願】

休学希望者は、K-Supportの「申請」機能から詳細を確認の上、申請してください。なお、病気・怪我の場合は療養期間を記した医師による診断書、語学研修の場合は入学許可書の写し等の提出も必要です。申請後、学習指導との面接を行います。

2026年度 春学期・通年休学願提出期限 : 2026年5月29日(金) 16:45まで

2026年度 秋学期休学願提出期限 : 2026年11月30日(月) 16:45まで

ただし、長期療養を要する病気等により期限までに休学願が提出できなかった場合や、期限後の突発的な事故等により就学が不可能になった場合は、可能な限りすみやかに日吉学生部文学部担当に連絡してください。学習指導の承認により、休学願を申請することができます。

休学の相談があつてから、「休学願」の申請までには時間がかかることがありますので、早めに相談してください。また、仮に年度当初から休学を予定している場合であっても、履修申告は必ずしてください(ただし、前年度の教授会にて当該年度の休学が承認されている場合を除く)。

【休学期間前後の継続履修】

次の場合に、セット履修科目の継続履修を認めます。

- ・1年次の必修語学科目で、休学前に継続履修の許可を得ている場合(原則として同一担当者の科目)

【就学届】

休学期間終了後は速やかに、K-Supportの「申請」機能から「就学届」を申請してください。なお、病気を理由に休学していた場合は、医師の診断書を提出してください。

【休学期間の上限】

2023年度より学則第152条が改正されたことに伴い、以下のとおりとします。

- ① 休学期間の上限は、通算して4年(8学期)とします。ただし、編入者および再入学者の休学期間の上限については異なります。詳細は学生部文学部担当へ問い合わせてください。
- ② 上記の休学期間の通算に含むのは、2023年4月1日以降の休学とします(2022年度以前の休学は通算に含めません)。
- ③ 休学理由が「母国における兵役義務のため」と認められた場合、当該休学期間は上記の休学期間の通算には含めません。
- ④ 在学中の休学期間の通算が上限に達した場合、それ以降の休学は認められません(母国における兵役義務を理由とした休学を除く)。

2 留学(学部学則第153条)

【国外留学】の申請

留学希望先大学の入学許可を取得し「留学」を希望する学生は、K-Supportの「申請」機能から詳細を確認の上、申請してください。ただし、1年生での「留学」は認められていません。「留学」が許可されるためには、面接(2・3・4年生は専攻担任)のうえ、学部教授会の承認が必要です。留学希望先大学に正式な手続きを経て、正規生と同じ授業を受ける場合に限り「留学」として許可されます(語学学習のみの留学はこれに該当せず、休学対象になります)。

留学希望先の大学でオンライン授業が提供され、文学部でオンライン授業の履修を留学として認めた場合には、現地に渡航せずにオンライン留学が認められることがあります。

「留学」中の学業成果は、学部学則第153条により、復学後、所定の手続きを行えば、教授会において本学における単位として認められることがあります(本書p.92【留学に伴う単位認定】を参照)。

詳細は、国際センター発行の「留学の手引き」を参照のうえ、学生部国際担当および所属キャンパスの学生部窓口へ問い合わせてください。

【就学届】

留学期間が終了し再び学業に戻る場合は、K-Supportの「申請」機能から「就学届」を申請してください。

【留学期間前後の継続履修】

次の場合に、セット履修科目の継続履修を認めます。(1)文学部設置の専門教育科目で、原則として同一担当者のセット履修科目が、留学から帰国した年度も存在している場合。(2)2年次の必修語学科目で、留学前に継続履修の許可を得ている場合（原則として同一担当者の科目）。

【留学に伴う単位認定】

30単位を超えない範囲で、学部学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は「留学に伴う単位申請書」に成績証明書と講義要綱等を添付して学生部へ提出してください。

認定手続は以下の通りです。

- (1) 認定される科目は原則として三田文学部設置**専門教育科目及び必修語学科目**に限ります。
 - (2) 各科目については、以下のとおり内容確認を依頼した上で、認定処理担当教員欄に承認印を受けてください。
 - ①所属専攻設置科目⇒所属専攻専攻担任
 - ②他専攻設置科目⇒各専攻の専攻担任
 - ③専攻に属しない文学部設置科目(必修語学科目を含む)⇒学習指導主任
 - ④他学部の科目⇒ 認定不可
- } 所属専攻以外の認定処理が全て完了してから、所属専攻担任が最終確認を行います。

【留学・休学の取り扱いについて】

		留 学		休 学	
種類		教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合。「交換留学」・「私費留学」の2つの区別があります。		・語学研修（その他左記の「留学」と認定されない海外研修など） ・病気による休学（医師の診断書を添付してください） ・一身上の都合による休学	
申請期間	申請期間	「留学」の開始日から半年以上1年まで。 「留学」は年度途中で開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2026.9.22～2027.9.21		通年もしくは学期単位。 通年（4月1日～翌年3月31日）、 春学期（4月1日～9月21日）、 秋学期（9月22日～翌年3月31日） *休学の期間は在学期間に算入されません。 *複数年度・学期にわたって休学する場合は、新年度・学期用に再度休学願を申請してください。 *休学願の提出締切は春学期・通年休学は5月末の所定日、秋学期休学は11月末の所定日です。	
	延長・上限	1回可能（最長で留学開始日から2年間まで） それ以降は「休学」の申請が必要です。 *「留学」を延長する場合は、「国外留学申請書（延長）」を提出してください。		留学の延長が出来ない場合（左記の延長期間を過ぎても留学継続を希望する場合など）の休学期間は、直近の留学申請期間終了日翌日より当該学期末もしくは年度末まで。 休学期間の上限は通算して4年（8学期）とします。詳細はp.91の「1休学」の項を確認してください。	
学費減免措置		入学1年目	入学2年目以降	入学1年目	入学2年目以降
		私費留学	各学期において授業料・施設設備費・実験実習費の全額を減免します。納付が必要な費用は在籍基本料および代理徴収費用（研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等）となります。減免される期間は、最長4学期まで（交換留学・ダブルディグリーの場合含む）。	本大学での学習を奨励するため、入学1年目の休学については、学費は減免されません。ただし、兵役、正課・課外活動中の事故による傷害、地震・台風等の大規模な自然災害（激甚災害）の影響の場合は授業料・施設設備費・実験実習費が減免されることがあります。	各学期において授業料・施設設備費・実験実習費の全額を減免します。納付が必要な費用は在籍基本料および代理徴収費用（研究会費・自治会費・学生健康保険互助組合費等）となります。
単位取得・認定	休学・留学期間をはさむ履修	年度途中で「留学」する場合は、以下の場合に「留学」前に履修申告をした通年科目またはセット履修科目を「留学」後継続履修し、単位取得することが可能です。必ず「留学」前に各科目担当者へ、「留学」終了後に継続して履修する意志があることを伝えてください。 <継続履修が可能な科目> ①文学部設置の専門教育科目で、同一担当者の通年・セット履修科目が当年度も存在している場合。ただし、同一担当者の授業が開講されていない場合は、講義内容等を勘案の上、科目担当者および専攻担当が承認した場合に継続履修を認める場合がある。 ②2年次の必修語学科目で、留学前に継続履修の許可を得ている場合。原則として同一担当者の科目とするが、当年度に同一担当者の授業が開講されていない等の理由で履修できない場合は、異なる担当者の科目でも可とする（必修語学の継続履修を希望する場合は、留学前および留学後に所定の申請書を学生部に提出してください。提出がない場合は、継続履修は認められません）。 ※総合教育科目は継続履修できません。ただし、外国語教育研究センター「特設科目」(I)(II)科目は、この限りではありません。 ※教職課程センター設置科目については、継続履修が認められる場合があります。教職課程センター窓口にて確認してください。		秋学期および翌年度春学期に休学した場合、左記の留学による継続履修の取扱いに準じて、1年次の必修語学科目について継続履修が認められます。詳細は学生部窓口で確認してください。 通年休学を申請した場合は、当該年度の春学期に取得済みの科目があっても全て無効となります。また半期休学を申請した場合でも、セット履修科目の成績は春・秋ともに無効となります。	
	単位認定	30単位を超えない範囲で、学部学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は、就学後学生部で所定の用紙を受け取り、すみやかに提出してください。なお、認定される科目は三田文学部設置専門教育科目及び必修語学科目に限ります（総合教育科目は含まれません）。		単位認定制度はありません。	
就学後	速やかに、K-Supportの「申請」機能から「就学届」を申請してください。なお、就学後の行事日程については、塾生サイト等を参照してください。		速やかに、K-Supportの「申請」機能から「就学届」を申請してください。（病気による休学については、医師による病気が回復した旨の診断書を提出してください）。なお、就学後の行事日程については、塾生サイト等を参照してください。		
在学年数	「留学」の期間は1年間に限り在学年数に算入することができます。希望者は留学前に専攻担任と相談の上、「留学」終了後、必要な書類をそろえて学生部窓口に出してください。		「休学」の期間は在学年数に算入されません。		
進級・卒業	「留学」終了後の学年について 留学終了後の学年は、原則として留学開始前の学年と同じです（原級に留まります）。 ただし、専攻によっては在学期間算入および単位認定等により進級条件を満たせば、4月に遡って進級できる場合があります。専攻内規を確認の上、必ず留学前に専攻担任と相談してください。なお、4年生での留学は必ず原級に留まります（留学終了後に、3月に遡って卒業資格を得ることはありません）。		進級・卒業の時期は年度末です。進級・卒業のためには、各学年・専攻における進級・卒業条件を満たすとともに、各学年において2学期以上在学することが必要です。第1～3学年では進級条件を充足し各学年2学期以上在学すれば秋学期に休学していても当該年末に進級できます。しかし、第4学年については、秋学期休学の場合には当該年度末に卒業することはできません。		

※学費減免措置は、適用される学費体系によって必要な手続・書類が異なります（第2学年編入・学士入学・再入学の場合は在籍学年にかかわらず、入学年度は入学1年目として扱われます）。

減免を受けるための手続き等の詳細については、日吉学生部所属窓口で確認してください。

学費の詳細および金額については、「慶應義塾ウェブサイト」→「入学案内」→「学費」ページを確認してください。

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/fees/>

なお、留学・休学中も、本大学の学事・学生生活支援、図書館、情報環境等に関する諸サービスの利用が可能であるため、在籍基本料は減免の対象となりません（交換留学のうち、学費の相互免除が含まれないものを除く）。



3 退学(学部学則第154条)

【退学届】

事情により退学する場合は、所定の「退学届」用紙に退学の理由を具体的に明記し、本人・保証人連署、捺印(本人・保証人個々の印を使用)のうえ、学生証を添付して所属キャンパスの学生部へ提出してください。学習指導と面接のうえ、用紙に署名・捺印を受けてください。詳細は日吉学生部文学部担当に相談してください。

【退学年月日】

- (1) 退学年月日は、学費納入済みの学期末以前の本人の希望日を定めることができます。
- (2) 退学年月日が3月31日の場合、当該年度に取得した成績および当該年度の在籍は有効となります。
- (3) 退学年月日が4月1日以降9月20日以前の場合、当該年度に取得した成績および当該年度の在籍は無効となります。
- (4) 退学年月日が9月21日以降3月30日以前の場合、春学期に取得した成績(セット履修科目以外)および春学期の在籍は有効となります。秋学期に取得した成績(セット履修科目も含む)および秋学期の在籍は無効となります。
- (5) 学費未納の場合、退学年月日は学費納入済みの学期末日まで遡及します(学部学則第171条第2項)。退学後に完納した場合でも、無効となった在籍および成績は有効にはなりません。

【学則第152条抜粋】

- ⑥休学期間は、在学年数に算入しない。
- ⑦休学期間は、通算して4年(医学部、理工学部および薬学部薬学科では6年)を超えることはできない。ただし、医学部では、特別の事情ある者については、教授会が休学期間の上限を別に定めることがある。
- ⑧休学の事由が母国における兵役義務による場合、前項に定める休学期間の通算に含めないものとする。
- ⑨本条第7項に定める休学期間の上限を経過してもなお就学しない場合、退学させる。

【学則第156条】

- ①同一学年に2年在学し、なお進級し得ない者または同一学部に8年(医学部および薬学部薬学科では12年)在学し卒業し得ない者は退学させる。
- ②前項の規定にかかわらず、文学部、商学部、理工学部および看護医療学部では、第1学年および第2学年併せて4年在学し当該年度末に第3学年に進級し得ない者、第3学年および第4学年併せて4年在学し当該年度末に卒業し得ない者は退学させる。経済学部、法学部、総合政策学部および環境情報学部では、第1学年および第2学年併せて4年在学し第3学年に進級し得ない者、第3学年および第4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は退学させる。医学部では、第1学年および第2学年併せて4年在学し第3学年に進級し得ない者、第3学年および第4学年併せて4年在学し第5学年に進級し得ない者、第5学年および第6学年併せて4年在学し卒業し得ない者は退学させる。薬学部では、同一学年に2年在学し当該年度末に進級および卒業し得ない者は退学させる。

【学則第156条適用に関する注意】

この度学則が改正され、この学則第156条は2013年度第1学年在籍者より適用されます。
在学年数の扱いは次の通りです。

- (1) 第1学年、第2学年
第1学年および第2学年併せて4年間在学することができる。
ただし、半期休学をした者で、学年末において第1学年・第2学年の通算在学年数が3.5年の者が原級となった場合、翌年度末までの在学が認められる。
- (2) 第3学年、第4学年
第3学年および第4学年併せて計4年間在学することができる。
ただし、半期休学をした者で、学年末において第3学年・第4学年の通算在学年数が3.5年の者が原級となった場合、翌年度末までの在学が認められる。

【学則第171条抜粋】

在籍基本料、授業料その他必要諸経費を所定の期日までに納入しないときは、退学させることがある。

【学則第188条】

この学則若しくは、これに基づいて定められた学内諸規則に違反し、または学業を怠り、気品を害ね、その他学生としての本分にもとる行為のあった者については、懲戒として情状により譴責・減点・停学または退学の処分をする。ただし、懲戒退学は、次の各号の一つに該当する者に対してのみ、これを命ずるものとする。

- 1 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 2 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 3 正当な理由がなくて出席常でない者
- 4 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 再入学

【学則第 155 条】

退学した者が再入学しようとする場合には、事情を考慮した上で原級に編入することがある。

※再入学にあたっては、入学考査料および入学金の支払が必要です。「再入学を伴う退学」が承認されても、無条件で再入学が認められることにはなりません。

【学則第 155 条に関する文学部での取り扱い】

退学年月日は従来通り学費が納入された時期までとする（全納の場合 3 月 31 日、春学期までの場合は 9 月 21 日）。

- (1) 正当な理由で一時的に就学が困難で、かつ現在の休学制度の適用を受けることができない学生に関して、再入学を認める。
- (2) 再入学の可能性が認められる退学であるかどうかを日吉主任および学習指導が面接のうえ判断し、教授会の承認を得ておくことを条件とする。
- (3) 再入学の願いが出された時点で、再度面接の上、教授会の承認を得て、再入学を認める。
- (4) 以下の場合、再入学を認めない。
 - ①学則 156 条、171 条、および 188 条による退学
 - ②再入学を認める退学が承認された教授会から 1 年以内もしくは 10 年以上経過しての再入学願
- (5) 再入学を希望する場合、原則として再入学希望年度の前年度の 12 月末（ただし学生部開室日に限る）までに申し出ることにする。
- (6) 再入学後の取り扱い
 - ①退学時の原級に復学するのを原則とするが、復学と同時に上級学年への進級条件を充たす場合には、上級学年に復学するものとする。
 - ②再入学した時点での学則を適用する。
 - ③退学する以前に修得した単位は学則に照らして原則として全て認める。
 - ④退学時における在学年数はそのまま加算する。
- (7) 施行期日平成 14 年 4 月 1 日

平成 13 年度までに既に退学している学生に関しては、この運用内規は適用されない。

※文学部において、退学後再入学を希望する場合には、退学時点における教授会の承認が必要となります。具体的な手続きに関しては、学習指導および専攻担任に問い合わせてください。

重要

※申請方法が変更となった場合は、K-Support、塾生サイト等に掲載されますので、必ず確認してください。

1 学生証

(1) 学生証は、諸君が本大学学生であることを証明する身分証明書です。学生証は以下の役割も兼ねています。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。

- ①慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証
- ②本塾メディアセンター入館証

【学籍番号】が学生証表面と在籍確認シール（裏面シール）に記載されています。この番号は学生一人につき一つずつ付番されている大切な固有番号です。

(2) 学生証は他人に貸与または譲渡することはできません。

(3) 学生証は「カード」「在籍確認シール」「カードケース」の3点で1セットです。「カード」の裏面に「在籍確認シール」を貼り「カードケース」に必ず入れて携帯してください。「カード」は卒業するまで同じものを使います。勝手にシールをはがさないようにしてください。なお、在籍確認シールが裏面に貼付されていないカードは無効です。

※定期券、銀行カード、スマートフォンなどと一緒になると磁気破損の原因になりますので注意してください。

(4) 学生証は次のような場合に必要となります。

- ①定期試験のほか各種試験を受験する場合
- ②通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車・乗船した際に係員から提示請求があった場合
- ③卒業証書を受け取る場合
- ④本塾教職員から提示請求があった場合

(5) 再交付

学生証を紛失、汚損した場合は、K-Support「申請」→「学生証再交付」から、速やかに手続を行ってください（URL およびログイン方法は p. 6 参照）。不備がなければ申請は通常、数日で承認されます。承認されると、慶應メール（@keio.jp）のメールアドレスに承認通知が届きます。手数料の支払いが発生する場合、承認通知の案内に従い支払手続を行ってください。手続完了後、慶應メール（@keio.jp）のメールアドレスに再交付の案内を送付します。日吉学生部総合受付にて学生証の再交付を受けてください。

—必要書類

（顔写真の変更を希望する場合のみ）証明書用写真：高さ 284px 幅 237px（高さ 24mm 幅 20mm）以上の鮮明なカラー画像（JPEG 形式）、脱帽、上半身正面、白・青またはグレーを基調とした無地の背景（風景やカーテンなどの背景は不可）、3ヶ月以内に撮影されたもの、写真加工アプリ等を用いて画像に修正を施したものは不可

再交付理由	手数料
カードの紛失または破損	2,000 円
改姓名、磁気ストライプ・IC チップの破損（カードに見かけ上の破損がない場合）	無料

(6) 在籍確認シール（学生証裏面シール）

年度ごとのシール更新は行いません。休学・留学・原級等の理由で、シールの有効期限が切れる学生には、有効期限が切れる前に、有効期限を更新したシールを配布します。シールを紛失した場合は、日吉学生部総合受付で再交付を申請してください。

(7) 学生証の返却

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合、また、退学等で離籍した場合は、ただちに日吉学生部総合受付へ返却してください。

2 住所変更（本人・保証人）

(1) 本人の住所変更の場合

K-Support「申請」→「住所確認・変更（本人・保証人）」から、速やかに変更手続を行ってください（URL およびログイン方法は p. 6 参照）。電話番号の変更の場合もこちらから手続を行ってください。不備がなければ、申請は通常、数日で承認されます。承認されると、慶應メール（@keio.jp）のメールアドレスに承認通知が届きます。変更項目が電話番号やメールアドレスだけの場合、通知メールは送信されません。

通学定期の区間が変更となる場合は、承認通知のメールが届いた翌朝 7:00 以降に、証明書発行サービスで通学証明書を申請してください。

日本国外の住所を登録、変更する場合は、K-Support「申請」→「海外住所登録（本人）」から申請してください。

(2) 保証人の住所変更の場合

K-Support「申請」→「住所確認・変更（本人・保証人）」から、速やかに変更手続きを行ってください。電話番号の変更の場合はこちらから手続きを行ってください。

日本国外の住所を登録、変更、削除する場合は、K-Support「申請」→「海外住所登録（保証人）」から申請してください。

これらの手続きが行われない場合は、履修その他の重要な連絡に重大な支障をきたすことがありますので、十分注意してください。

3 保証人変更

保証人を変更する場合は、K-Support「申請」→「保証人変更」から、速やかに変更手続きを行ってください（URLおよびログイン方法は p. 6 参照）。保証人は原則として日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。なお、国内に居住する者が保証人となり得ない場合は、国外に居住する者を保証人とすることができます。ただし、この場合は、本人に緊急事態が発生した場合の連絡先として、日本国内の住所を必ず K-Support「申請」→「国内緊急連絡先」から届け出てください。国内緊急連絡先は、緊急時に速やかに連絡がつくことをその要件とします。

4 改姓・改名（本人・保証人）

改姓・改名した場合は、K-Support「申請」→「改姓改名（本人）」「改姓改名（保証人）」から、速やかに変更手続きを行ってください（URLおよびログイン方法は p. 6 参照）。

一必要書類

新姓名の戸籍謄本または抄本（3ヶ月以内に発行のもの）、もしくは旧姓併記の住民票（3ヶ月以内に発行、マイナンバーの記載がないもの）／旧姓併記の運転免許証（有効期限内、日本国内発行のもの）／旧姓併記のマイナンバーカード（有効期限内、表面のみ、但し通知カードは不可）

5 国籍変更

国籍を変更した場合は、速やかに日吉学生部総合受付へ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

一必要書類

学生証、戸籍謄本または抄本や住民票等の国籍変更が確認できる公的な証明書（必要な情報が記載されていることをあらかじめ発行元に確認してください）

6 通学証明書（通学定期券の購入）

以下の手順で、紙の「通学証明書」をあらかじめ発行してから、通学定期券を購入してください。

- ① 証明書発行サービス（「塾生サイト」→「各種手続き」→「証明書」→「証明書の発行」からアクセス）にログインし、「通学証明書」を申請する。
- ② コンビニエンスストア、もしくは学内証明書発行機で「通学証明書」を印刷する。
- ③ 通学証明書に通学区間等を記入し、学生証持参の上、駅窓口等にて通学証明書を提出して通学定期券を購入する。
 ※「通学証明書」の発行手数料は無料ですが、コンビニエンスストアで印刷する場合、印刷料金が60円かかります。
 ※通学区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅（日吉）」の最も経済的な経路に限ります（バス利用の場合は最寄りの停留所）。不正が判明した場合、通学証明書の発行を停止したり、学則に基づき処分することがあります。
 ※自宅住所を変更する場合、K-Support「住所確認・変更」にて、住所変更の申請を行ってください。通学証明書に新住所が反映されるのは、住所変更の承認通知メールが届いた翌朝7:00以降です。

なお、授業科目履修のために所属以外のキャンパスに通学するための手続についても証明書発行サービスで行ってください。詳しくは「塾生サイト」を確認してください。

7 証明書(成績証明書・学割証等)

(1) 発行方法

各キャンパスの証明書発行機、もしくは全国のコンビニエンスストアにて証明書を発行できます。また、電子証明書(PDF)のダウンロードリンクを直接送付するオンライン送付機能もあります。

詳細は塾生サイト (<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/certificate/issue.html>) を確認してください。



① コンビニエンスストアでの発行

全国のコンビニエンスストア(セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン)にて、各種証明書を発行できます。発行には事前の申請・手数料の支払いが必要です。

※学割証はコンビニエンスストアで発行できません。証明書発行機を利用してください。

② 証明書発行機での発行

設置場所	稼働時間
第4校舎B棟1階 中央連絡通路脇	月曜日～土曜日 8:45～20:00(授業期間)

※授業・定期試験のない土曜日、また祝日・一斉休業期間・システムメンテナンス中は利用できません。

※他キャンパス(三田・矢上・湘南藤沢)に設置されている発行機も利用できます。稼働日・稼働時間は状況により変更となる場合がありますので、利用に際しては、必ず塾生サイト等で確認してください。

※メンテナンス・故障等による利用停止情報等は、随時Web等でお知らせします。

③ 電子証明書(PDF)のオンライン送付

電子証明書(証明書のPDFデータ)のダウンロードリンクを指定のアドレス(就職先企業、海外の教育機関等)宛に直接送付する機能です。詳細は塾生サイト (<https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/certificate/issue.html>) で確認してください。



(2) 証明書の厳封

厳封を希望する場合は、K-Support「申請」→「証明書発行(厳封・特殊証明書等)」から申請してください(URLおよびログイン方法はp.6参照)。証明書発行機・コンビニエンスストアで発行された証明書を後から厳封することはできません。

(3) 代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に来ることが困難な場合(留学中、入院中等)に限り受け付けます。日吉学生部総合受付で申し込んでください。

必要書類

本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

※委任状には特に所定の書式はありませんが、例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

【例】委任状

私「(本人氏名)」は、「(代理人氏名)」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20XX年〇月△日・本人署名・捺印

※身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、運転免許証、パスポート、マイナンバーカード(有効期限内、表面のみ、但し通知カードは不可)、在留カードを原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

(4) 証明書一覧

証明書	言語	手数料	発行場所	発行日数	発行開始日	備考
在学証明書	和文	300円	学内発行機 コンビニ オンライン	即日	4月1日	
	英文					
成績証明書	和文	300円	学内発行機 コンビニ オンライン	即日	4月1日	当該学期の成績が証明書に反映される時期は翌学期となります(学部によっては春学期の成績が翌年度に反映されます)。
	英文					
卒業見込証明書	和文	300円	学内発行機 コンビニ オンライン	即日	4月1日	最終学年のみ発行されます。
	英文					
履修科目証明書	和文	300円	学内発行機 コンビニ オンライン	即日	春学期:5月2日 秋学期:10月25日	
	英文					
健康診断証明書	和文	300円	学内発行機 コンビニ オンライン	即日	6月12日	受診した年度の年度末まで発行されます。
	英文					
学割証	和文	無料	学内発行機	即日	4月1日	
所属地区通学証明書	和文	無料	学内発行機 コンビニ	即日	3月23日	入学者は入学日以降発行可能です。例:2026年4月入学者は4月1日より発行可能です。
他地区通学証明書	和文	無料	学内発行機 コンビニ	即日	春学期:4月8日 秋学期:10月1日	授業科目履修のために所属以外のキャンパスに通学するための通学定期券を購入する際に必要な証明書です。詳細は塾生サイト(https://www.students.keio.ac.jp/com/procedure/pass/)を確認してください。
提出先所定の用紙(リクエストフォーム)に証明・記入を要するもの、その他	和文 英文	300円	窓口	数日	—	K-Support「申請」→「証明書発行(厳封・特殊証明書等)」から申請してください。

※窓口での証明書発行・受け取りには、学生証が必要です。

※発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕をもって申請してください。

※学割証の有効期限は発行日から3ヶ月以内です(有効期間内でも学籍を失った場合は無効)。必要な枚数だけ発行するようにしてください。

※団体旅行申込書(団体割引)を発行する場合は、学生生活支援担当に申し出てください。

※前学期まで学費未納の場合は、すべての証明書が発行できません。納入後、所属学部窓口にて財務部発行「授業料納入確認書」を持参のうえ、申し出ることによって発行が可能です。発行まで数日を要する場合があります。

8 学生部の窓口

(1) 学生部事務取り扱い時間

①授業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金……8時45分～16時45分

〔 なお、各学部・研究科に関する電話による相談・問い合わせは、次の時間帯をお願いします。〕
8時30分～17時00分

②休校期間中は次のとおり取り扱います。

月～金……8時45分～11時30分、12時30分～16時45分

※土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

※事務室取扱時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

(2) 学生部学事担当窓口業務

①学籍・成績・履修に関すること

②授業・試験・レポート等に関すること

③時間割に関すること

④休講・補講に関すること

⑤休学願・退学届・住所変更届・保証人変更届等

⑥学生証の発行

⑦成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）

⑧公認会計士等受験のための単位取得証明書の発行

⑨教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生部学生生活担当で行います）

⑩通学証明書の発行

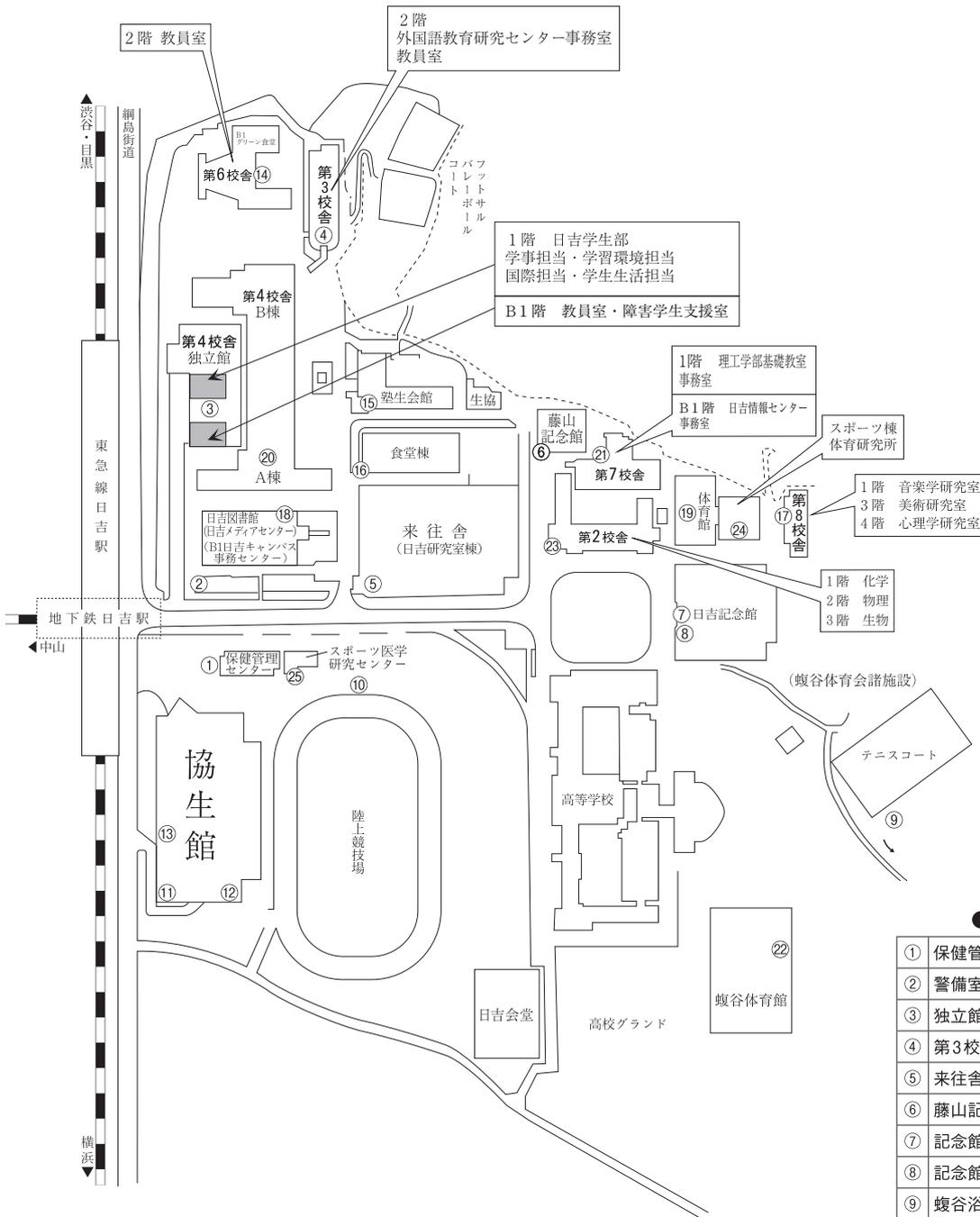
落とし物は学生部学生生活担当が取り扱います。

9 よくある質問

[1年生]

KeyWord		質問	回答
科目	他学部科目	他学部の科目を履修したいのですが、各時間割・講義要綱はどこにありますか？	塾生サイトで確認することができます。学生部各窓口にもあります。
		単位の扱いは？	文学部時間割か「教授会の認める科目」リストにない科目は、すべて自由科目になります。
	抽選科目	抽選で発表された授業を取り消すことはできますか？	定められた履修登録取消期間に取消することができます。詳細は本書 p. 14「履修登録取消制度」を参照してください。
		追加履修できますか？	一次申告時に定員に達した科目は追加できません。二次申告期間中、Webシステム上で選択可能な科目が追加可能な科目です。
	三田設置科目	三田には総合教育科目はありますか。	あります。ただし科目数は非常に少ないので、卒業に必要な単位はできるだけ1年生で修得することをすすめます。
		三田設置の科目は取れますか？	2年生以降の科目を1年生で履修することはできません。
	同じ科目名	同じ名称の科目を複数履修できますか？	できます。ただし、2つ目以降は自由科目として履修してください(必修語学、体育科目を除く)。
科目重複	クラス指定の科目と、英語の選択クラス・基礎情報処理の科目が重なってしまった場合どうしたらいいですか。	至急学生部文学部窓口申し出てください。	
語学	語種変更	必修語学の語種を変更できますか？	できません。ただし、留学生については特別な場合に変更が認められることがあります。
	クラス変更	クラス指定を変更できますか？	できません。ただし、4月の履修申告前であれば、中級上級クラスへの変更はこの限りではありません。レベルの変更は各語種専任教員に相談してください。
	英語インテンシブ IA・IIA/IB・IIB フランス語 インテンシブ I・II	インテンシブは必修になりますか？	なりません。総合教育科目の系列外です。
単位	履修	履修申告は何単位までできますか？	文学部生の年間履修単位の上限は48単位です。累積GPAが3.0以上である、もしくは教職課程/文学部における資格取得に関する登録を行っている学生は、この上限にかかわらず自由科目を履修することが認められています。上記の条件を満たしていない学生は、履修単位数が50単位を超過する場合、学習指導面談の上で履修の見直しを行うことがあります。 なお、年間履修単位上限は、取得単位数(合格科目のみ)の上限ではなく、履修単位数の上限を指します。特に秋学期は、春学期に不合格になった科目も含め、48単位以内に収まるように履修申告する必要があるので注意してください。
	科目	各科目の単位数が分かりません。	文学部1年生の科目は、『履修案内』(本書)に掲載されています。塾生サイトでも確認できます。
		卒業に必要な総合教育科目の単位は？	総単位数は38単位、人文・社会・自然科学系列科目で各8単位以上が必要です。
	進級/卒業	系列外科目を履修しなくても良いですか？	はい。38単位すべてを人文・社会・自然科学系列科目で充足することも可能です。
授業関係	授業	履修申告期間に授業はありますか？	一次申告期間中はありますが、二次申告期間中は授業がありません。履修申告をしている、あるいは履修追加を予定している科目の授業に出席してください。
		追加履修までの間に授業はありますか？	あります。履修追加を予定している科目の授業にはすべて出席してください。

【日吉校舎案内】



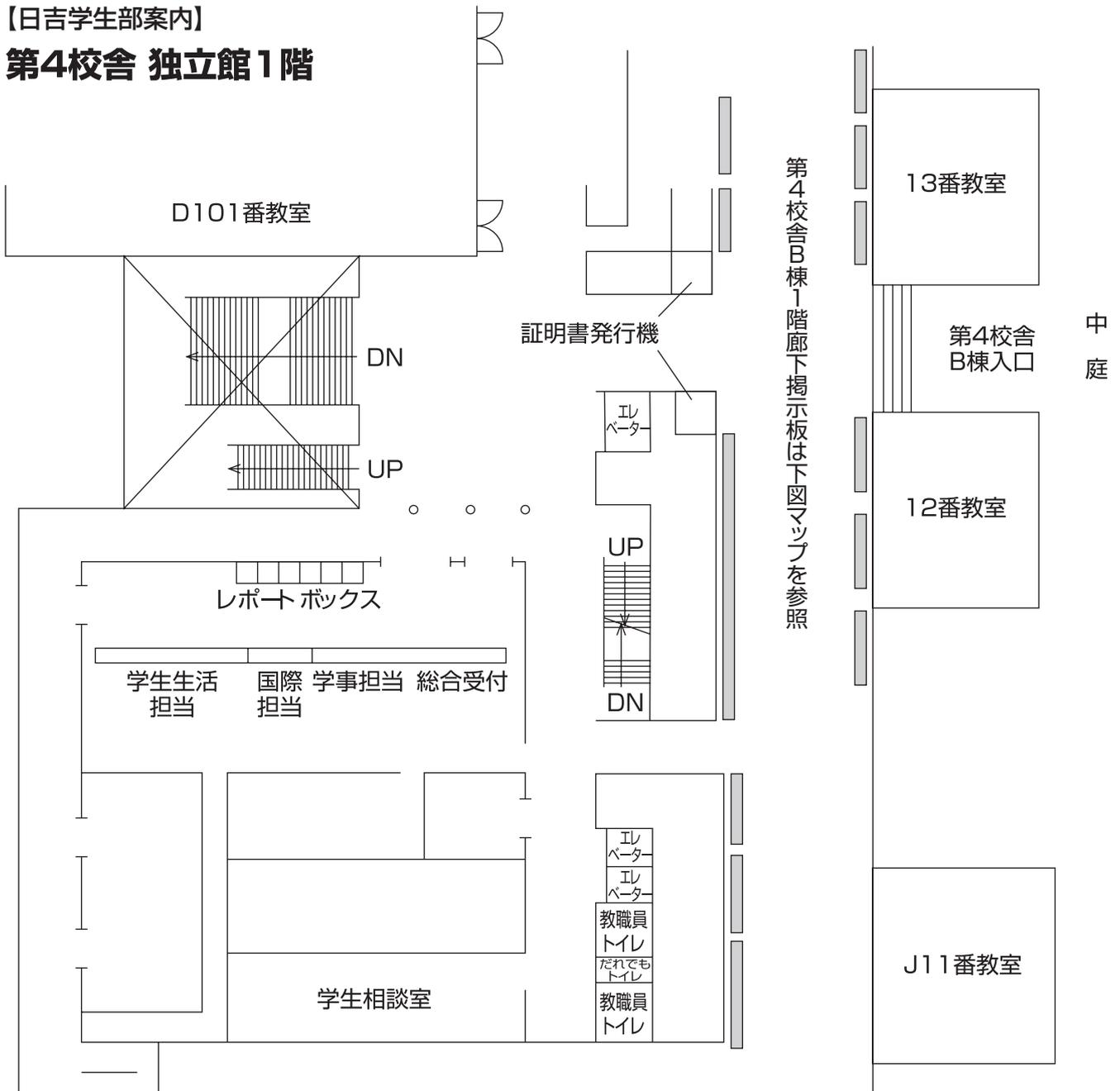
●AED設置場所

①	保健管理センター内
②	警備室
③	独立館1階 学生部前
④	第3校舎2階 ホール
⑤	来往舎1階 事務室前
⑥	藤山記念館1階 階段脇
⑦	記念館1階 ホワイエ
⑧	記念館地下1階 アリーナ
⑨	蝮谷浴室棟 男子シャワー室前
⑩	陸上競技場附属施設棟1階
⑪	協生館1階 防災センター
⑫	協生館地下大学体育施設 入口
⑬	協生館7階 エレベーター前ホール
⑭	第6校舎1階 玄関ホール
⑮	塾生会館1階 (課外施設棟)
⑯	食堂棟塾生広場 (中庭) 側入口
⑰	第8校舎1階 風除室
⑱	図書館 (メディア) 1階 受付カウンター
⑲	体育館 (柔道場) 記念館別館入口
⑳	第4校舎A棟1階 玄関ホール
㉑	第7校舎1階 正面玄関
㉒	蝮谷体育館 玄関
㉓	第2校舎1階 玄関風除室
㉔	スポーツ棟 玄関風除室
㉕	スポーツ医学研究センター

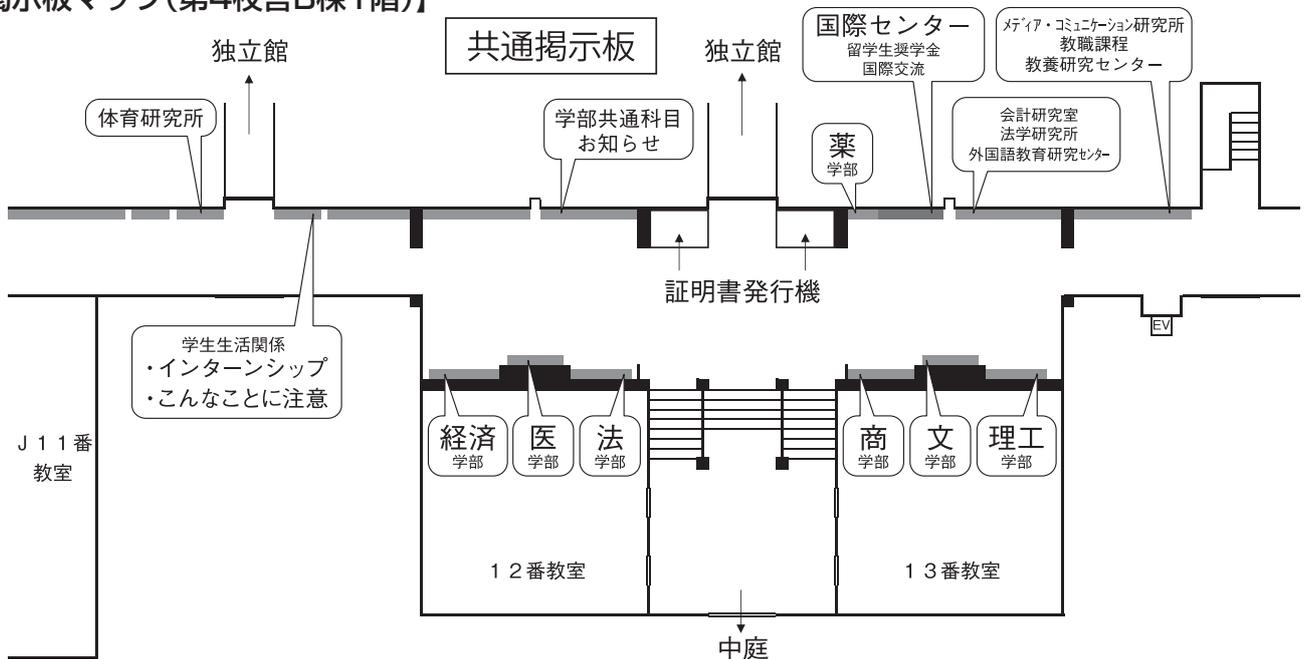
2026年4月現在

【日吉学生部案内】

第4校舎 独立館1階



【掲示板マップ(第4校舎B棟1階)】



個人情報の取扱いについて

慶應義塾では個人情報の取扱いに際して「慶應義塾個人情報保護基本方針」および「慶應義塾個人情報保護規程」を遵守し、適正かつ安全に管理します。

出願、入学手続ならびに入学後にお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報は、慶應義塾各部門におきまして、「慶應義塾大学における学生等の個人情報の取扱い」に記載されている利用目的の範囲において適切に管理・利用いたします。

なお、学生の学業成績表は保証人にも開示いたします。これは、学生の自律性を尊重しつつも、保証人の方に学生の学修状況をご理解いただきたいからにほかなりません。

- ・ 慶應義塾個人情報保護基本方針および保護規程

<https://www.keio.ac.jp/ja/privacy-policy/>



- ・ 慶應義塾大学における学生等の個人情報の取扱い

<https://www.keio.ac.jp/ja/assets/download/privacy-policy/index/students-pip.pdf>



文学部	人文社会学科 1 学年	組
学籍番号		
氏名		